岐阜県文化財保護センター
調査報告書　第155集

随縁寺裏Ｂ地点遺跡Ⅱ

２０２２
岐阜県文化財保護センター

随縁寺裏Ｂ地点遺跡Ⅱ

２０２２

岐阜県文化財保護センター

序

岐阜県北部の飛騨地域は、豊かな山林と山あいを流れる数々の清流によって育まれた美しい自然のなかにあります。飛騨地域は岐阜県の中でも北陸や中部高地との関わりが深く、古くから各地との交流を盛んにもちつつ豊かな文化を育み続けてきました。遺跡の所在する高山盆地北西部は、牧ケ洞断層などの影響で南西から北東方向に直線的に伸びる丘陵が特徴的であり、眼下に川上川が流れ、市街から続く宮川との合流点も望むことができます。

このたび、国土交通省中部地方整備局高山国道事務所による中部縦貫自動車道高山清見道路事業に伴い、高山市上切町にある随縁寺裏Ｂ地点遺跡の発掘調査を実施しました。今回の調査では、掘立柱建物２棟などを確認することができ、中世に建てられたことが分かりました。また、自然流路からは、古墳時代前期から古代にかけての土師器や須恵器、灰釉陶器などの数多くの遺物を確認することができ、地域の歴史を考える上で貴重な資料を得ることができたと考えています。本報告書が埋蔵文化財に対する認識を深めるとともに、当地の歴史研究の一助となれば幸いです。

最後となりましたが、発掘調査及び出土遺物の整理・報告書作成に当たりまして、御支援・御協力をいただきました関係諸機関並びに関係者各位、高山市教育委員会、地元地区の皆様に深く感謝申し上げます。

令和４年３月

岐阜県文化財保護センター
所長　岡田　知也

例　言

1　本書は、岐阜県高山市上切町に所在する随縁寺裏Ｂ地点遺跡（岐阜県遺跡番号 21203-11313)の発掘調査報告書である。

2　本調査は、中部縦貫自動車道高山清見道路事業に伴うもので、国土交通省中部地方整備局から岐阜県が委託を受けた。発掘作業及び整理等作業は、岐阜県文化財保護センターが実施した。

3　発掘作業は平成 27 年度、整理等作業は令和２年度に実施した。

4　発掘作業及び整理等作業の担当は、本書第１章第２節に一括して掲載した。

5　本書の執筆は、第１章、第２章、第３章第１・２節は柳坪武志が行った。第３章第３節は三島誠・小林新平の所見をもとに中野真吾が行った。第４章は中野が行った。また、編集は柳坪・中野が行った。

6　発掘作業における現場管理、掘削、測量、景観写真撮影、出土遺物の洗浄・注記などの支援業務は、株式会社イビソクに委託して行った。整理等作業における作業管理、出土遺物の整理作業、挿図・写真図版作成などの支援業務は、橋本技術株式会社岐阜営業所に委託して行った。

7　遺物の写真撮影は、アートフォト右文に委託して行った。

8　発掘調査及び報告書の作成に当たって、次の方々や諸機関から御指導・御協力をいただいた。記して感謝の意を表する次第である（敬称略・五十音順）。

岩田修、岩田崇、近藤大典、田中彰、三好清超、渡邉博人、高山市教育委員会

9　本文中の方位は座標北であり、座標は国土交通省告示の平面直角座標系第Ⅶ系を使用する。

10　土層の色調は、小山正忠・竹原秀雄 2014『新版標準土色帖』（日本色研事業株式会社）による。

11　調査記録及び出土遺物は、岐阜県文化財保護センターで保管している。

目　次

序
例言
第１章　調査の経過
　第１節　調査に至る経緯……１
　第２節　調査の方法と経過……２
第２章　遺跡の環境
　第１節　地理的環境……５
　第２節　歴史的環境……６
第３章　調査の成果
　第１節　遺跡の基本層序……10
　第２節　遺構・遺物の概要……12
　第３節　遺構・遺物……16
　　発掘区図面割り図、発掘区全域図分割図、遺構一覧表、遺物観察表
第４章　総括
　第１節　掘立柱建物について……51
　第２節　土地利用の変遷……54
引用・参考文献……59
写真図版
報告書抄録

挿図目次

図１　遺跡位置図…… 1
図２　試掘・確認調査坑、本発掘調査範囲位置図 2
図３　発掘区地区割り図…… 2
図４　随縁寺裏Ｂ地点遺跡周辺の地形と地質…… 5
図５　周辺遺跡位置図…… 8
図６　基本層序の位置…… 10
図７　基本層序…… 11
図８　主要遺構配置図…… 13
図９　SB１遺構図（１）…… 17
図 10　SB１遺構図（２）…… 18
図 11　SB１遺構図（３）…… 19
図 12　SB２遺構図（１）…… 20
図 13　SB２遺構図（２）…… 21
図 14　SA１遺構図…… 22
図 15　SA２遺構図…… 22
図 16　SK・SD 遺構図…… 23
図 17　SD・NR 遺構図…… 25
図 18　SP・SK・SD 出土遺物…… 26
図 19　NR017 出土遺物（１）……27
図 20　NR017 出土遺物（２）……28
図 21　NR032 出土遺物（１）……29
図 22　NR032 出土遺物（２）……30
図 23　遺構外出土遺物（１）……32
図 24　遺構外出土遺物（２）……33
図 25　遺構外出土遺物（３）……34
図 26　発掘区図面割り図……35
図 27　発掘区全域図分割図（１）……36
図 28　発掘区全域図分割図（２）……37
図 29　発掘区全域図分割図（３）……38
図 30　発掘区全域図分割図（４）……39
図 31　発掘区全域図分割図（５）……40
図 32　発掘区全域図分割図（６）……41
図 33　SB１・SB２、SH１～SH７の配置……52
図 34　ZBⅡ発掘区と白山神社の位置……53
図 35　遺跡の立地……54
図 36　随縁寺裏Ｂ地点遺跡主要遺構配置図……56

表目次

表１　TP１出土遺物…… 2
表２　周辺の遺跡一覧…… 9
表３　検出遺構一覧表…… 12
表４　出土遺物一覧表…… 14
表５　石器類器種別数量表…… 15
表６　掘立柱建物一覧表…… 42
表７　掘立柱建物付属遺構一覧表（SB１）…… 42
表８　掘立柱建物付属遺構一覧表（SB２）…… 42
表９　柱穴列一覧表…… 42
表 10　柱穴列付属遺構一覧表（SA１）…… 42
表 11　柱穴列付属遺構一覧表（SA２）…… 43
表 12　単独柱穴一覧表…… 43
表 13　土坑一覧表（１）……43
表 14　土坑一覧表（２）……44
表 15　溝一覧表……44
表 16　自然流路一覧表……44
表 17　土器類観察表（１）……45
表 18　土器類観察表（２）……46
表 19　土器類観察表（３）……47
表 20　土器類観察表（４）……48
表 21　土器類観察表（５）……49
表 22　石器類観察表……50
表 23　SB１・SB２、SH１～SH７の比較……53

挿入写真目次

写真１　調査前状況（北東から）…… 4
写真２　重機による表土掘削状況…… 4
写真３　遺物包含層掘削状況…… 4
写真４　遺構掘削状況…… 4

写真図版目次

図版１　発掘区遠景
図版２　発掘区全景
図版３　掘立柱建物
図版４　掘立柱建物、溝、自然流路
図版５　出土遺物１
図版６　出土遺物２
図版７　出土遺物３
図版８　出土遺物４

第１章　調査の経過

第１節　調査に至る経緯

随縁寺裏Ｂ地点遺跡は、岐阜県北部、飛騨地域の中心都市である高山市に所在し、市街地が広がる高山盆地の北西端に位置する（図１）。

今回の発掘調査は、国土交通省中部地方整備局高山国道事務所（以下、「高山国道事務所」という。）による中部縦貫自動車道高山清見道路事業に伴い実施したものである。この道路は、高山市と東海北陸自動車道を結び、高速交通サービスの提供、高山市内の交通混雑の緩和、さらには沿線の文化・観光資源を活かした地場産業振興や観光リゾートとしての地域発展の支援等を目的に計画された一般国道の自動車専用道路である。

事業予定地内に周知の埋蔵文化財包蔵地「随縁寺裏Ｂ地点遺跡」（岐阜県遺跡番号 21203-11313）が所在することから、事業に先立ち岐阜県教育委員会（以下、「県教育委員会」という。）が平成 26 年 12 月３日、平成 27 年３月 23 日・24 日に試掘・確認調査を実施した。調査の結果、TP１では土師器・須恵器を含む土坑・自然流路が確認された。

その後、文化財保護法第 94 条第１項の規定に基づき、高山国道事務所長から県教育委員会教育長（以下、「県教育長」という。）あて埋蔵文化財発掘通知（平成 27 年４月９日付け国部整高調第３号）が

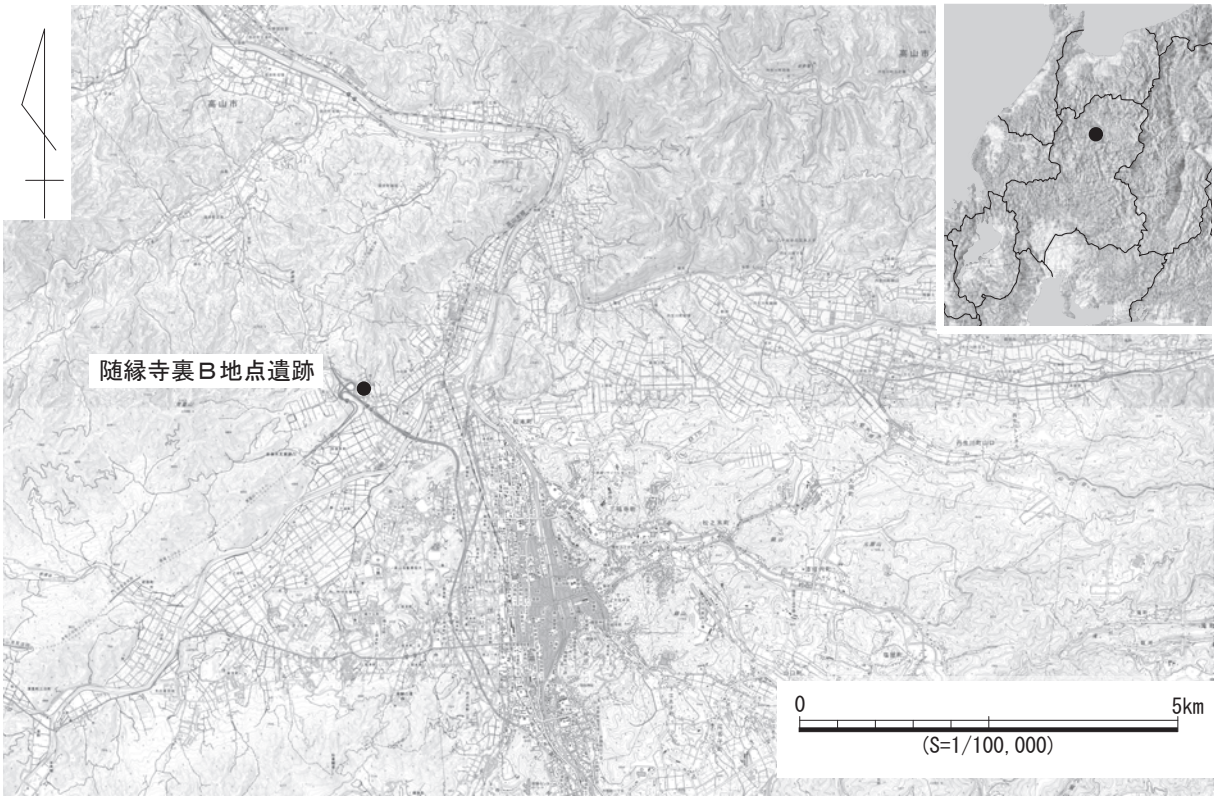


図１　遺跡位置図
（国土地理院発行２万５千分の１地形図　平成 23 年「高山」、平成 29 年「町方」、平成 30 年「飛騨古川」、令和元年「三日町」）を使用

表１　TP１出土遺物

試掘坑 No.	検出遺構数（基数）	出土遺物（点数）							合計
		縄文土器	弥生土器	土師器	須恵器	灰釉陶器	陶磁器	石器	
TP１	自然流路（１）土坑（１）	0	0	5	8	1	0	2	16

提出され、同条第４項の規定に基づき、県教育長から高山国道事務所長あてに発掘調査実施の勧告（平成 27 年４月９日付け社文第 54 号の 17）が通知された。高山国道事務所長は、発掘調査の実施を県教育長に依頼し、岐阜県文化財保護センター（以下、「センター」という。）が実施した。センターは調査着手後、発掘調査の報告（平成 27 年５月 27 日付け文財セ第 80 号）を県教育長に提出した。

第２節　調査の方法と経過

１　調査の方法

発掘調査は平成 27 年度に 850 ㎡を対象に実施した。発掘区は平成 25 年度に発掘調査を行った随縁寺裏Ｂ地点遺跡の大グリッドに合わせ、世界測地系第Ⅶ系平面直角座標（Ｘ＝18,700, Ｙ＝5,800）を原点として 100ｍ×100ｍ四方の大グリッドを設定した。さらに、大グリッド内に５ｍ×５ｍの小グリッド（以下、「グリッド」という。）を設定した。北から南へＡからＩ、西から東へ１から８を設定した（図３）。発掘区の北西隅はＣ１グリッド、南西隅はＩ２グリッド、南東隅はＧ８グリッド、北東隅はＢ７グリッドとなる。

表土掘削　表土掘削はバックホウ

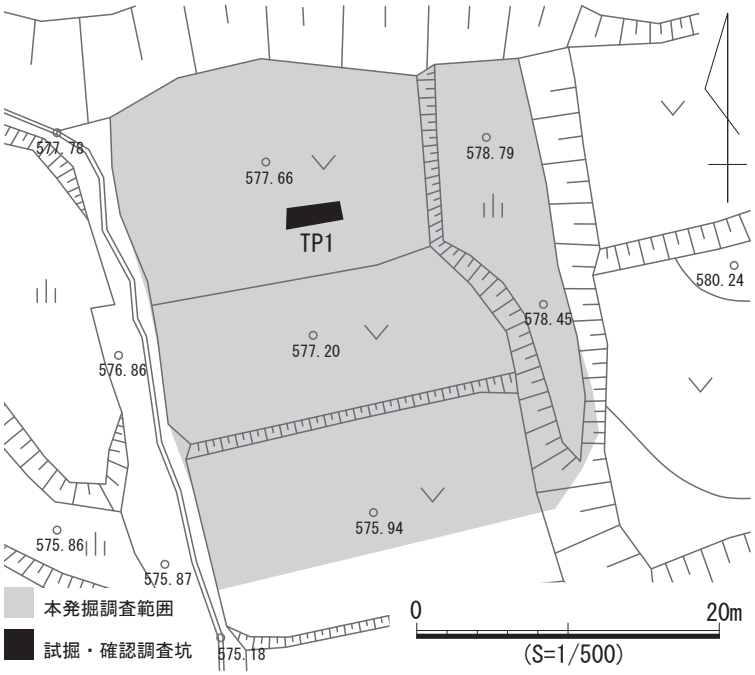


図２　試掘・確認調査坑、本発掘調査範囲位置図

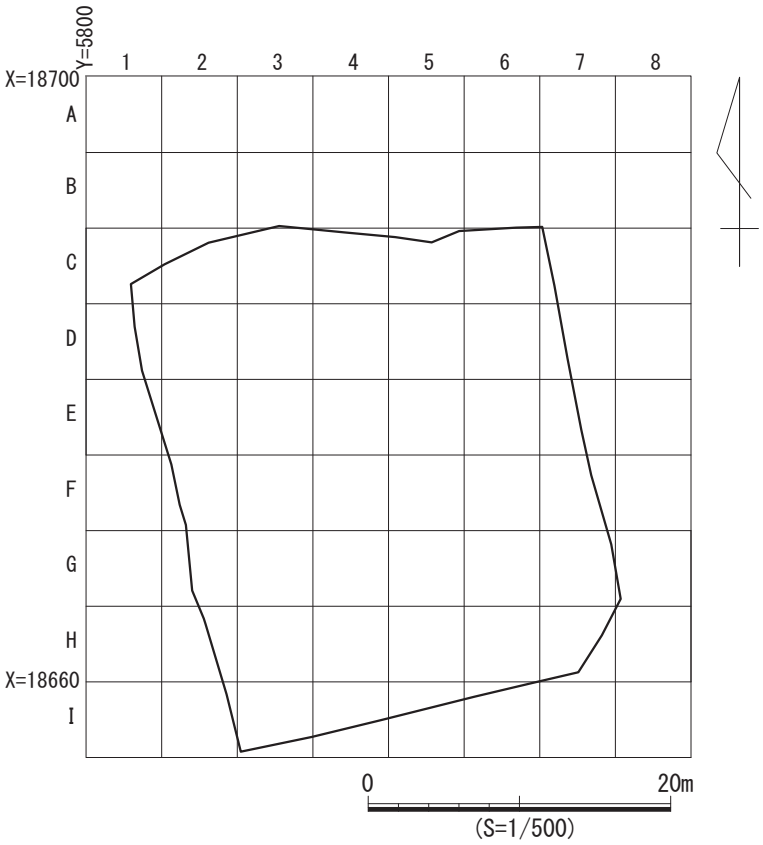


図３　発掘区地区割り図

による重機掘削で行った。

遺物包含層掘削・遺構検出・遺構掘削　遺物包含層掘削・遺構検出・遺構掘削はジョレン・移植ゴテなどを用いて人力で行った。遺構掘削では、土層断面等の記録を作成しつつ、遺構埋土をすべて取り除いた。また、必要に応じて遺構断ち割り調査を実施した。遺構番号は検出順の通番とし、Ｓ001 番から番号を与えた。整理等作業時には、今後の資料活用時に支障を来さぬよう、この番号の先頭のＳを取り、替わりに遺構の略号を付与した（第３章第２節参照）。本書の「遺構一覧表」にも「遺構名」として記載した。

遺構実測　個別の遺構実測図の作成は、三次元測量・図化システムによって行ったが、遺構断面図は手測りで実測した。図面の縮尺は 20 分の１を基本としつつ、実測対象に応じて適切な縮尺を選択した。

写真撮影　写真撮影は、一眼レフ 35㎜カメラ(リバーサルフィルム、モノクロフィルム)、中判カメラ(リバーサルフィルム、モノクロフィルム)、デジタルカメラで撮影した。遺跡全景写真は、ラジコンヘリコプターによる空中写真撮影を実施した。

遺物取り上げ　出土遺物は、基本的にトータルステーションによる三次元座標の測定を行って取り上げた。

２　発掘作業の経過

第１週（６/24～６/26）24 日に北から表土掘削を開始した。

第２週（６/29～７/３）29 日に表土掘削を完了した。同日、グリッド杭の打設を開始した。30 日から作業員作業を開始し、遺物包含層掘削、遺構検出、遺構掘削を開始した。

第３週（７/６～７/10）６日に発掘区中央を南北に走る自然流路（NR032）を検出し、掘削を開始した。

第４週（７/13～７/17）14 日に掘立柱建物（SB１）、柱穴列（SA１・SA２）を検出し、掘削を開始した。

第５週（７/20～７/24）24 日に掘立柱建物（SB２）を検出し、掘削を開始した。

第６週（７/27～７/31）27 日にタイムスリップ探検隊飛騨を開催した。岐阜県内に住む小学校５・６年生の親子８組（20 名）が参加した。30 日に飛騨市教育委員会の三好清超氏が来跡した。31 日に自然流路（NR032）の掘削が完了した。

第７週（８/３～８/７）４日に空撮前清掃を実施し、５日に景観撮影を実施した。

第８週（８/10～８/14）夏季休業。

第９週（８/17～８/21）18 日より埋め戻しを開始し、20 日に完了した。

第 10 週（８/24～８/28）27 日に事業者である高山国道事務所に現地を引渡した。

出土遺物の洗浄・注記等の一次整理作業は、９月 16 日から１月 15 日までの期間にセンター飛騨国府事務所で行った。

３　整理等作業の経過

整理等作業はセンター飛騨駐在事務所において令和２年 10 月から令和３年３月まで実施した。令和２年 11 月 16 日に渡邉博人氏（元各務ヶ原市教育委員会）に須恵器に関する指導を、令和２年 12 月

８日に田中彰氏（高山市史編纂委員）に遺跡周辺の土地利用の変遷について指導を受けた。

４　調査体制

発掘作業及び整理等作業の体制は、以下のとおりである。

センター所長	宮田敏光（平成 27 年度）、森勝利（令和２年度）
総務課長	二宮隆（平成 27 年度）、布施美千代（令和２年度）
調査課長	成瀬正勝（平成 27 年度）、春日井恒（令和２年度）
調査担当係長	大宮次郎（平成 27 年度）、春日井恒（令和２年度兼務）
調査担当主査	三島誠（令和２年度）
担当調査員	三島誠・小林新平（平成 27 年度）、柳坪武志（令和２年度）

写真１　調査前状況（北東から）

写真２　重機による表土掘削状況

写真３　遺物包含層掘削状況

写真４　遺構掘削状況

第２章　遺跡の環境

第１節　地理的環境

高山市市街地の北西部には見量山（997m）や三枝山（825m）の山々が連なる。この２つの山の間に高草洞が北西から南東方向へ走り、寿美峠までの直線的な奥行きの深い谷になっている。この谷を流れる高曽洞川が両岸に狭い氾濫原を形成する。見量山や三枝山の南西側の麓には、国府断層帯の一つである牧ケ洞断層が北東から南西方向へ直線的に延びる。見量山や三枝山は断層の影響と考えられる凹地や高まり、尾根の屈曲など特徴的な地形が認められる。また、三枝山の南西側は、断層と直交する直線的な谷が走り、細長い半島状の丘陵を形成している。随縁寺裏Ｂ地点遺跡は、この細長い半島状の丘陵端部、谷の入口部分の高曽洞川左岸の緩傾斜地に位置する（図４）。

当遺跡の南側の丘陵下には、崖錐性堆積物による斜面地が形成される。さらに南側は断層と平行して川上川が流れ、川筋を変えながら砂礫を堆積させ、河岸段丘（砂礫台地）を形成する。

地質学的には、当遺跡西側の見量山山系の基盤は、濃飛流紋岩で形成される。一方、三枝山の基盤は、上広瀬層や森部層のように礫岩・砂岩・凝灰岩・石灰岩・粘板岩・安山岩等で構成され、飛騨外縁帯の一部を形成している。当遺跡内で見られる自然堆積物の多くは、三枝山の基盤層に由来する褐色系の砂質シルトであり、地形の傾斜に沿って堆積し、緩斜面地に厚く堆積する。また、崖錐・崩積性堆積物の下などに、河川由来とみられる粘質土や微細砂をラミナ状に含む細砂及び粘土層、１ｍを超える礫を含む土石流堆積物が認められることから、崩落と氾濫を繰り返しながら斜面地を形成したと推定される。

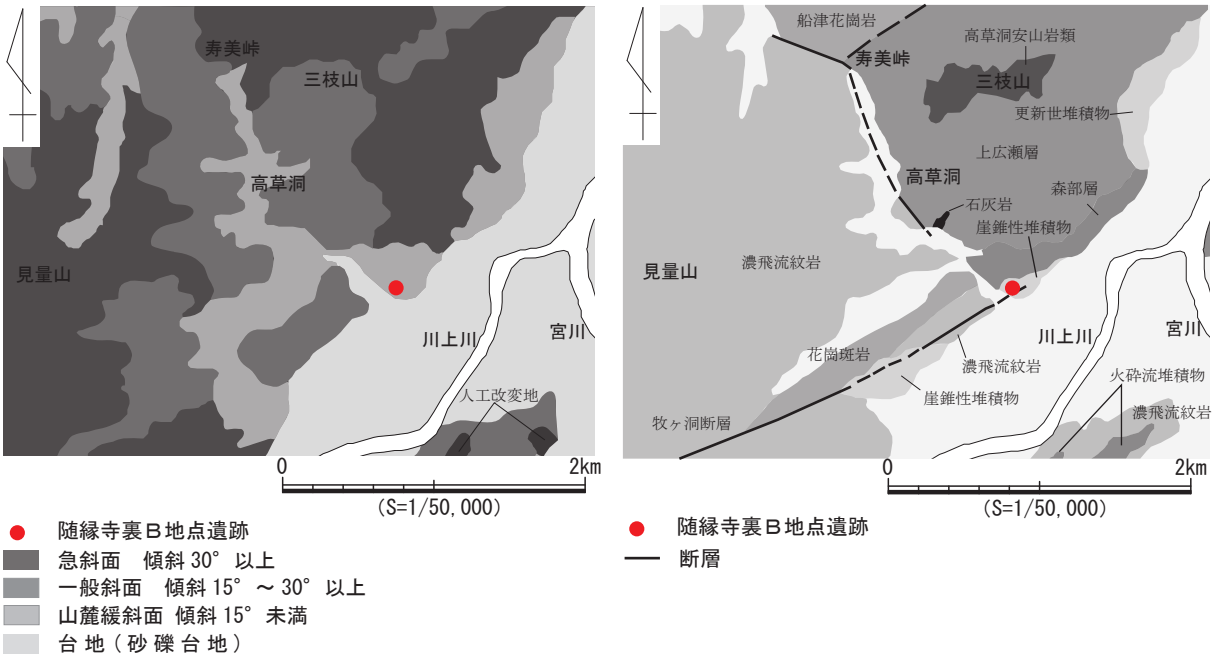


図４　随縁寺裏Ｂ地点遺跡周辺の地形と地質

地質図（左）は地質調査所『５万分の１地質図（1975「飛騨古川」・1982「三日町」）』を基に作成、地形分類図（右）は『岐阜県「５万分の１土地分類基本調査（地形分類図（2005「白木峰・古川」・2000「三日町」）』を基に作成した。

第２節　歴史的環境

当遺跡周辺には、川上川左岸の山麓を中心に遺跡が分布する（図５）。当遺跡周辺では数多くの発掘調査が実施されているため、本節では発掘調査報告書が刊行された遺跡を中心に記載する。文中の遺跡名に続く括弧内の番号は、図５・表２と一致する。

縄文時代の遺跡は、川上川と宮川両岸の丘陵地や河岸段丘上に集中する。日焼遺跡（61）では、平成 27・28 年度にセンターが発掘調査を実施し、早期の煙道付炉穴２基、中期の竪穴建物２軒などを検出した。中切上野遺跡（73）では、平成８年度に高山市教育委員会（以下、「市教委」という。）により発掘調査が実施され[1)]、早期の集石遺構２基と前期の竪穴建物 15 軒などが検出された。また、同遺跡では平成 29・30 年度にセンターが発掘調査を実施し、前期と中期の竪穴建物 58 軒などを検出した。赤保木遺跡（30）では、平成３年度に市教委により発掘調査が実施され[2)]、竪穴建物４軒などが検出された。平成 16 年度にセンターが発掘調査を実施し、中期の竪穴建物 26 軒などを検出した。ウバガ平遺跡（47）では、平成 13・19 年度にセンターが発掘調査を実施し、前期から中期の竪穴建物２軒などを検出した。

弥生時代から古墳時代初頭の遺跡の多くは、縄文時代の遺跡と立地が類似するが、墓域は丘陵尾根部分に展開する。三枝城跡（49）では、平成 18・20 年度にセンターが発掘調査を実施し、土坑から前期の柴山出村系土器の壺が出土した。赤保木遺跡では、平成 16 年度にセンターが発掘調査を実施し、中期の竪穴建物２軒と古墳時代初頭の竪穴建物４軒を検出し、内垣内式の横羽状文甕や櫛描波状文を施す中部高地系の土器が出土した。ウバガ平遺跡では、中期の竪穴建物３軒を検出し、内垣内式の横羽状文甕や栗林式土器の壺、榎田タイプの石斧が出土した。中切上野遺跡では、内垣内式の横羽状文甕３個体分が合わせ口となる土坑墓１基を検出した。野内遺跡（50）では、平成 14 年度から 17 年度にセンターが発掘調査を実施し、Ｄ地区では後期の竪穴建物１軒、Ｂ地区では後期後半から古墳時代初頭の竪穴建物３軒、Ｃ地区で２軒を検出した。上切寺尾古墳群（60）では、後期後半から古墳時代初頭の墳墓 51 基を検出した。現段階で後期後半の墳墓は飛騨地域最古の墳墓である。中切上野遺跡では、遺跡内に所在する中切上野５号古墳（71）を調査した他、古墳時代初頭の方形周溝墓１基を検出した。

古墳時代前期から後半の遺跡の分布は見墓山南東部の緩斜面と、川上川左岸と宮川との合流点付近に認められる。集落跡は野内遺跡とウバガ平遺跡で確認した。野内遺跡では、Ａ地区で５世紀代の竪穴建物を 54 軒、Ｂ地区で古墳時代中期から終末期の竪穴建物９軒、Ｄ地区で後期の竪穴建物１軒を検出した。ウバガ平遺跡では、前半末から後期後半の竪穴建物９軒を検出した。赤保木遺跡では、中期の竪穴建物１軒を検出した。古墳は、平成４年度に市教委により赤保木ぼた上１号古墳～７号古墳（52～58）の５号古墳（56）の範囲確認調査[3)]が行われ、埋葬施設が竪穴式石室であることが判明した。冬頭大塚古墳（94）では昭和 45 年度に市教委により発掘調査[4)]が行われ、５世紀後半の２段築成の円墳であることが判明した。冬頭山崎１号古墳（90）、冬頭山崎２号古墳（91）、冬頭山崎１号横穴（92）では、平成 10 年度にセンターが発掘調査を実施した。冬頭山崎２号古墳は５世紀末の２段築成の円墳、冬頭山崎１号古墳は横穴式石室を主体部とする７世紀前半の古墳、冬頭山崎１号横穴は高山盆地北東部以外で初めて発掘調査した横穴で、７世紀代のものであることが判明した。与島３号古墳

（41）、与島４号古墳（42）、与島６号古墳（44）では、平成９年度にセンターが発掘調査を実施し、横穴式石室を主体部とする７世紀中葉の円墳であることが判明した。

古墳時代終わり頃から平安時代にかけては、遺跡数の半分を古窯群が占め、見量山の西麓と寿美峠を越えた国府町瓜巣に集中する。今回調査を行った随縁寺裏Ｂ地点遺跡（１）では、平成 25 年度にもセンターが発掘調査を実施しており、７世紀後葉から８世紀前葉頃の竪穴建物７軒などを確認した。竪穴建物群の東側には、竪穴建物群と先後関係にある砂礫層が堆積した自然流路があり、その上面で建物跡を確認できることから、竪穴建物は谷を形成する自然流路が埋まり緩斜面になった後に、同じ場所に繰り返し建てられたことが判明した。日焼遺跡では、古墳時代終末期から奈良時代にかけて竪穴建物 35 軒、掘立柱建物３棟を検出した。また、仏堂と考えられる 10 世紀前半の掘立柱建物１棟や 10 世紀後半の礎石建物１棟を検出した。三枝城跡では、９世紀前半から 10 世紀前半の礎石建物を検出した。三枝城跡の南麓にある野内遺跡Ｂ地区では、竪穴建物 45 軒と掘立柱建物４棟、鍛冶関連遺構 30 基を検出した。また、野内遺跡Ｃ地区では、古代の水田を検出した。ウバガ平古墳群（45）では、７世紀末から８世紀初頭と考えられる終末期の円墳４基を検出した。飛騨国分寺跡（118）では、昭和 61 年度に市教委により範囲確認調査[5)]を実施され、軒丸瓦、軒平瓦、平瓦、鬼瓦などが出土した。飛騨国分尼寺跡（101）では、昭和 63 年度に市教委により範囲確認調査[6)]が実施され、礎石建物が確認された。古窯跡では、市教委により昭和 48 年度に赤保木古窯跡群（27）内の赤保木１～６号古窯が発掘調査[7)]され、６基の窯が確認された。１～４号窯は瓦窯で、飛騨国分寺と飛騨国分尼寺に瓦を供給していたことが明らかとなった。赤保木８号古窯跡(20)では、平成 13 年度に市教委により発掘調査[8)]が実施され、窯体に伴う遺構は確認されなかったが、10 世紀初頭の灰釉陶器が出土した。平野１号古窯跡（17）では、平成 15 年度に市教委により発掘調査[9)]が実施され、８世紀前半の須恵器を生産した窯であることが判明した。

中世では、城館跡６箇所、社寺跡１箇所、集落跡１箇所がある。平野部を見下ろす尾根上に分布する。三枝城跡では、平成 18・20 年度にセンターが発掘調査を実施し、主郭西側に二重の堀切があり、寿美峠方面からの進入に対する監視・防御的な性格を持つことが判明した。冬頭城跡（93）では、平成 10 年度にセンターが発掘調査を実施し、尾根上に簡素な切岸や削平地などの防御施設を有する山城であることが判明した。野内遺跡Ｄ地区では、12 世紀後半～13 世紀前半の四面庇建物２軒を検出した。

注

１）高山市教育委員会 1998『中切上野遺跡発掘調査報告書』

２）高山市教育委員会 1993『前平山稜遺跡　赤保木遺跡発掘調査報告書』

３）高山市教育委員会 1995「１　赤保木５号古墳」『高山市内遺跡発掘調査報告書』

４）高山市教育委員会 1971『冬頭大塚古墳発掘調査報告書』

５）高山市教育委員会 2001「４　飛騨国分寺跡」『高山市内遺跡発掘調査報告書』

６）高山市教育委員会 1990『飛騨国分尼寺発掘調査報告書』

７）高山市教育委員会 1975『飛騨国分寺瓦窯発掘調査報告書』

８）高山市教育委員会 2005「４　赤保木８号古窯跡」『高山市内遺跡発掘調査報告書』

９）高山市教育委員会 2005「10　平野遺跡・平野１号古窯跡」『高山市内遺跡発掘調査報告書』

図５　周辺遺跡位置図

（国土地理院発行２万５千分の１地形図　「高山」、「町方」、「飛騨古川」、「三日町」を使用）

表２　周辺の遺跡一覧

番号	遺跡名	種別	時代
1	随縁寺裏Ｂ地点遺跡	散布地	縄文・古墳・古代・中世
2	瓜巣中島古窯跡	生産遺跡	白鳳
3	瓜巣小坂古窯跡	生産遺跡	白鳳
4	わせ洞石灰窯跡	生産遺跡	近世
5	瓜巣わせ洞古窯跡	生産遺跡	奈良
6	より洞遺跡	散布地	縄文
7	瓜巣大洞１号古墳	古墳	古墳
8	瓜巣大洞１号古窯跡	生産遺跡	平安
9	瓜巣大洞２号古窯跡	生産遺跡	平安
10	後洞遺跡	散布地	縄文
11	よしま１号古窯跡	生産遺跡	平安
12	よしま２号古窯跡	生産遺跡	平安
13	よしま３号古窯跡	生産遺跡	平安
14	与島Ａ地点遺跡	散布地	縄文
15	上切平野平古墳群	古墳	古墳
16	平野遺跡	散布地	縄文
17	平野１号古窯跡	生産遺跡	平安
18	平野２号古窯跡	生産遺跡	平安
19	平野３号古窯跡	生産遺跡	平安
20	赤保木８号古窯跡	生産遺跡	奈良
21	赤保木９号古窯跡	生産遺跡	奈良
22	赤保木１０号古窯跡	生産遺跡	奈良
23	赤保木１１号古窯跡	生産遺跡	奈良
24	赤保木１２号古窯跡	生産遺跡	奈良
25	下やせ尾１号古墳	古墳	古墳
26	下やせ尾２号古墳	古墳	古墳
27	赤保木古窯跡群	生産遺跡	奈良
28	真言屋敷裏山古墳	古墳	古墳
29	赤保木７号古窯跡	生産遺跡	平安
30	赤保木遺跡	集落跡	縄文
31	ミヨガ平１号古墳	古墳	古墳
32	ミヨガ平２号古墳	古墳	古墳
33	赤保木本願寺遺跡	散布地	縄文
34	川上川左岸１号古墳	古墳	古墳
35	下之切遺跡	散布地	縄文
36	山田城跡	城館跡	室町
37	狐洞遺跡	散布地	縄文・弥生
38	打越遺跡	散布地	縄文・弥生
39	与島１号古墳	古墳	古墳
40	与島２号古墳	古墳	古墳・近世
41	与島３号古墳	古墳	古墳
42	与島４号古墳	古墳	古墳
43	与島５号古墳	古墳	古墳
44	与島６号古墳	古墳	古墳
45	ウバガ平古墳群	古墳	古墳
46	与島Ｂ地点遺跡	散布地	奈良
47	ウバガ平遺跡	集落跡	縄文・弥生・古墳・平安
48	与島Ｃ地点遺跡	散布地	古代
49	三枝城跡	城館跡	弥生・古代・室町
50	野内遺跡	集落跡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・中世
51	随縁寺裏Ａ地点遺跡	散布地	縄文
52	赤保木ぼた上１号古墳	古墳	古墳
53	赤保木ぼた上２号古墳	古墳	古墳
54	赤保木ぼた上３号古墳	古墳	古墳
55	赤保木ぼた上４号古墳	古墳	古墳
56	赤保木ぼた上５号古墳	古墳	古墳
57	赤保木ぼた上６号古墳	古墳	古墳
58	赤保木ぼた上７号古墳	古墳	古墳
59	下林遺跡	散布地	弥生
60	上切寺尾古墳群	その他の墓・古墳	弥生・古墳

番号	遺跡名	種別	時代
61	日焼遺跡	集落跡・社寺跡	縄文・弥生・奈良・平安
62	上切(桜本)遺跡	散布地	平安
63	竹ヶ洞Ａ地点遺跡	散布地	古墳
64	竹ヶ洞Ｂ地点遺跡	散布地	縄文
65	中切城跡	城館跡	中世
66	中切前平城跡	城館跡	鎌倉・室町・安土桃山
67	中切上野１号古墳	古墳	古墳
68	中切上野２号古墳	古墳	古墳
69	中切上野３号古墳	古墳	古墳
70	中切上野４号古墳	古墳	古墳
71	中切上野５号古墳	古墳	古墳
72	中切上野６号古墳	古墳	古墳
73	中切上野遺跡	集落跡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安
74	中切遺跡	古墳	縄文・弥生・奈良
75	大洞塚古墳	古墳	古墳
76	中山古窯跡	生産遺跡	平安
77	腰宮田遺跡	散布地	弥生・奈良
78	西ノ山遺跡	散布地	弥生・奈良
79	下切遺跡	散布地	縄文・弥生
80	宮野Ｂ地点遺跡	散布地	縄文・弥生
81	中切宮ヶ平遺跡	散布地	縄文・古墳
82	中切王塚古墳	古墳	古墳
83	中切日焼遺跡	散布地	縄文・奈良
84	日焼(炭焼き)古窯跡	生産遺跡	奈良
85	四十九院廃寺	社寺跡	弥生・白鳳
86	上ゲ見古墳	古墳	古墳
87	東田古墳	古墳	古墳
88	冬頭遺跡	散布地	縄文・弥生
89	流れ田古墳	古墳	古墳
90	冬頭山崎１号古墳	古墳	古墳
91	冬頭山崎２号古墳	古墳	古墳
92	冬頭山崎１号横穴	横穴墓	古墳
93	冬頭城跡	城館跡	室町
94	冬頭大塚古墳	古墳	古墳
95	下岡本遺跡	散布地	奈良・平安
96	冬頭竹田の湯遺跡	散布地	平安
97	下岡本(瀬木)遺跡	散布地	縄文・弥生・古墳・白鳳
98	中山城跡	城館跡	室町
99	下岡本神田遺跡	散布地	平安
100	古館遺跡	散布地	平安
101	飛騨国分尼寺跡	社寺跡	奈良
102	恵喜廃寺跡	社寺跡	縄文・室町
103	的場遺跡	散布地	奈良
104	下切芦谷遺跡	散布地	古墳
105	下切古墳	古墳	古墳
106	三川落合遺跡	散布地	縄文
107	三川越中街道	その他の遺跡	近世
108	松本上野遺跡	散布地	縄文
109	茂島古墳	古墳	古墳
110	前平山稜遺跡	散布地	縄文・弥生
111	前平古墳	古墳	古墳
112	西ヶ洞古墳	古墳	古墳
113	前平遺跡	散布地	縄文・弥生
114	上畑遺跡	散布地	縄文
115	牧ヶ洞古墳	古墳	古墳
116	馬場古墳	古墳	古墳
117	越中街道	その他の遺跡	近世
118	飛騨国分寺跡	社寺跡	奈良
119	桜ノ前遺跡	散布地	奈良

第３章　調査の成果

第１節　遺跡の基本層序

発掘作業前の発掘区の土地利用状況は、畑地や水田であった。発掘区の地形は北西方向から南東方向に緩やかに下がる傾斜地である。基本層序は、平成 26 年度に岐阜県教育委員会が実施した試掘・確認調査や発掘区壁面（図６）で確認した層序、各層から出土した遺物の時期を検討して設定した。図７に、各地点における層序と基本層序との対応を柱状図で示した。以下、基本層序Ⅰ層からⅢ層までの詳細及び遺構検出面について説明する。

Ⅰ層　表土

発掘区内の現代の表土とその下層の整地土を一括してⅠ層とした。図７①のⅠａ層は表土層である黒色のしまりや粘性がない畑耕作土で、層厚は 0.22ｍである。図７②～④のⅠａ層も表土層であり灰黄褐色のしまりや粘性がない腐植土で、層厚は 0.10ｍ～0.18ｍである。直径 0.5 ㎝～２㎝の亜角礫を含む。図７①のⅠｂ層は暗褐色のしまりがあり粘性がややある整地土で、層厚は 0.06ｍである。直径１㎝～５㎝の亜角礫を含む。図７②～④のⅠｂ層は現代の造成土・整地土層であり褐灰色のしまりや粘性がややある土で、層厚は 0.15ｍ～0.30ｍである。直径１㎝～２㎝の亜角礫を含む。発掘区全域で確認されたものの、発掘区東側にかけて層厚が薄くなっている。

Ⅱ層　遺物包含層

黒褐色又は、暗褐色を呈する縄文時代から近世にかけての遺物包含層をⅡ層とした。層厚は 0.04ｍ～0.08ｍで、図７①周辺で確認した。

Ⅲ層　基盤層

今回検出した遺構の基盤となっている堆積をⅢ層とした。明黄褐色のしまりや粘性がない砂礫土である。直径 0.5 ㎝～10 ㎝の亜角礫を含む。

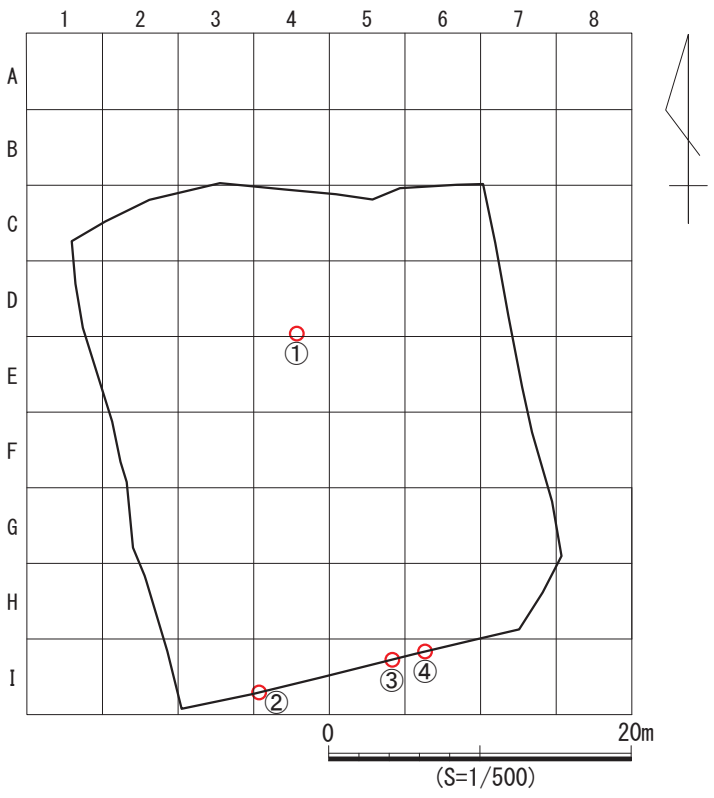
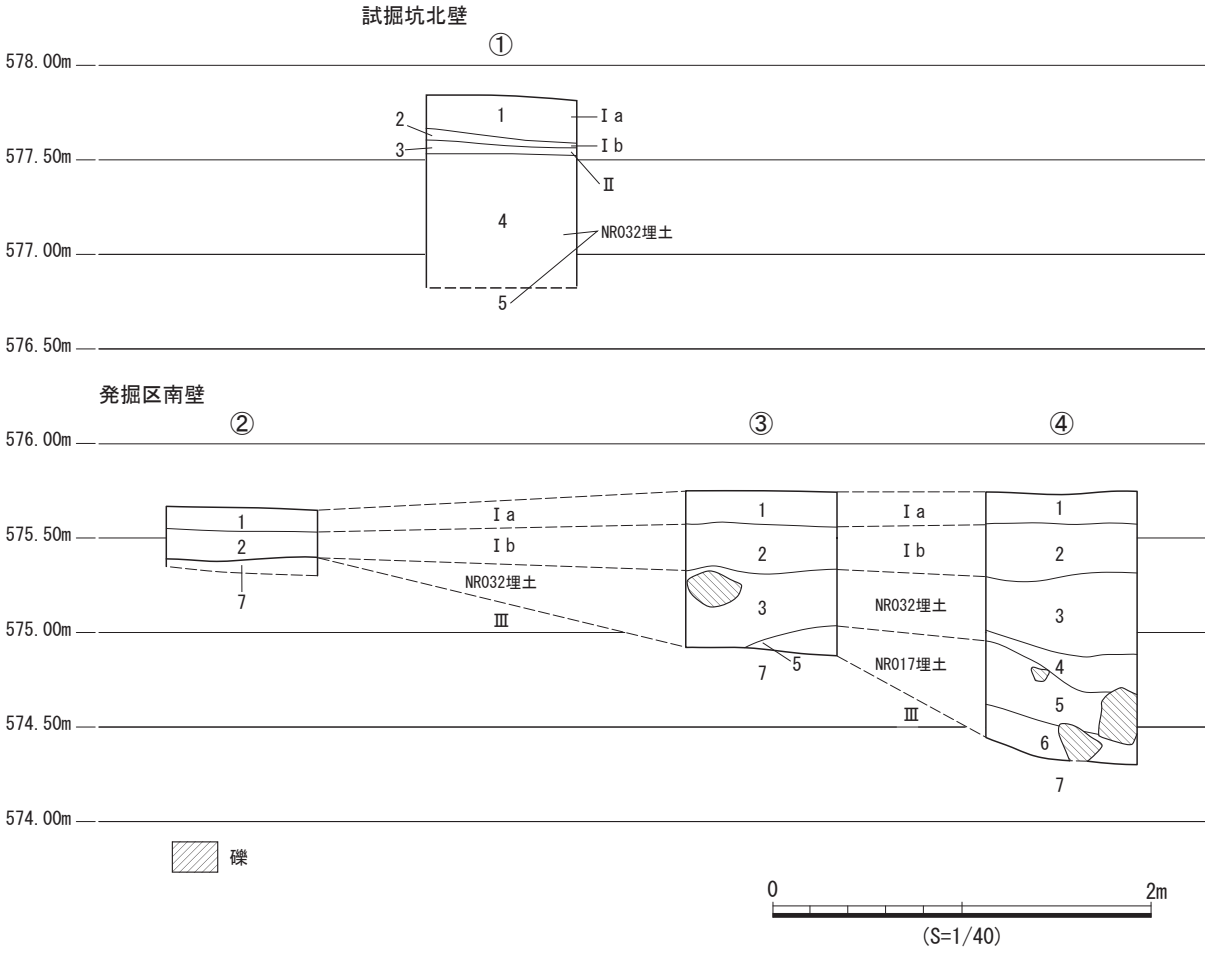


図６　基本層序の位置



試掘坑南壁

1　10YR1.7/1　黒色土　しまりなし　粘性なし　（Ⅰa層）
2　10YR3/4　暗褐色土　しまりあり　粘性ややあり　径１～５㎝の亜角礫を含む　（Ⅰb層）
3　10YR3/4　暗褐色土　しまりややあり　粘性ややあり　（Ⅱ層）
4　10YR2/2　黒褐色土　しまりあり　粘性ややあり　径１～５㎝の亜角礫を20％含む　（NR032埋土）
5　10YR5/6　黄褐色砂礫土　しまりあり　粘性ややあり　径10～50㎝の亜角礫を10％含む　（NR032埋土）

発掘区南壁

1　10YR4/2　灰黄褐色土　しまりなし　粘性なし　径0.5～２㎝の亜角礫を15%含む　（Ⅰa層）
2　10YR4/1　褐灰色土　しまりややあり　粘性ややあり　径１～２㎝の亜角礫を10%含む　（Ⅰb層）
3　10YR3/1　黒褐色土　しまりあり　粘性あり　径0.5～１㎝の亜角礫を５%含む　（NR032埋土）
4　7.5YR3/1　黒褐色土　しまりなし　粘性なし　径0.5～１㎝の亜角礫を30%含む　（NR032埋土）
5　10YR3/2　黒褐色砂礫土　しまりややあり　粘性ややあり　径５～20㎝の亜角礫を50%含む　炭化粒を５%含む　（NR017埋土
6　10YR4/1　褐灰色砂礫土　しまりなし　粘性なし　径１～３㎝の亜角礫を50%含む　（NR017埋土）
7　10YR6/6　明黄褐色砂礫土　しまりなし　粘性なし　径５～10㎝の亜角礫を10%含む　（Ⅲ層）

図７　基本層序

第２節　遺構・遺物の概要

１　遺構概要

（１）概要

当遺跡で検出した遺構の数は表３のとおりである。遺構の時期決定は、出土遺物や遺構の重複関係から判断した。また、出土遺物が複数の時期にまたがる場合は原則として新しい時期を選択した。

本報告書において詳細について掲載した遺構の配置は図８のとおりである。なお、各遺構の説明文の「遺物出土状況」に記載した出土点数は、接合後破片数を示す。

（２）遺構の分類

今回検出した遺構は、以下の要件に基づき分類した。

掘立柱建物　向かい合う２辺以上が確認できる、規則的に並んだ柱穴によって構成される建物。

柱穴列　柱穴と考えられる遺構が、３基以上規則的に配置されるもの。削平等により、対応する柱穴の並びが確認できない掘立柱建物の可能性があるものを含む。

単独柱穴　柱根や、柱痕跡、柱抜き取り痕、柱当たりが確認できる掘り込みのうち、他の遺構の付属施設でないもの。

溝　長細い平面形をもつ遺構で上端の短軸に対して長軸が５倍以上あるもののうち、他の遺構の付属遺構でないもの。

土坑　上記の遺構以外で掘り込みを伴うもの。

自然流路　流水等により自然に開削された谷状の流路。

（３）遺構の略号

遺構の略号は、以下のとおりである。

掘立柱建物－SB、柱穴列－SA、単独柱穴－SP、土坑－SK、溝－SD、自然流路－NR

なお、掘立柱建物と柱穴列に付属する柱穴及び単独柱穴は、「SP020」にように発掘時の遺構番号の先頭にSPを付与した。同様に、土坑は「SK002」、溝は「SD013」、自然流路は「NR017」のように、発掘時の遺構番号の先頭にSK、SD、NRを付与した。

表３　検出遺構一覧表

遺構種別	掘立柱建物	柱穴列	単独柱穴	土坑	溝	自然流路	合計
合計	2	2	4	99	4	2	113

（４）遺構一覧表

各遺構の位置や規模などの基礎的情報は、それぞれ種別ごとに作成した遺構一覧表に示した。遺構種別により一覧表の項目は異なるが、共通する項目の内容は次のとおりである。

堆積状況　以下のとおり、堆積状況をａ～ｄと表記した。

ａ　単層　　ｂ１　水平堆積　　ｂ２　中央がＵ字状に窪む堆積が認められるもの

ｂ３　堆積の窪みが一方の掘方壁面に偏るもの　ｂ４　複数遺構の切り合いの可能性があるもの

ｃ　柱痕跡あり　ｄ　不明

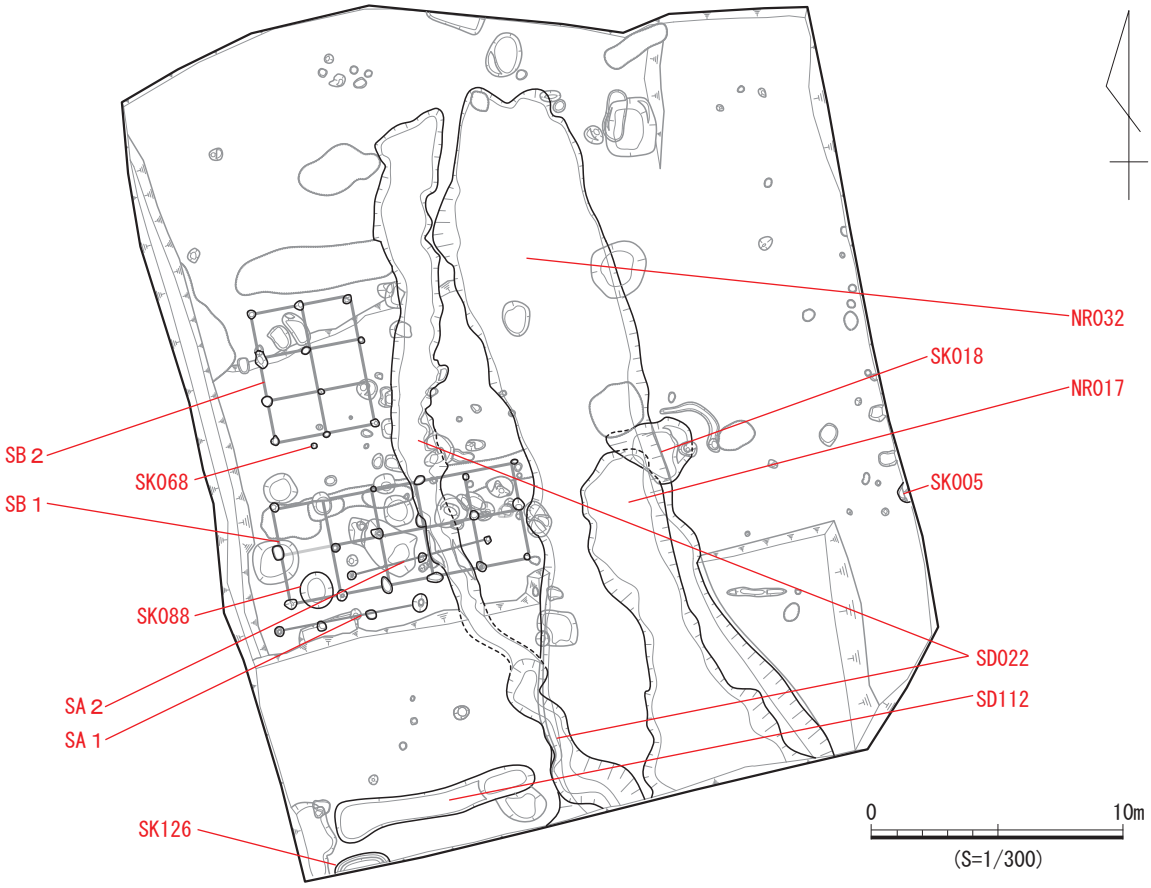


図８　主要遺構配置図

断面形状　以下のとおり、壁面形状をアラビア数字１～５で、底面形状をａ～ｄで表記した。

１－壁が開く、２－壁が直立に近い、３－壁面に段がある、４－袋状に広がる、５－不明

ａ－丸いか平らのまま、ｂ－底が２段になる、ｃ－底面が凸凹、ｄ－不明

平面・底面形状　以下のとおり、形状をアラビア数字１～６で表記し、円形と方形は、長軸と短軸の長さの比から、楕円形と長方形に細分した。

１－円形（１：1.2 未満）、２－楕円形（１：1.2 以上）、３－方形（１：1.2 未満）、

４－長方形（１：1.2 以上）、５－不定形、６－不明

規模　上端及び下端での長軸長と短軸長、深さを表記し、（　　）は残存長を示す。

出土遺物　以下のとおり記号化して表記した。

Ｊ：縄文土器　Ｈ：弥生土器・土師器　Ｐ：須恵器　Ｋ：灰釉陶器　Ｔ：陶磁器

Ｓ：石器類　Ｉ：金属製品

２　遺物概要

（１）概要

当遺跡で出土した遺物の総点数は表４のとおりである。出土遺物を大きく分類すると、土器類（1,637 点、約 97.5%）、石器類（41 点、約 2.4%）、金属製品（１点、約 0.1%）となる。土器類が大半であり、土器類全体に占める時期別点数の割合は、縄文時代約 1.7%、弥生時代～古代約 96.7%、中世約 1.5%、近世約 0.1%である。掲載遺物点数は 130 点であり、その選択においては、遺構出土遺物のうち遺跡の性格や時期等を検討する上で必要なものや、遺構外出土遺物のうち遺跡の性格や消長を示

表４　出土遺物一覧表

種別		SB１	SB２	SA１	SA２	SK005	SK018	SK068	SK088	SK126	SD022	SD112	NR017	NR032	その他遺構等	Ⅰ層・Ⅱ層	総数
土器類	縄文土器	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	8	2	0	17	28
	弥生土器・土師器	0	0	0	0	7	14	0	0	0	15	0	274	384	17	257	968
	須恵器	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	1	191	110	9	161	475
	灰釉陶器	0	0	1	0	4	0	0	0	0	0	0	38	18	8	71	140
	中世陶器	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	2	0	0	3	15	22
	中国産磁器	0	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	3
	近世陶器	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
小計		0	0	1	0	11	19	1	1	0	17	3	511	514	37	522	1,637
石器類		0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	6	3	4	25	41
金属製品		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
総数		0	0	1	0	11	21	1	1	1	17	4	517	517	41	547	1,679

※土器類の破片数は、接合後のものである。

すもの、分類別の代表的なものを中心とした。なお、遺物実測図の縮尺は３分の１としたが、一部の遺物についてはその大きさに応じて縮尺を替えた。

（２）遺物の分類

遺物の器種や時期の判断については、以下の文献を参考にしたほか[1)]、縄文土器は岩田崇氏、墨書土器は近藤大典氏、須恵器・灰釉陶器は渡邉博人氏から指導・助言をいただいた。ただし、本報告書における掲載内容の責任は、執筆者にある。

①土器類

縄文土器

器種は深鉢であり、縄文時代早期前半・中期・後期に属す。

弥生土器

器種は甕であり、弥生時代中期・終末期に属す。

土師器

出土遺物の中で最も破片数が多い。器種は碗、高坏、甕、壺、甑などがある。時期が判別できたものは古墳時代前期、古代に属す。

須恵器

蓋坏類、高坏、𤭯、壺瓶類、甕などがある。時期が判別できたものは古墳時代後期から奈良時代後半の時期に属す。産地は美濃須衛窯産が多くを占め、他に猿投窯産、在地産と考えられるものがある。

灰釉陶器

碗、皿、壺などがある。時期が判別できたものは平安時代後期に属す。在地産が多い。

中近世陶磁器

古瀬戸、中国産磁器、近世陶器がある。古瀬戸は浅碗、卸皿、擂鉢型小鉢、端反碗があり、室町時代に属す。中国産磁器は碗があり、いずれも龍泉窯系である。近世陶器は練鉢である。

②石器類

今回の調査では 41 点が出土し、西田遺跡発掘調査報告書（財団法人岐阜県文化財保護センター1997）

の分類に基づき、表５のとおり分類した。出土点数は磨石・敲石類、剥片類が 11 点で最も多い。

表５　石器類器種別数量表

器種	スクレイパー	楔形石器	打製石斧	磨製石斧	石核	RF
点数	1	1	6	1	1	3
器種	MF	打欠石錘	磨石・敲石類	砥石	御物石器	剝片類
点数	2	1	11	2	1	11

③金属製品

１点の小片で、器種は不明である。

（３）遺物観察表

遺物観察表は、それぞれ種別ごとに作成した。遺物の種別により観察表の項目は異なるが、共通する項目の内容は次のとおりである。

掲載番号　報告書に掲載した番号を表記した。

出土位置　遺物が出土したグリッド若しくは遺構を表記した。

層位　遺構以外のⅠ層・Ⅱ層などから出土した場合は基本層序番号を、遺構から出土した場合は人工層位（５㎝毎にａ層・ｂ層・ｃ層・・・として取り上げ）若しくは分層した土層番号（１層・２層・３層・・・として取り上げ）をアルファベットや数字で表記した。なお、自然流路出土遺物で層位が明らかでないものは「－」と表記した。

大きさ　土器は口径・底径・器高、石器は長さ・幅・厚さの順に表記した。なお、土器の口径と底径の（　）は復元長を、器高の（　）は残存高を、石器の（　）は残存長を示す。

注

１）　参考にした文献は以下のとおりである。

愛知県史編さん委員会 2007『愛知県史』別編　窯業２　中世・近世　瀬戸系

愛知県史編さん委員会 2010『愛知県史』資料編　考古４　飛鳥～平安

愛知県史編さん委員会 2015『愛知県史』別編　窯業１　古代　猿投系

赤塚次郎 2002『考古資料大観２　弥生・古墳時代　土器Ⅱ』、小学館

赤塚次郎 2005「第１章第３節　時期区分」『愛知県史　資料編３　考古３　古墳』、愛知県

小林達雄 1994『縄文土器大観　１草創期　早期　前期』、小学館

財団法人岐阜県文化財保護センター1997『西田遺跡』（岐阜県文化財保護センター調査報告書 29 集）

城ヶ谷和弘 2010「第１章第３節　編年及び編年表　土師器・須恵器・施釉陶器（緑釉・灰釉）」『愛知県史　資料編４　考古飛鳥～平安』、愛知県

太宰府市教育委員会 2000『太宰府市の文化財　第 49 集　太宰府条坊跡 XV－陶磁器分類編－』

髙橋浩二 2000「古墳出現期における越中の土器様相－弥生時代後期から古墳時代前期前半土器の編年的位置付け」『庄内式土器研究』ＸＸⅡ、庄内式土器研究会

田中啄、佐原真 2003『日本考古学辞典』、株式会社三省堂

兵頭勲 2008「押型文土器」『総覧　縄文土器』、株式会社アム・プロモーション

渡邉博人 1984『美濃須衛古窯跡群資料調査報告書』、各務原市教育委員会

渡邉博人 1996「美濃の後期古墳出土須恵器の様相－蓋坏の型式設定とその編年試案－」『美濃の考古学』創刊号、「美濃の考古学」刊行会

渡邉博人 2008「美濃須衛窯について」『2008 年度愛知県大会研究発表資料集』、日本考古学協会 2008 年度愛知県大会実行委員会

第３節　遺構・遺物

１　掘立柱建物

SB１（図９～11）

検出状況　Ｆ２～Ｇ４グリッド、Ⅲ層上面で検出した。北側の柱穴列（SP051、SP077、SP109、SP135、SP143）は南側より強く後世の造成による削平を受ける。SK140・SD022 と重複し、本遺構が古い。

規模・形状　桁行５間（9.94m、柱間 1.78m～2.30m）、梁行２間（4.26m、柱間 2.08m～2.18m）、床面積 42.3 ㎡の総柱建物と考える。長軸方位はＮ－79°－Ｅである。北側に位置する SB２と梁行方位が揃う。

柱穴　17 基の柱穴から成る。平面形は、円形・楕円形のものが多い。径は 0.21m～0.71m、深さは 0.02m～0.34mである。SP142 に柱痕跡の可能性がある堆積が認められる。また、SP020・SP137・SP142 の底面に柱当たりが認められる。

遺物出土状況　遺物は出土しなかった。

時期　本遺構の東側約 0.2mに NR032 が位置することから、本遺構の時期は NR032 埋没後の中世と考える。また、SD022 との重複関係から、14 世紀後葉以前と考える。

SB２（図 12・13）

検出状況　Ｅ２～Ｆ３グリッド、Ⅲ層上面で検出した。

規模・形状　桁行３間（5.48m、柱間 1.74m～1.96m）、梁行２間（4.18m、柱間 1.96m～2.22m）、床面積 22.9 ㎡の総柱建物と考える。長軸方位はＮ－11°－Ｗである。

柱穴　11 基の柱穴から成る。平面形は、円形・楕円形のものが多い。径は 0.26m～0.74m、深さは 0.05m～0.43mである。柱痕跡と考えられる堆積は確認できなかった。

遺物出土状況　遺物は出土しなかった。

時期　本遺構の梁行方位が SB１の長軸方位と同じであることから、本遺構の時期は SB１と同時期の中世で、14 世紀後葉以前と考える。

２　柱穴列

SA１（図 14・18）

検出状況　Ｇ２～Ｇ４グリッド、Ⅲ層上面で検出した。４基の柱穴がほぼ等間隔に配置されることから、柱穴列とした。

規模・形状　３間（6.16m、柱間 1.88m～2.28m）である。長軸方位はＮ－79°－Ｅである。

柱穴　４基の柱穴から成る。平面形は、それぞれ円形に近い形状である。径は 0.36m～0.74m、深さは 0.13m～0.22mである。柱痕跡や柱当たりは確認できなかった。

遺物出土状況　SP097 の埋土から灰釉陶器１点が出土した。

出土遺物　１は灰釉陶器の皿で、器形から東山 72 号窯式～百代寺窯式と併行する時期と考えられる。

時期　出土遺物から、本遺構の時期は 11 世紀以降と考える。

SA２（図 15）

検出状況　Ｇ３～Ｇ４グリッド、Ⅲ層上面で検出した。３基の柱穴がほぼ等間隔に配置されることから、柱穴列とした。

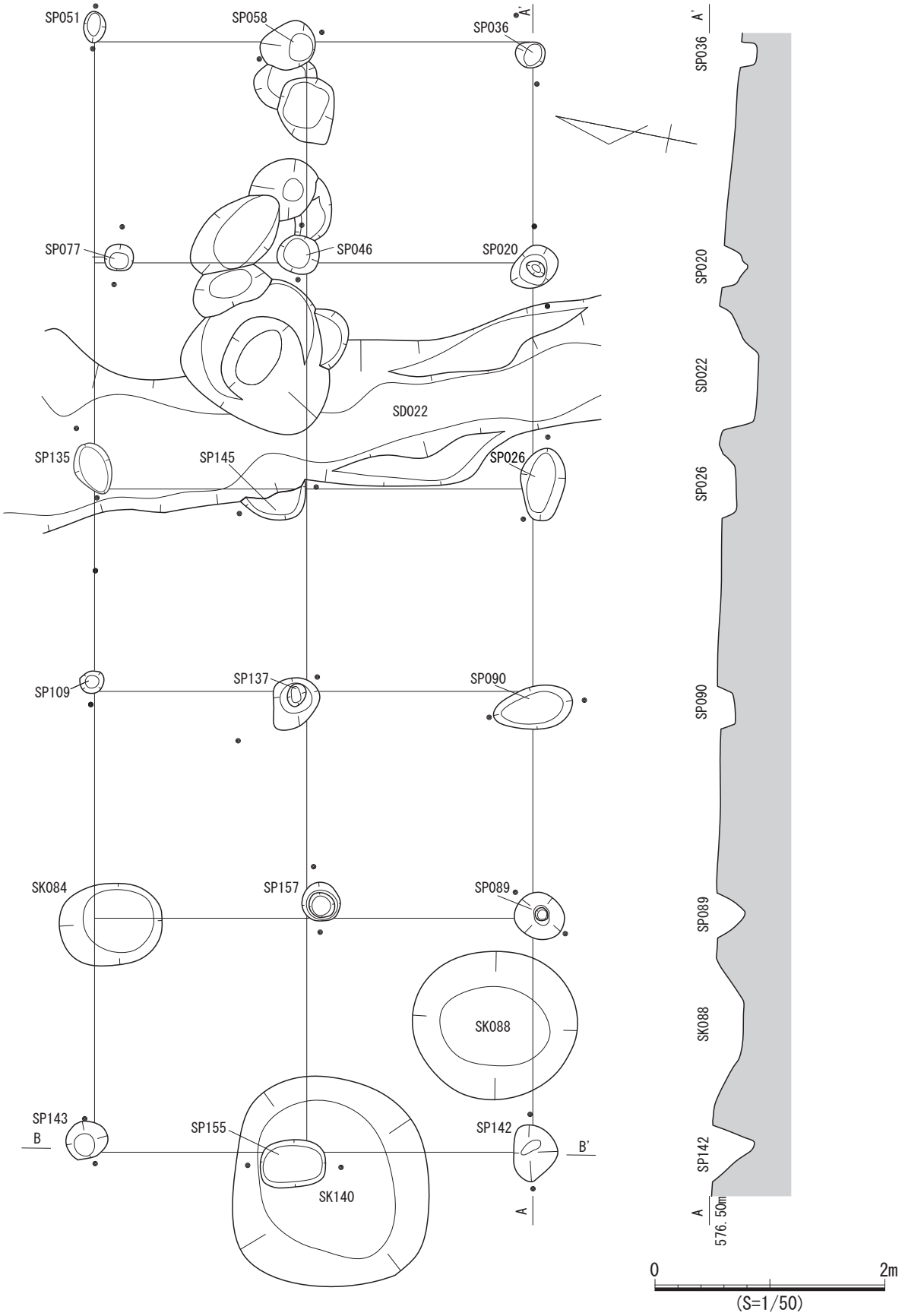

SP051
SP058
SP036
A'
SP077
SP046
SP020
SD022
SP135
SP145
SP026
SP109
SP137
SP090
SK084
SP157
SP089
SK088
SP143
B
SP155
SP142
B'
SK140
A
SP036
SP020
SD022
SP026
SP090
SP089
SK088
SP142
576.50m
0
2m
(S=1/50)

図９　SB１遺構図（１）

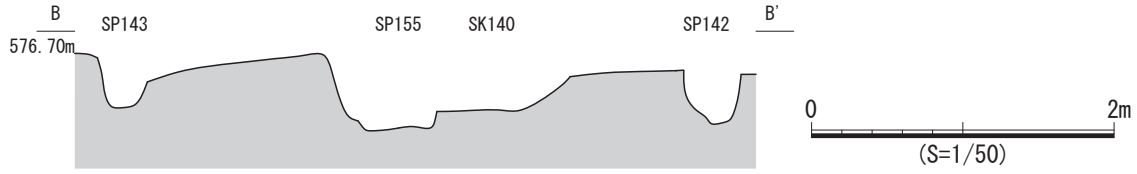


図 10　SB１遺構図（２）

規模・形状　２間（5.86m、柱間 2.82m～3.04m）である。長軸方位はＮ－75°－Ｅである。

柱穴　３基の柱穴から成る。平面形は、SP019 のみ方形に近い形状である。径は 0.27m～0.40m、深さは 0.13m～0.21mである。柱痕跡や柱当たりは確認できなかった。

遺物出土状況　遺物は出土しなかった。

時期　長軸方位が SA１と似ることから、本遺構の時期は SA１と同時期の 11 世紀以降と考える。

３　土坑

SK005（図 16・18）

検出状況　Ｆ７グリッド、Ⅲ層上面で検出した。遺構の東半は発掘区外に続く。

形状　東側が発掘区外に続くため、平面形は不明である。底面は平らで、断面の傾斜は北側は急である。南側は急であるが、１層からは緩やかに開く。

埋土　３層に分層した。２層はブロック土を含む。

遺物出土状況　埋土中から弥生土器・土師器７点、灰釉陶器４点が散在して出土した。

出土遺物　２点を図示した。２と３は古代の土師器で、２は碗、３は有台坏である。

時期　灰釉陶器が出土することから、本遺構の時期は平安時代以前と考える。

SK018（図 16・18）

検出状況　Ｆ５～Ｆ６グリッド、Ⅲ層上面で検出した。SK012・SK017・NR032 と重複し、SK012 より古く、SK017・NR032 より新しい。

形状　平面形は不定形である。底面は凸凹で、断面の傾斜は北側に段があり、それ以外は緩やかに開く。

埋土　２層に分層した。１層、２層ともブロック土を含む。

遺物出土状況　埋土中から弥生土器・土師器 14 点、須恵器３点、中世陶磁器２点、石器・石製品２点が散在して出土した。

出土遺物　２点を図示した。４は土師器で、古代の甕である。５は中国産磁器（青磁）で、龍泉窯系の碗である。

時期　青磁や古瀬戸卸皿が出土していることから、本遺構の時期は中世と考える。

SK068（図 16・18）

検出状況　Ｆ３グリッド、Ⅲ層上面で検出した。

形状　平面形は円形である。底面は丸く、断面の傾斜は緩やかに開く。

埋土　単層である。

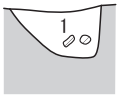
遺物出土状況　埋土中から中国産磁器（青磁）１点が出土した。

出土遺物　６は中世磁器（青磁）で、龍泉窯系Ⅱａ類の碗である。

SW　NE
576.60m

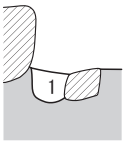
SP051
1 10YR3/3 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり

NW　SE
576.70m



SP058
1 10YR2/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり

SW　NE
576.90m



SP036
1 10YR3/3 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり

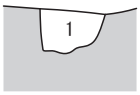
W　E
576.70m

SP077
1 10YR3/3 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり

SW　NE
576.80m

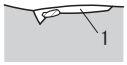
SP046
1 10YR3/3 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり

SW　NE
576.70m



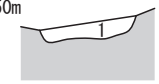
SP020
1 10YR3/3 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり

NE　SW
576.70m



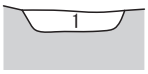
SP135
1 10YR2/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり

SE　NW
576.50m



SP145
1　10YR3/3　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり

NW　SE
576.70m

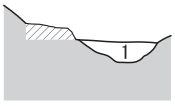


SP026
1 10YR2/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり

SW　NE
576.90m

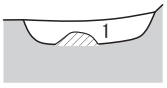
SP109
1 10YR3/3 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり

NW　SE
576.80m



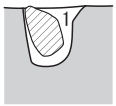
SP137
1 10YR3/3 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり

SE　NW
576.70m



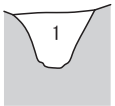
SP090
1 10YR2/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり

SW　NE
576.80m



SP157
1 10YR3/3 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
Ⅲ層ブロックを10%含む

SW　NE
576.70m

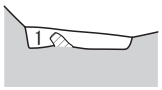


SP089
1 10YR2/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり

SW　NE
576.80m

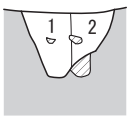
SP143
1 10YR3/3 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
径1～3cmの亜角礫を10%含む

NW　SE
576.70m



SP155
1 10YR3/3 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり

NE　SW
576.80m



SP142
1 10YR3/3 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
2 10YR3/3 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
Ⅲ層ブロックを2%含む

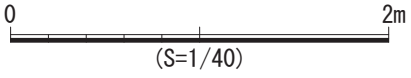


図 11　SB１遺構図（３）

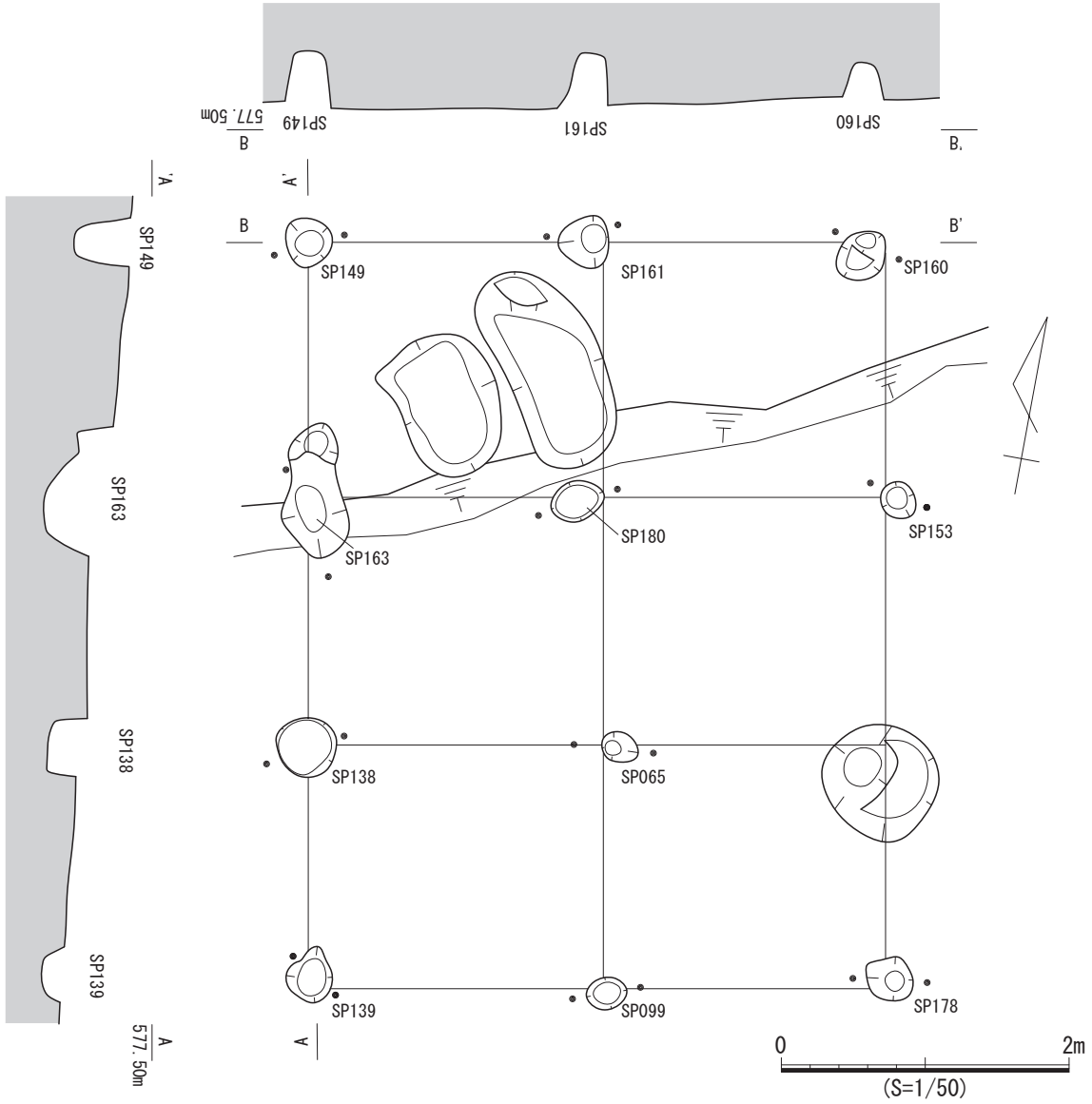


図 12　SB２遺構図（１）

時期　出土遺物から、本遺構の時期は 13 世紀前半以降と考える。

SK088（図 16・18）

検出状況　Ｇ３グリッド、Ⅲ層上面で検出した。

形状　平面形は円形である。底面は２段になっており、断面の傾斜は東西とも段があり、その後緩やかに開く。

埋土　２層に分層した。水平堆積である。

遺物出土状況　埋土中から中世磁器（青磁）１点が出土した。

出土遺物　７は中国産磁器の青磁で、龍泉窯系Ⅱａ類の碗である。

時期　出土遺物から、本遺構の時期は 13 世紀前半以降と考える。

SK126（図 16・18）

検出状況　Ｉ２グリッド、Ⅲ層上面で検出した。遺構の南半は発掘区外に続く。

形状　南側が発掘区外に続くため、平面形は不明である。底面は平らで、断面の傾斜は西側は緩やか

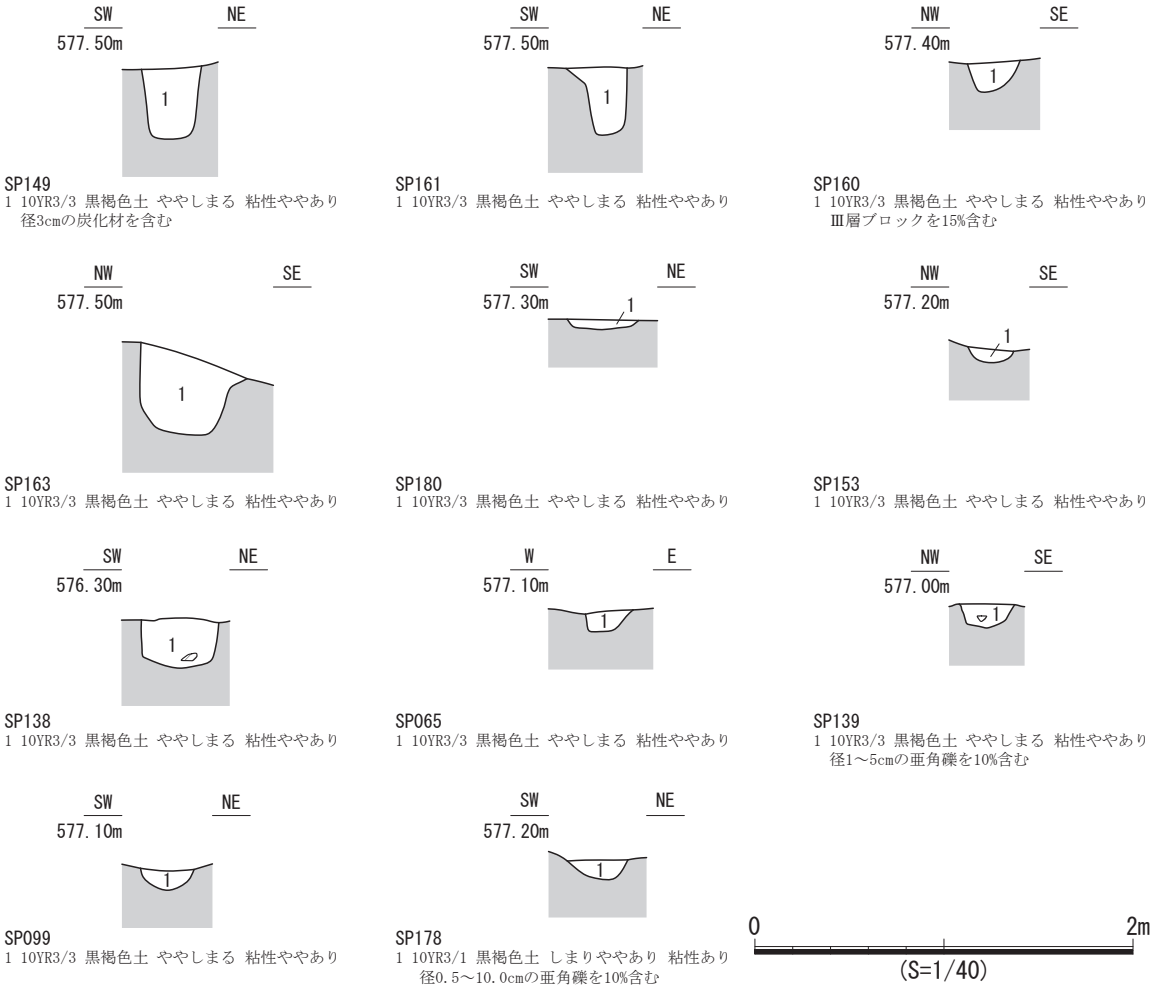


図 13　SB２遺構図（２）

に開く。東側は段があり、その後開いて立ち上がる。

埋土　単層である。

遺物出土状況　埋土中から石器・石製品（砥石）１点が出土した。

出土遺物　８は砥石である。

時期　周辺遺構の時期を踏まえると、本遺構の時期は中世以前と考える。

４　溝

SD022（図 17・18）

検出状況　Ｃ３～Ｉ５グリッド、Ⅲ層上面で検出した。Ｈ４グリッドでは段切り造成による削平を受けていることから、遺構が一部途切れているが、一連の遺構とした。SB１の柱穴である SP145 と重複し、本遺構が新しい。

規模・形状　全長 28.73mの南北方向の溝である。発掘区の中央やや西側を蛇行するように位置しており、南端は発掘区外に延びる。Ａ－Ａ’断面では幅 1.69m、深さ 0.51m、Ｂ－Ｂ’断面では幅 1.41m、深さ 0.36m、Ｃ－Ｃ’断面では幅 1.64m、深さ 0.41mである。底面はＡ－Ａ’断面からＢ－Ｂ’断面にかけては丸く、Ｃ－Ｃ’断面付近では底が２段となる。壁面は、Ａ－Ａ’断面からＢ－Ｂ’断面にかけては急に立ち上がり、Ｃ－Ｃ’断面付近では緩やかに開く。

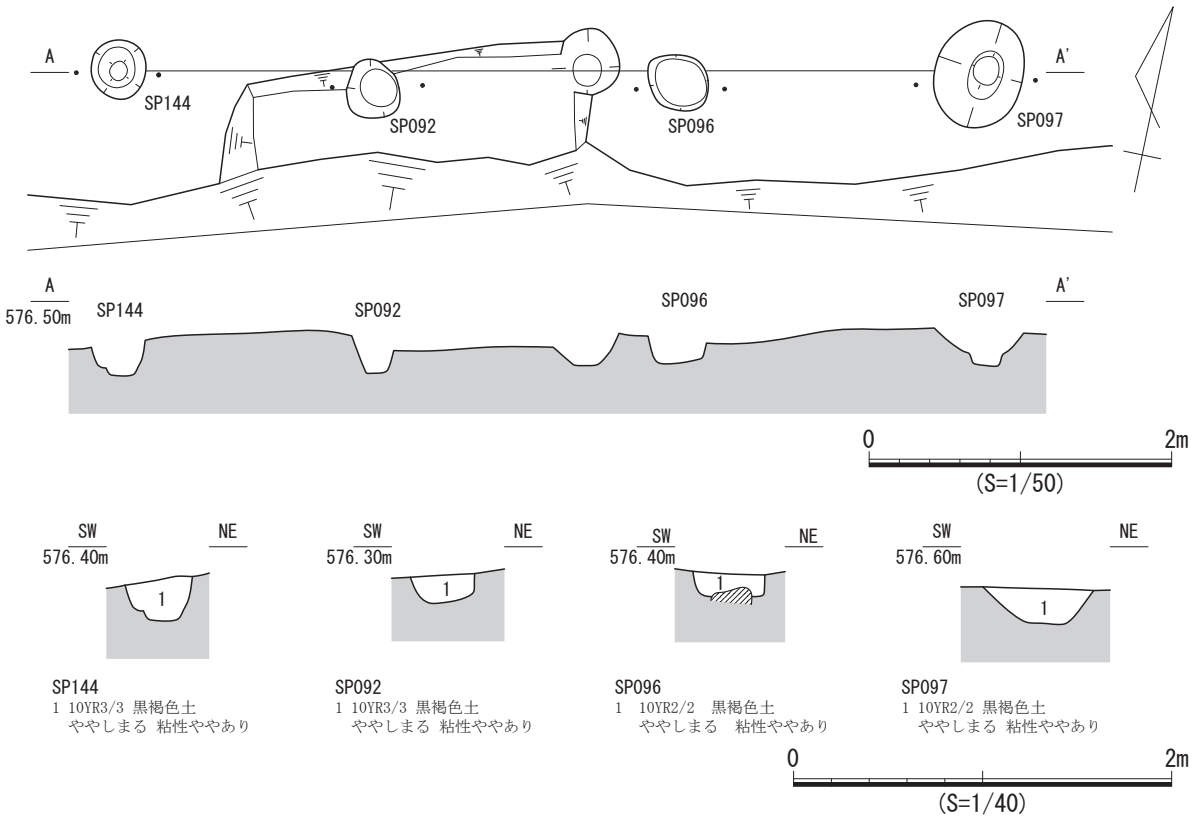


図 14　SA１遺構図

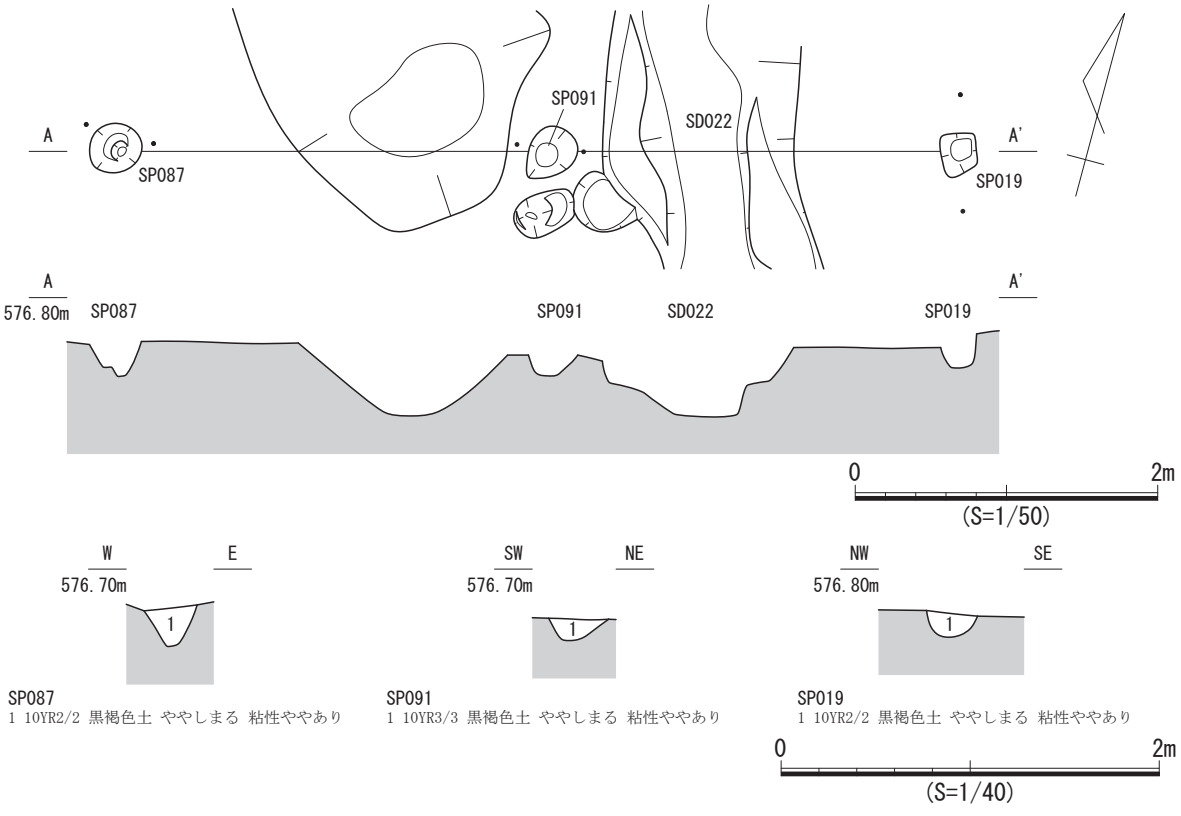
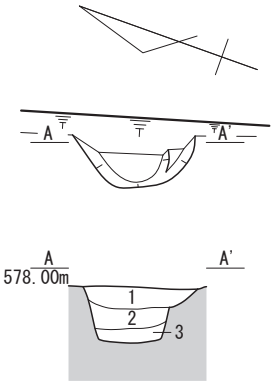
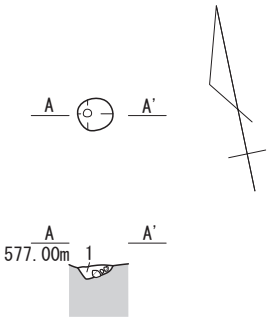


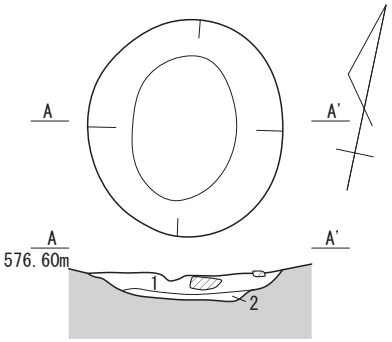
図 15　SA２遺構図



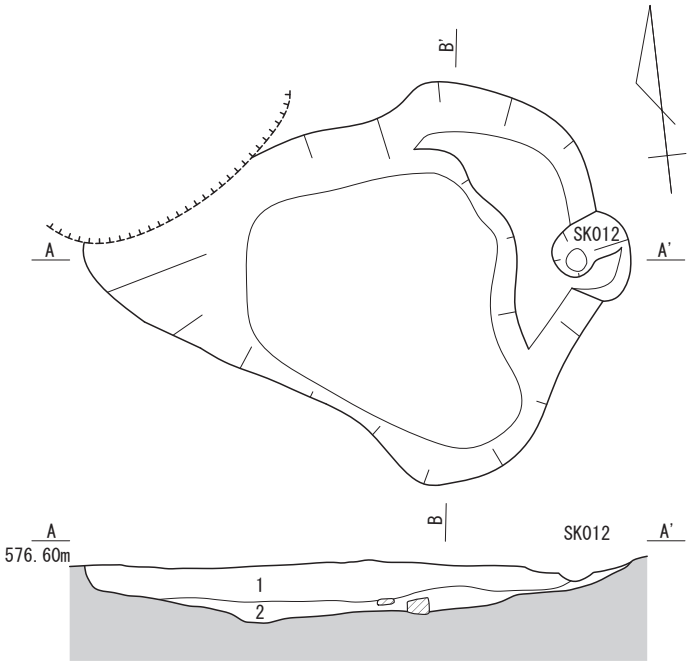
SK005
1　10YR3/3　暗褐色土　ややしまる　粘性ややあり
2　10YR3/4　暗褐色土　ややしまる　粘性ややあり
　Ⅲ層ブロックを3%含む
3　10YR4/6　褐色土　ややしまる　粘性ややあり



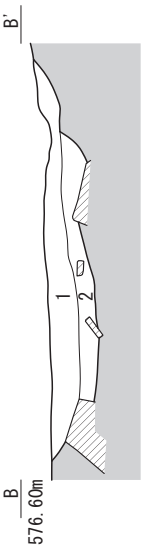
SK068
1　10YR3/3　黒褐色土
　ややしまる　粘性ややあり

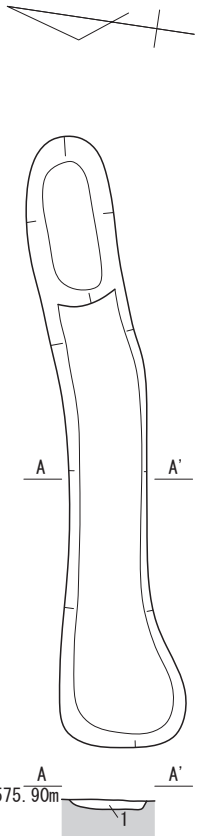


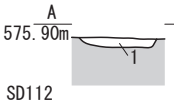
SK088
1　10YR2/2　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり
2　10YR4/4　褐色砂礫土　ややしまる　粘性なし



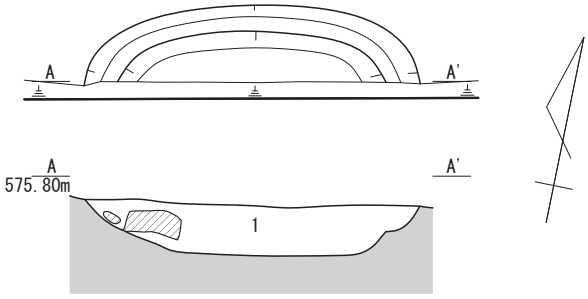
SK018
1　10YR2/3　黒褐色土　しまりややあり　粘性ややあり　径3～5cmのⅢ層ブロック土を10%含む
2　10YR4/3　にぶい黄褐色土　しまりややあり　粘性ややあり　径2～5cmのⅢ層ブロック土を10%含む







SD112
1　10YR3/3　黒褐色土
　ややしまる　粘性ややあり



SK126
1　10YR3/3　黒褐色土　ややしまる　粘性ややあり　径1～3cmの亜角礫を3%含む

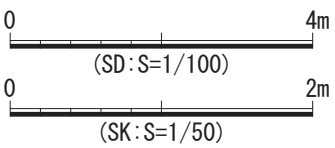


図 16　SK・SD 遺構図

埋土　Ａ－Ａ’断面は３層、Ｂ－Ｂ’断面は２層に分層した。Ａ－Ａ’断面２層は直径 10 ㎝～20㎝の亜角礫を含む。Ａ－Ａ’断面３層、Ｂ－Ｂ’断面２層は褐色砂礫土である。Ｃ－Ｃ’断面は２層に分層した。埋土は黒褐色土又は黒色土であり、直径 1.0 ㎝～5.0㎝の亜角礫を含む。

遺物出土状況　埋土中から縄文土器１点、弥生土器・土師器 15 点、中世陶器１点が散在して出土した。

出土遺物　４点を図示した。９～11 は弥生土器で、９・10 は弥生時代中期の横羽状文甕、11 は弥生時代終末期の有段口縁甕である。12 は古瀬戸後Ⅰ期の浅碗である。

時期　出土遺物の最新の時期である 12 から、本遺構の時期は 14 世紀後葉以前と考える。

SD112（図 16・18）

検出状況　Ｉ３～Ｉ４グリッド、Ⅲ層上面で検出した。

規模・形状　全長 8.13ｍの東西方向の溝である。発掘区の南西に位置する。Ａ－Ａ’断面では幅 1.01ｍ、深さ 0.12ｍである。底面は平らで東側がやや深くなる。断面の傾斜は緩やかに開く。

埋土　単層である。

遺物出土状況　埋土中から須恵器１点、中世陶器２点、金属製品１点が散在した。

出土遺物　２点を図示した。13・14 は古瀬戸で、古瀬戸後Ⅰ期の卸皿と擂鉢型小鉢である。

時期　出土遺物のうち最新の時期である 13・14 から、本遺構の時期は 14 世紀後葉頃と考えられる。

５　自然流路と自然流路内出土遺物

自然流路の堆積層中からは、弥生土器、土師器・須恵器を中心に縄文時代から古代までの遺物が出土した。自然流路は人為的に掘削された遺構ではないが、遺構の立地や時期を考える上で重要な資料となるため、項を設け説明する。

NR017（図 17・19・20）

検出状況　Ｆ５～Ｉ６グリッド、標高 576.4ｍから 575.8ｍ程の高さのⅢ層上面で検出した。南側が低くなる緩傾斜地である。NR032 と重複し、本遺構が古い。

規模・形状　発掘区の中央に位置しており、南端は発掘区外に延びる。自然流路の最大上端幅は 6.60ｍである。平面形は不正形である。底面は西側が段状になる。壁面の傾斜は西側が緩やかで、東側は急である。

埋土　２層（Ｅ－Ｅ’断面４層・５層）に分層した。いずれも砂礫土であり、４層が東側に傾いて堆積する。

遺物出土状況　埋土中から縄文土器８点、弥生土器・土師器 274 点、須恵器 191 点、灰釉陶器 38 点、石器・石製品６点が散在して出土した。

出土遺物　39 点を図示した。15～26 は土師器である。15～18 は古墳時代前期の高坏である。19～26 は７世紀末頃の甕と考えられる。27～50 は須恵器である。27～30 は坏蓋である。27 は城山２号窯式で、平坦な天井部をもち、体部は垂直に立ち上がる。28・29 は美濃須衛Ⅳ期第３小期、30 は美濃須衛Ⅳ期第３小期併行の在地産である。31・32 は壺蓋で、31 は美濃須衛Ⅲ期前半、32 は美濃須衛Ⅳ期第３小期～Ⅴ期第１小期である。33～35 は坏身で、33 は蝮ケ池窯式併行の畿内系、34・35 は美濃須衛Ⅲ期後半である。36～39 は無台坏である。36・37 は美濃須衛Ⅳ期第１小期で、36 は鉢写し、37 は佐波理碗写しである。38 は折戸 10 号窯式、39 は在地産と考える。39 は底部内面が摩耗している。40～

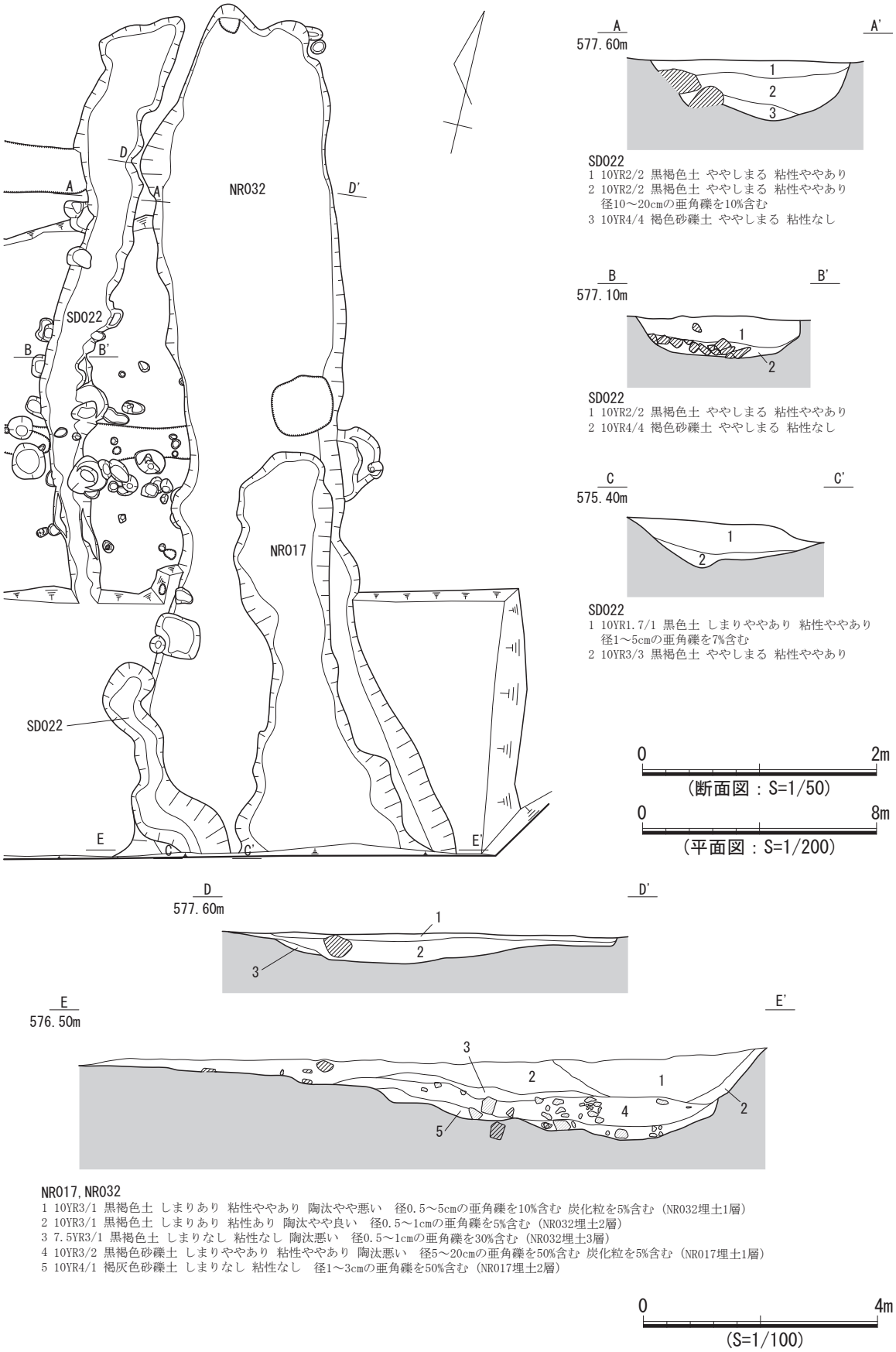

NR032
NR017
SD022
A
A'
B
B'
C
C'
D
D'
E
E'
577.60m
577.10m
575.40m
576.50m
SD022
1 10YR2/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
2 10YR2/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
径10～20cmの亜角礫を10%含む
3 10YR4/4 褐色砂礫土 ややしまる 粘性なし
SD022
1 10YR2/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
2 10YR4/4 褐色砂礫土 ややしまる 粘性なし
SD022
1 10YR1.7/1 黒色土 しまりややあり 粘性ややあり
径1～5cmの亜角礫を7%含む
2 10YR3/3 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
0 2m
(断面図：S=1/50)
0 8m
(平面図：S=1/200)
NR017,NR032
1 10YR3/1 黒褐色土 しまりあり 粘性ややあり 陶汰やや悪い 径0.5～5cmの亜角礫を10%含む 炭化粒を5%含む (NR032埋土1層)
2 10YR3/1 黒褐色土 しまりあり 粘性あり 陶汰やや良い 径0.5～1cmの亜角礫を5%含む (NR032埋土2層)
3 7.5YR3/1 黒褐色土 しまりなし 粘性なし 陶汰悪い 径0.5～1cmの亜角礫を30%含む (NR032埋土3層)
4 10YR3/2 黒褐色砂礫土 しまりややあり 粘性ややあり 陶汰悪い 径5～20cmの亜角礫を50%含む 炭化粒を5%含む (NR017埋土1層)
5 10YR4/1 褐灰色砂礫土 しまりなし 粘性なし 径1～3cmの亜角礫を50%含む (NR017埋土2層)
0 4m
(S=1/100)

図 17　SD・NR 遺構図

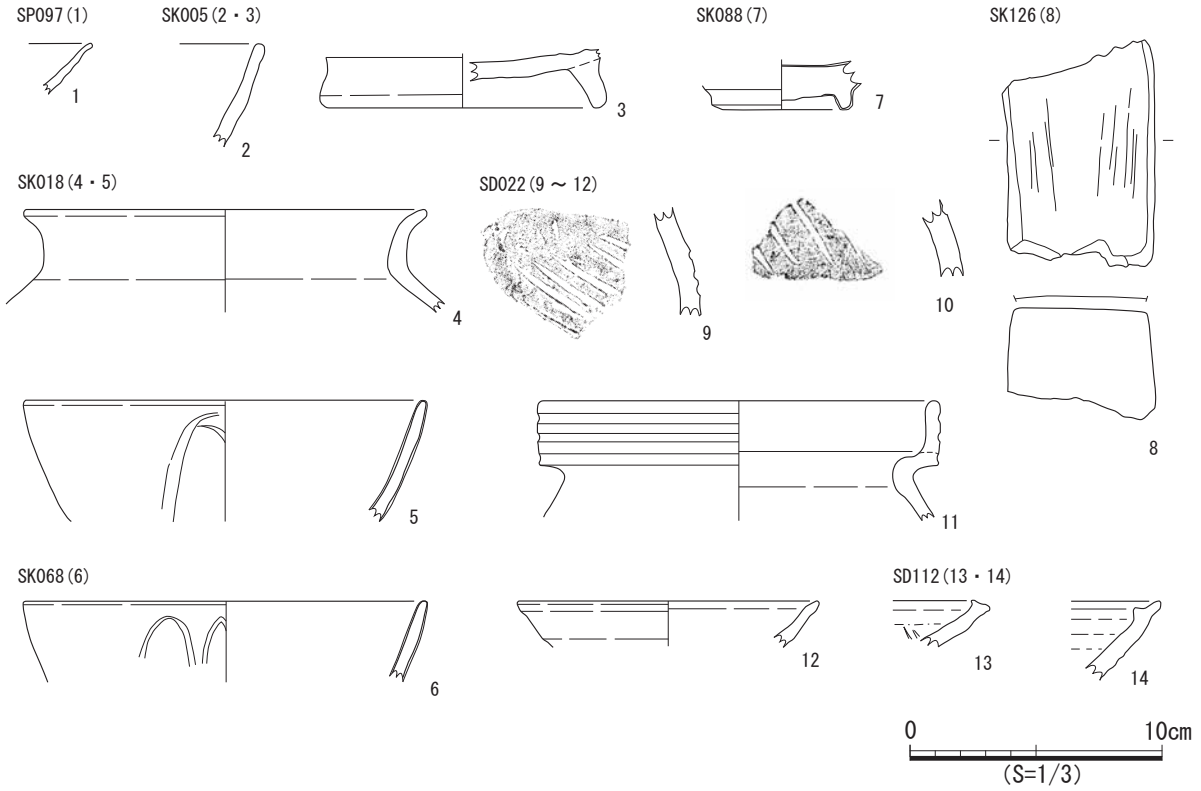


図 18　SP・SK・SD 出土遺物

42 は有台坏で、40 は鳴海 32 号窯式、41・42 は美濃須衛Ⅳ期第３小期である。43 は岩崎 17 号窯式併行の尾張系の甕である。44～46 は短頸壺で、44 は岩崎 17 号窯式併行の在地産、45・46 は折戸 10 号窯式である。47 は美濃須衛Ⅳ期第２小期併行の在地産の横瓶である。48・49 は壺で、48 は岩崎 25 号窯式～折戸 10 号窯式、49 は折戸 10 号窯式である。50 は美濃須衛窯産の甕である。51～53 は石器である。51 はスクレイパー、52 は打製石斧、53 は磨製石斧である。

時期　灰釉陶器が出土していることから、本遺構の時期は平安時代以前と考える。

NR032（図 17・21・22）

検出状況　Ｃ４～Ｉ６グリッド、標高 577.5ｍから 575.8ｍ程の高さのⅢ層上面で検出した。南側が低くなる緩傾斜地である。NR017 と重複し、本遺構が新しい。

規模・形状　発掘区の中央に位置しており、南端は発掘区外に続く。自然流路の最大上端幅は 11.68ｍである。平面形は不正形である。底面は凸凹で、断面の傾斜は西側が緩やかで、東側が急である。

埋土　Ｄ－Ｄ’断面は２層、Ｅ－Ｅ’断面は３層に分層した。埋土はいずれも黒褐色土であり、１層はＤ－Ｄ’断面付近では薄く堆積するが、Ｅ－Ｅ’断面付近では２層・３層とは別の落ち込みとなっている。

遺物出土状況　埋土中から縄文土器２点、弥生土器・土師器 384 点、須恵器 110 点、灰釉陶器 18 点、石器・石製品３点が散在して出土した。

出土遺物　40 点を図示した。54～81 は古墳時代前期の土師器である。54～69 は高坏で、55・56・59 は外面に鉄滓が融着している。70・71 は壺、72～80 は甕、81 は甑の把手である。82～92 は須恵器である。82～84 は坏蓋で、82 は東山 11 号窯式併行、83・84 は美濃須衛Ⅳ期第３小期である。85 は蝮ケ池窯式の坏身である。86 は美濃須衛Ⅳ期第３小期の有台坏である。87～89 は美濃須衛Ⅲ期後半の

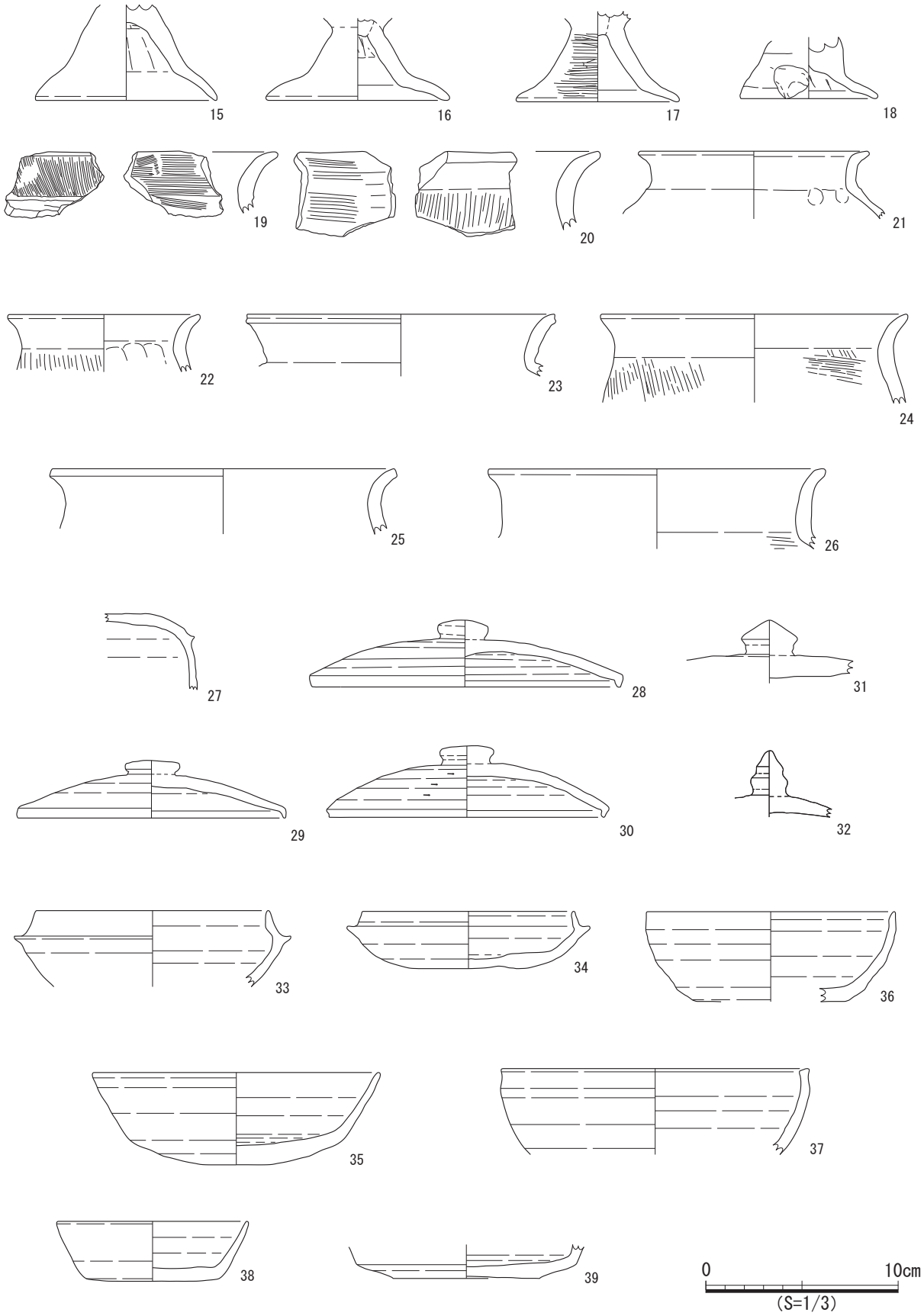


図 19　NR017 出土遺物（１）

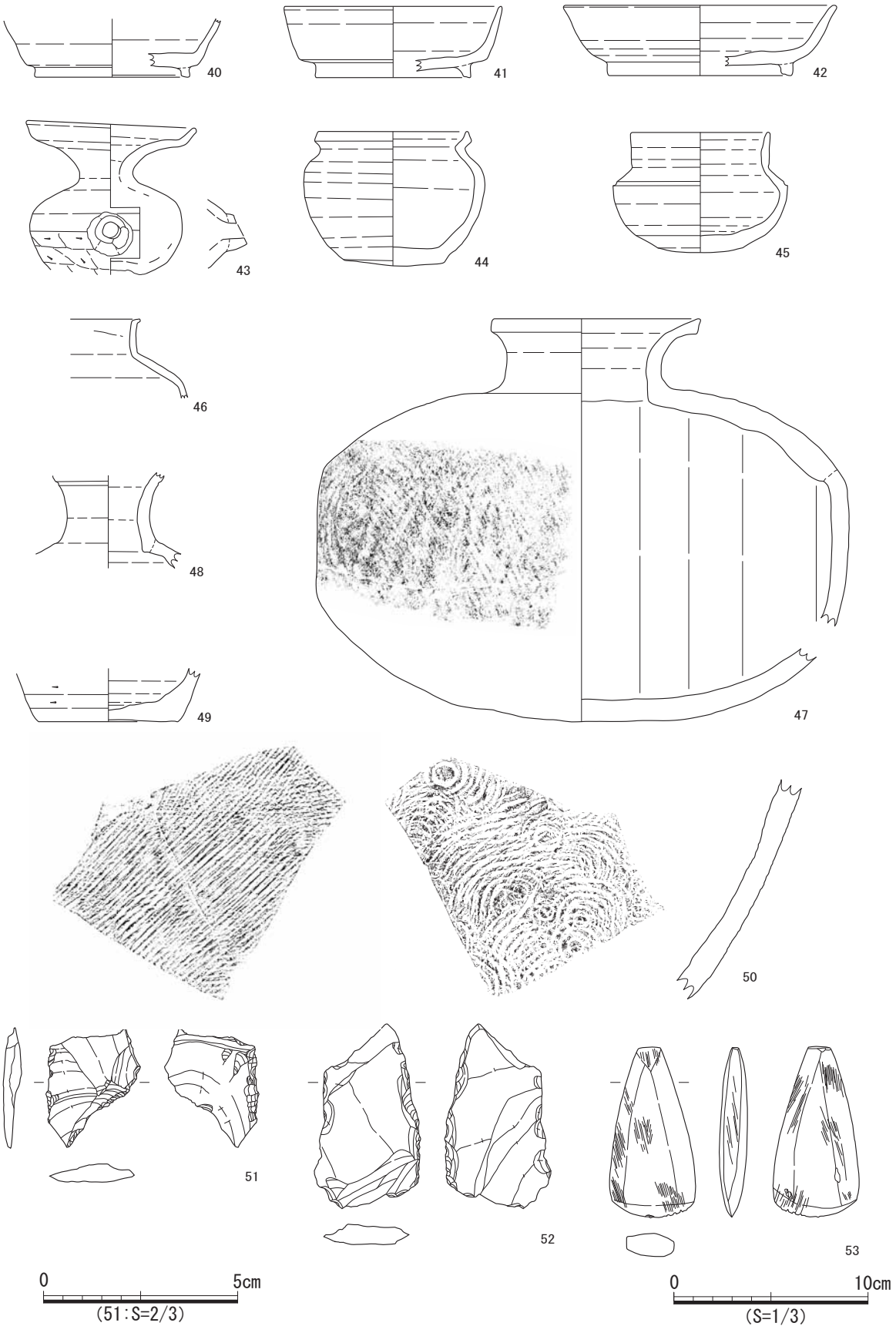


図 20　NR017 出土遺物（２）

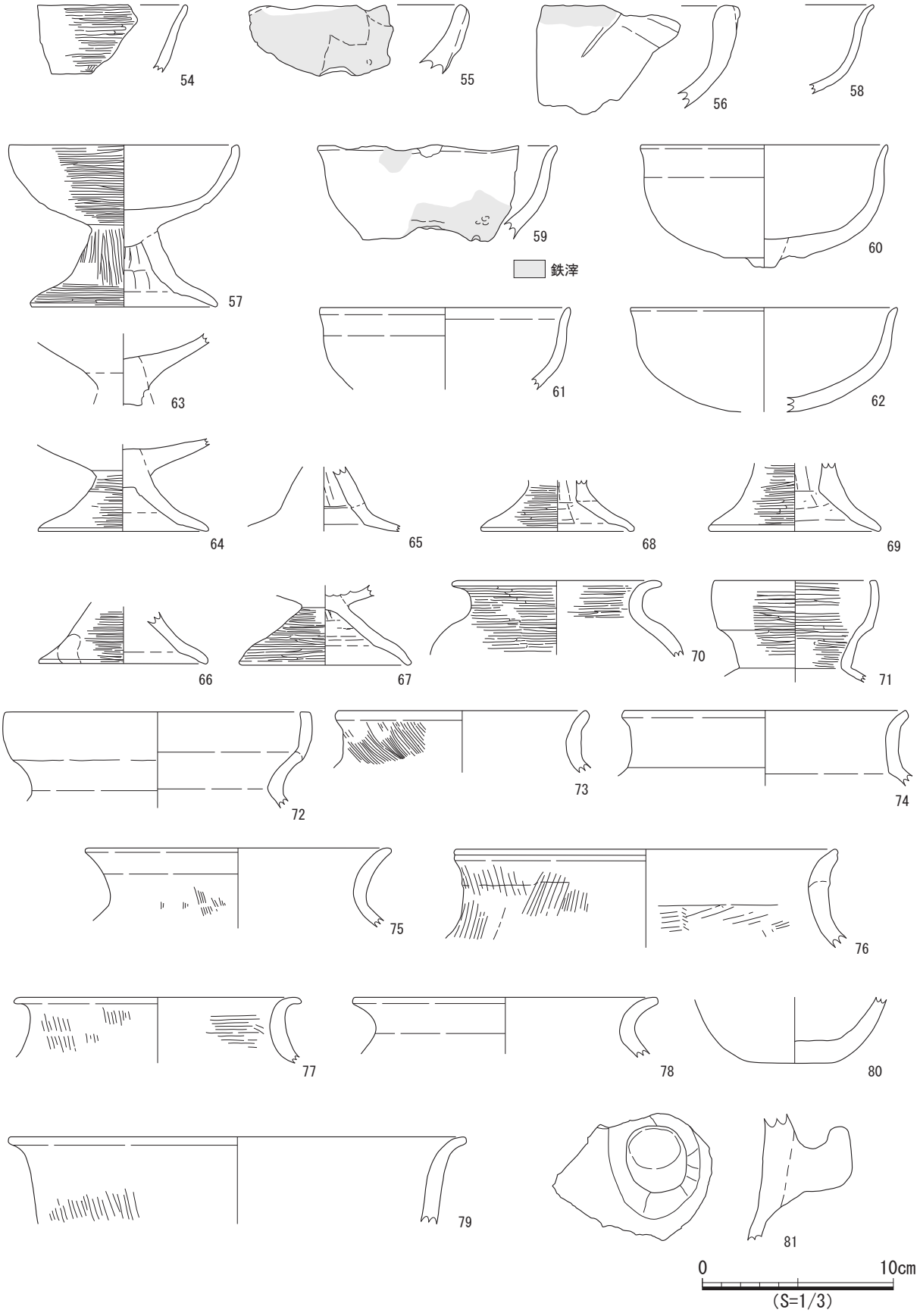


図 21　NR032 出土遺物（１）

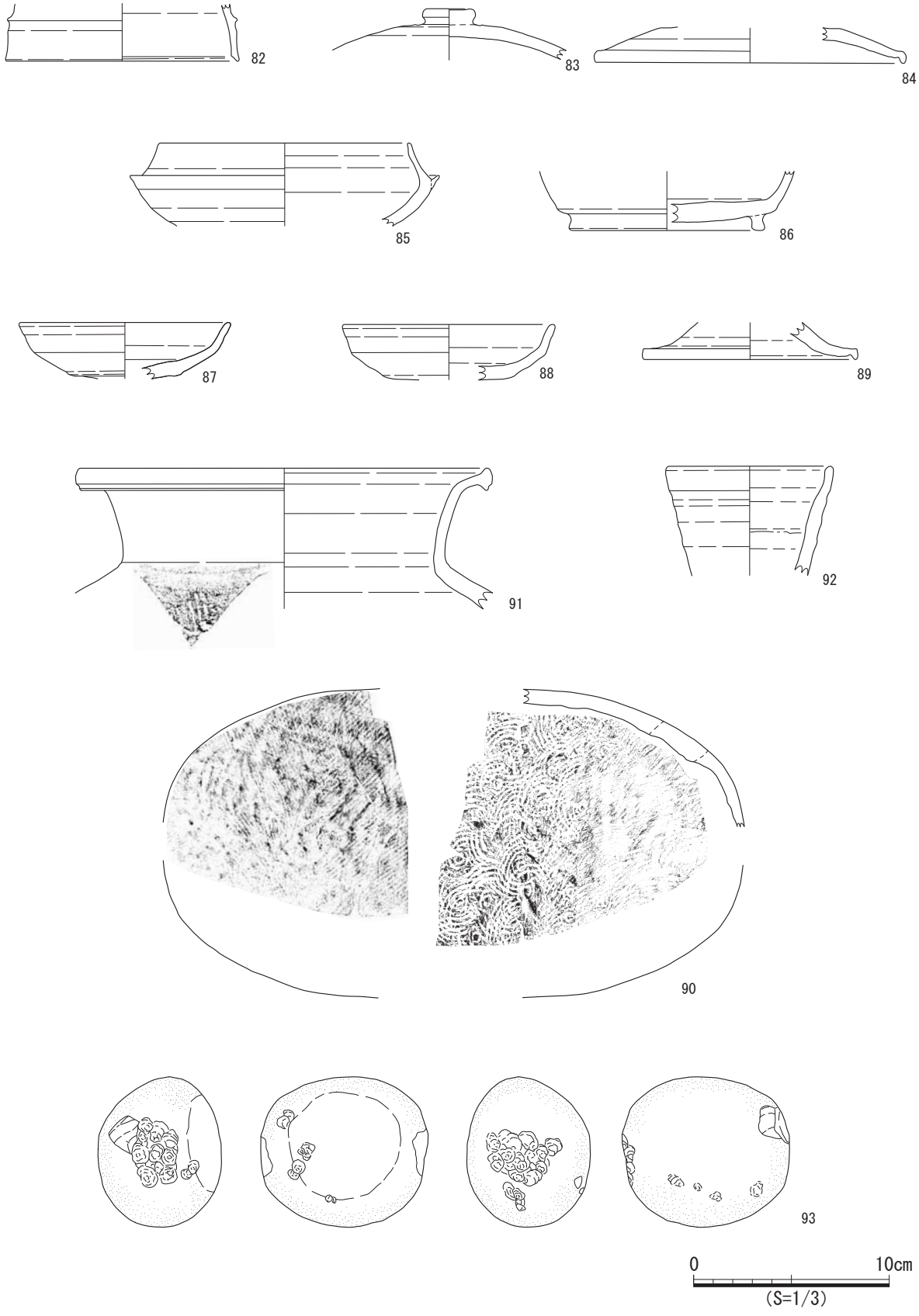


図 22　NR032 出土遺物（２）

高坏である。90 は美濃須衛Ⅳ期第２小期の横瓶である。91 は美濃須衛窯産の甕である。92 は灰釉陶器の瓶類である。93 は石器で、磨石・敲石類である。

時期　灰釉陶器が出土していることから、本遺構の時期は平安時代以前と考える。また、重複関係から、NR017 より新しい。

６　遺構外出土遺物（図 23～25）

比較的残存状態が良い遺物、時期が判明した遺物などを中心に 38 点を図示した。

94～97 は縄文時代早期前半の深鉢である。外面に 94 は撚糸文、95・96 は山形文、97 は楕円文を施す。98～100 は土師器の無台坏である。101～112 は須恵器である。101 は美濃須衛Ⅳ期第２小期の坏蓋で、内面に煤が付着しており、灯明皿として使用された可能性がある。102～104 は坏身である。102 は東山 44 号窯式、103 は東山 44 号窯式併行の畿内系、104 は美濃須衛Ⅲ期後半である。105～108 は無台坏で、105 は美濃須衛Ⅲ期後半、106 は美濃須衛Ⅳ期第１小期併行の在地産、107 は美濃須衛Ⅴ期第１小期併行の在地産、108 は美濃須衛Ⅴ期第２小期併行の在地産である。106 は底面に墨書があるが、判読不能である。109 は猿投窯産の古代の横瓶である。110～112 は甕で、110 は古代の美濃須衛窯産、111 は東山 44 号窯式併行の在地産、112 は美濃須衛Ⅱ期～Ⅲ期である。113～122 は灰釉陶器である。113～119 は百代寺窯式併行の碗である。120 は百代寺窯式併行の皿、121 は百代寺窯式併行の瓶類、122 は東山 72 号窯式～百代寺窯式併行の壺である。123 は古瀬戸後Ⅳ期古段階の端反碗である。124 は中国産磁器の青磁で、龍泉窯系の碗である。125～130 は石器・石製品である。125 は楔形石器、126 は RF、127 は石核、128 は打製石斧、129 は磨石・敲石類である。130 は御物石器である。頭部・尾部を敲打により平坦にしている。底面にも敲打痕が認められるが、それほど平坦ではない。頭部と尾部の間は剥離敲打により抉りを入れる。

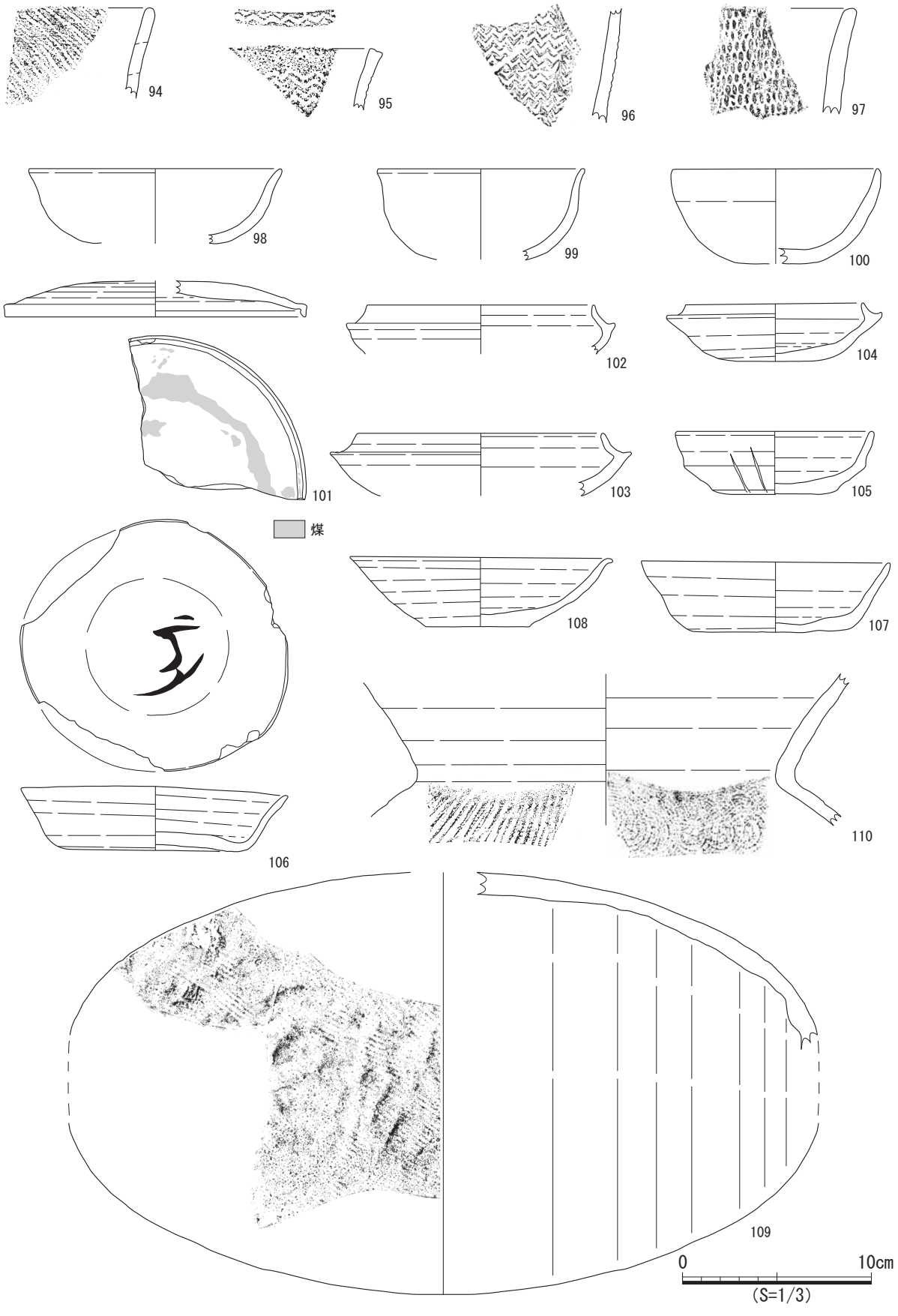


図 23　遺構外出土遺物（１）

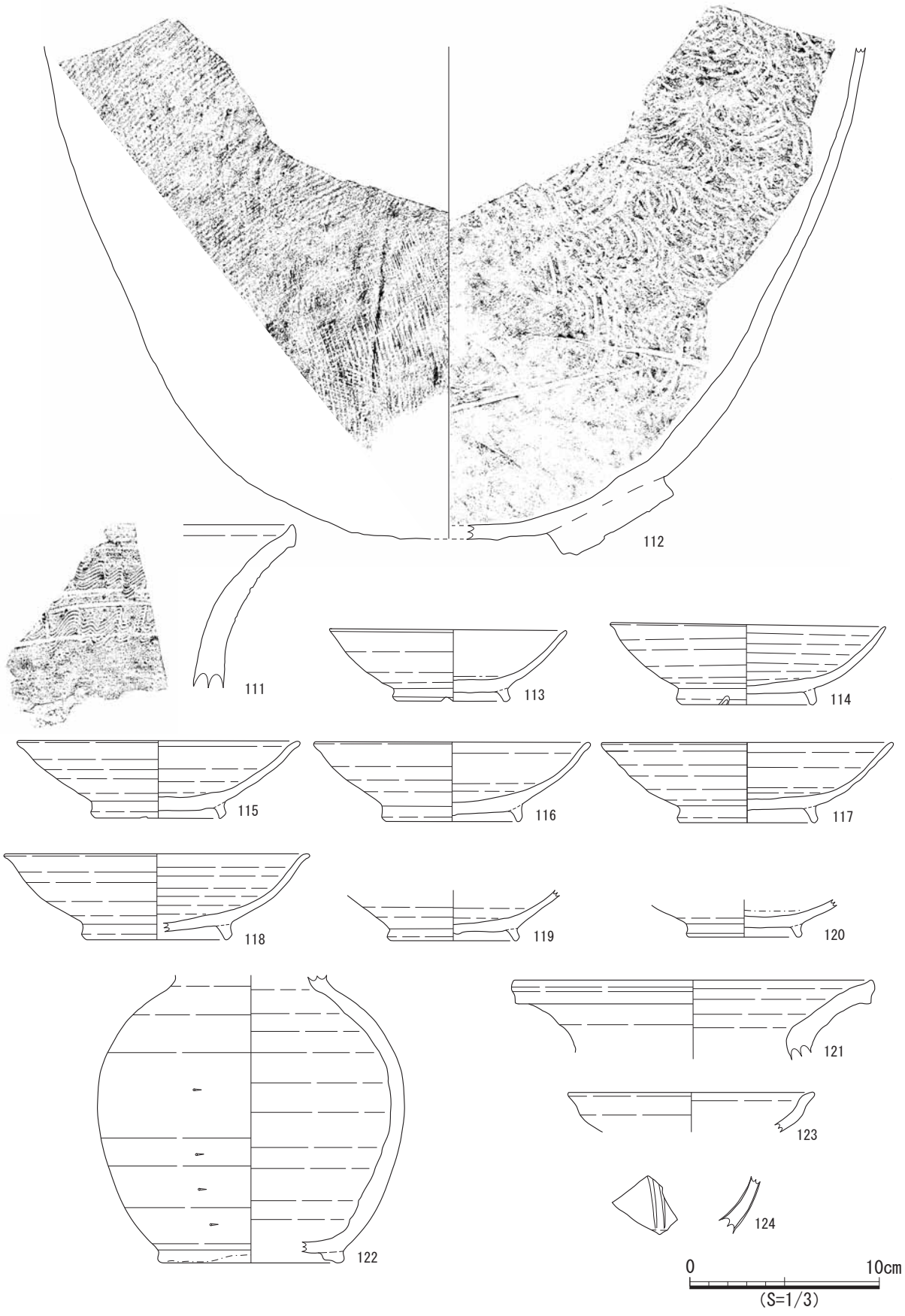


図 24　遺構外出土遺物（２）

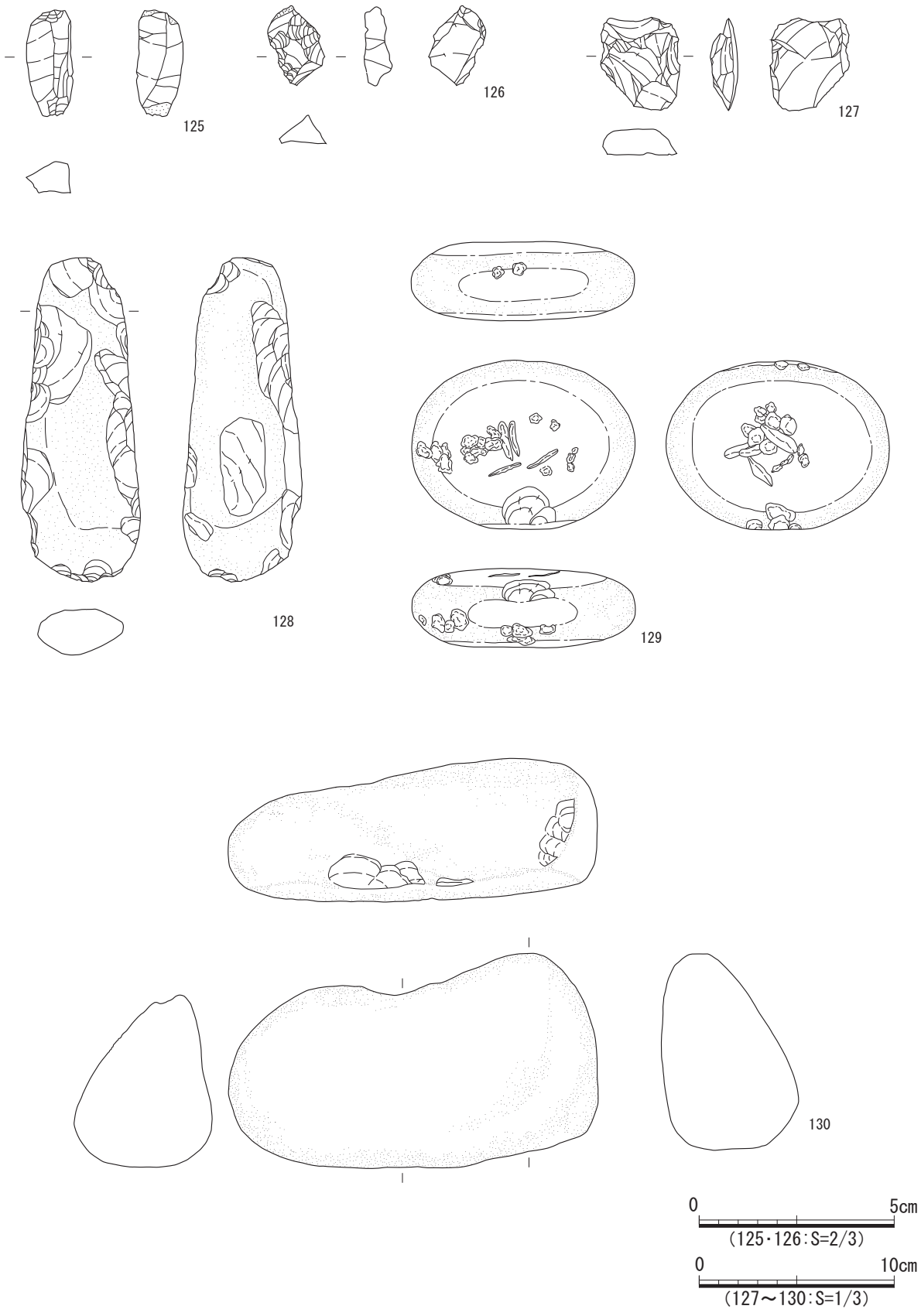


図 25　遺構外出土遺物（３）

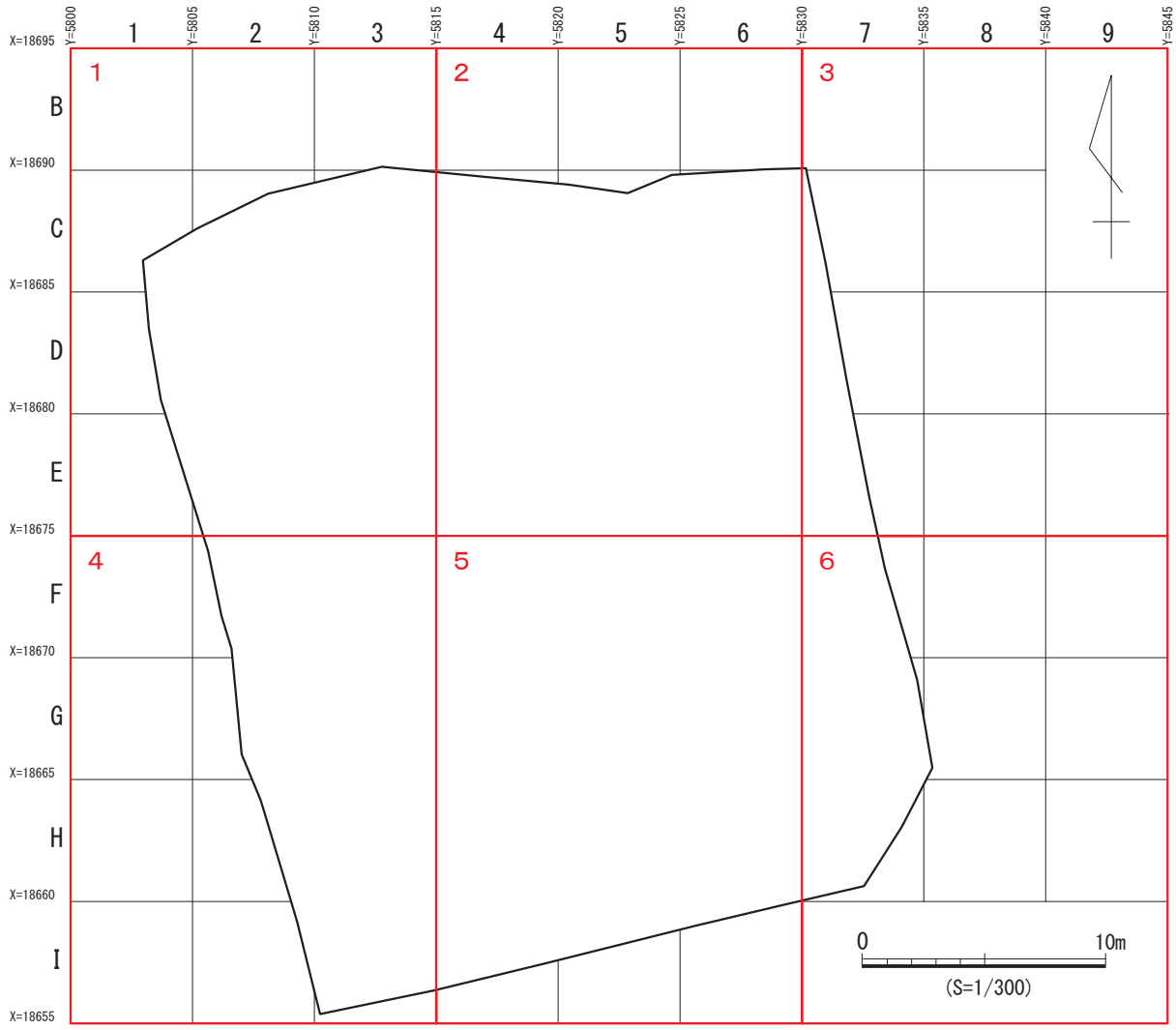


図 26　発掘区図面割り図

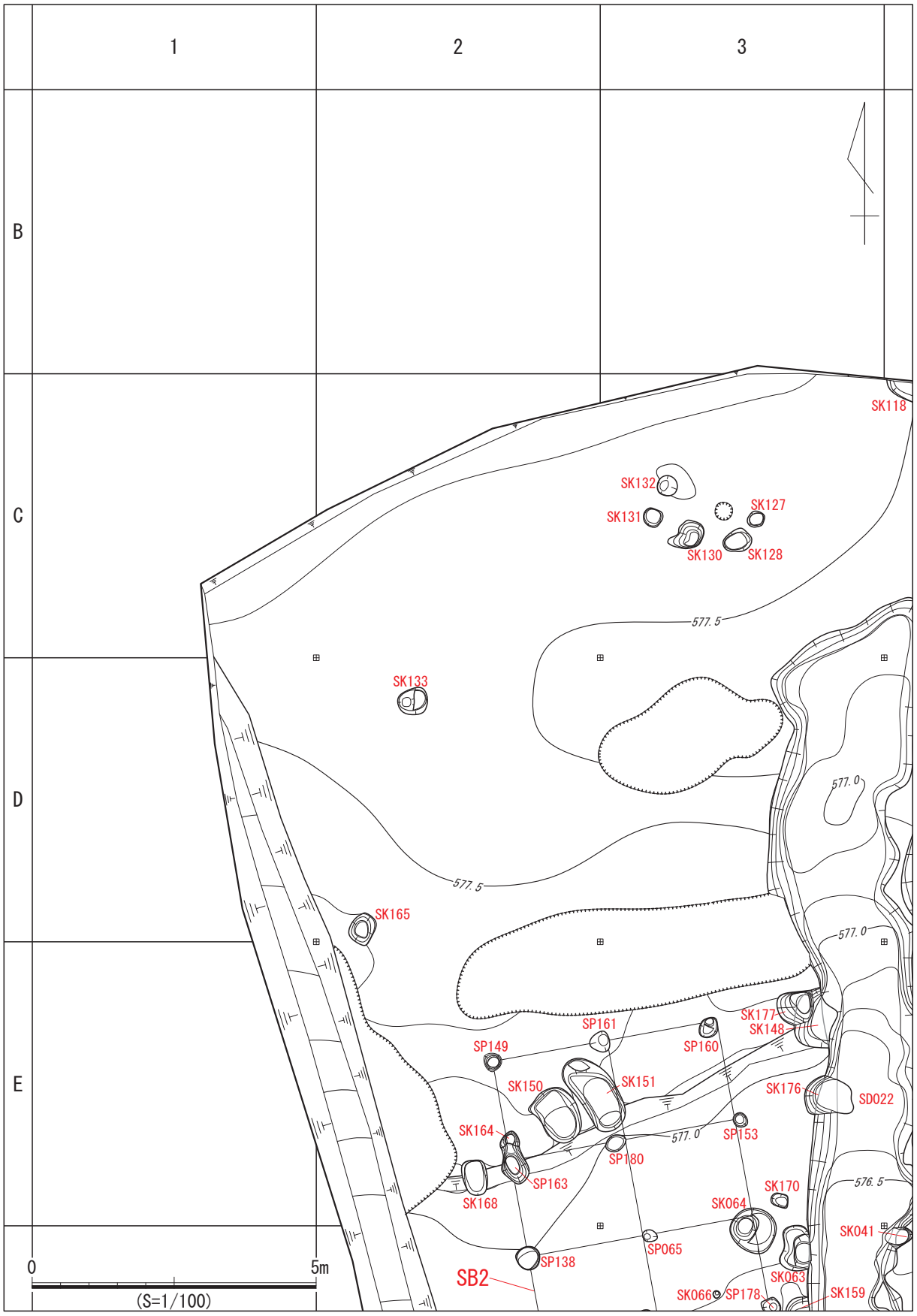


図 27　発掘区全域図分割図（１）

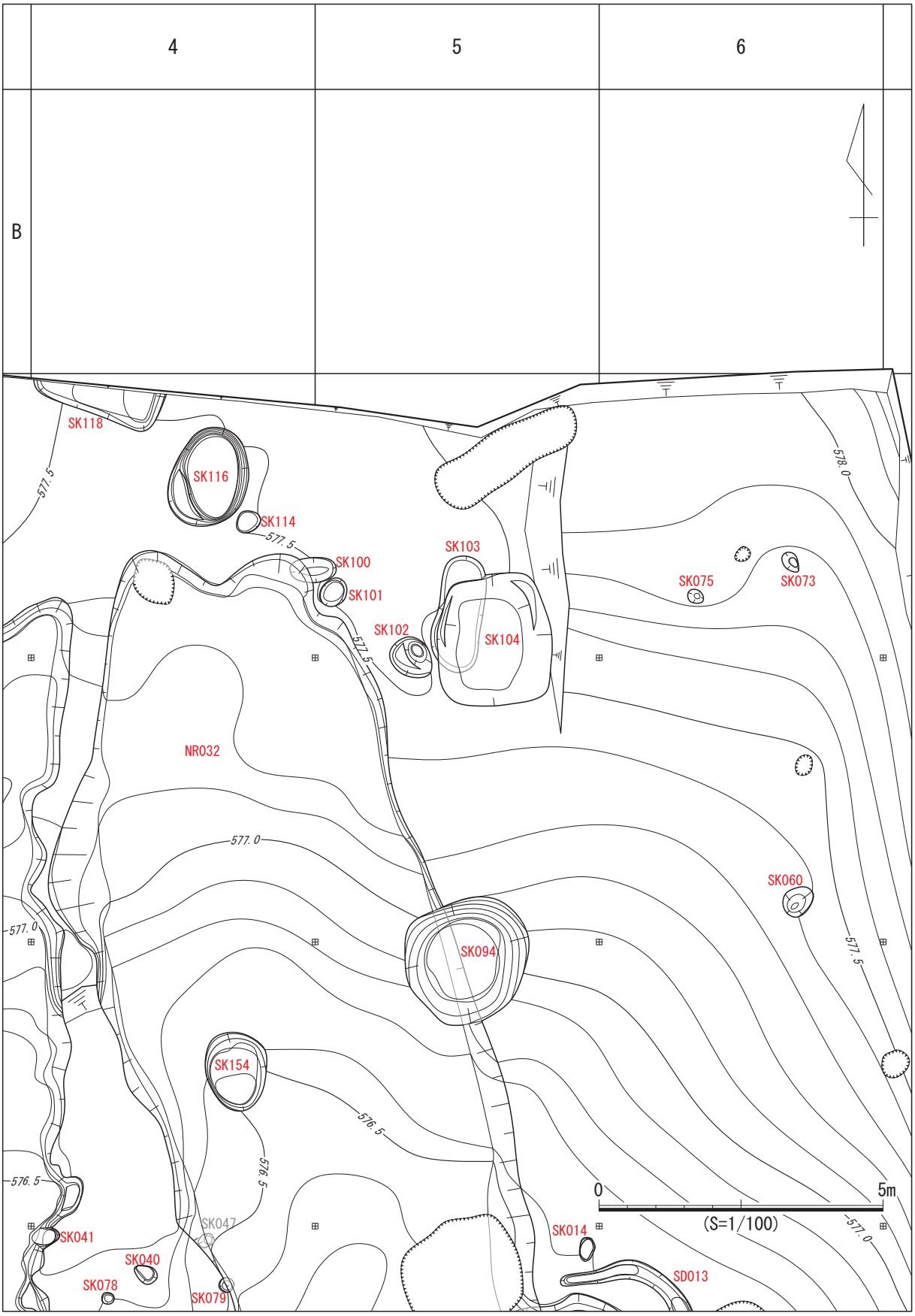


図 28　発掘区全域図分割図（２）

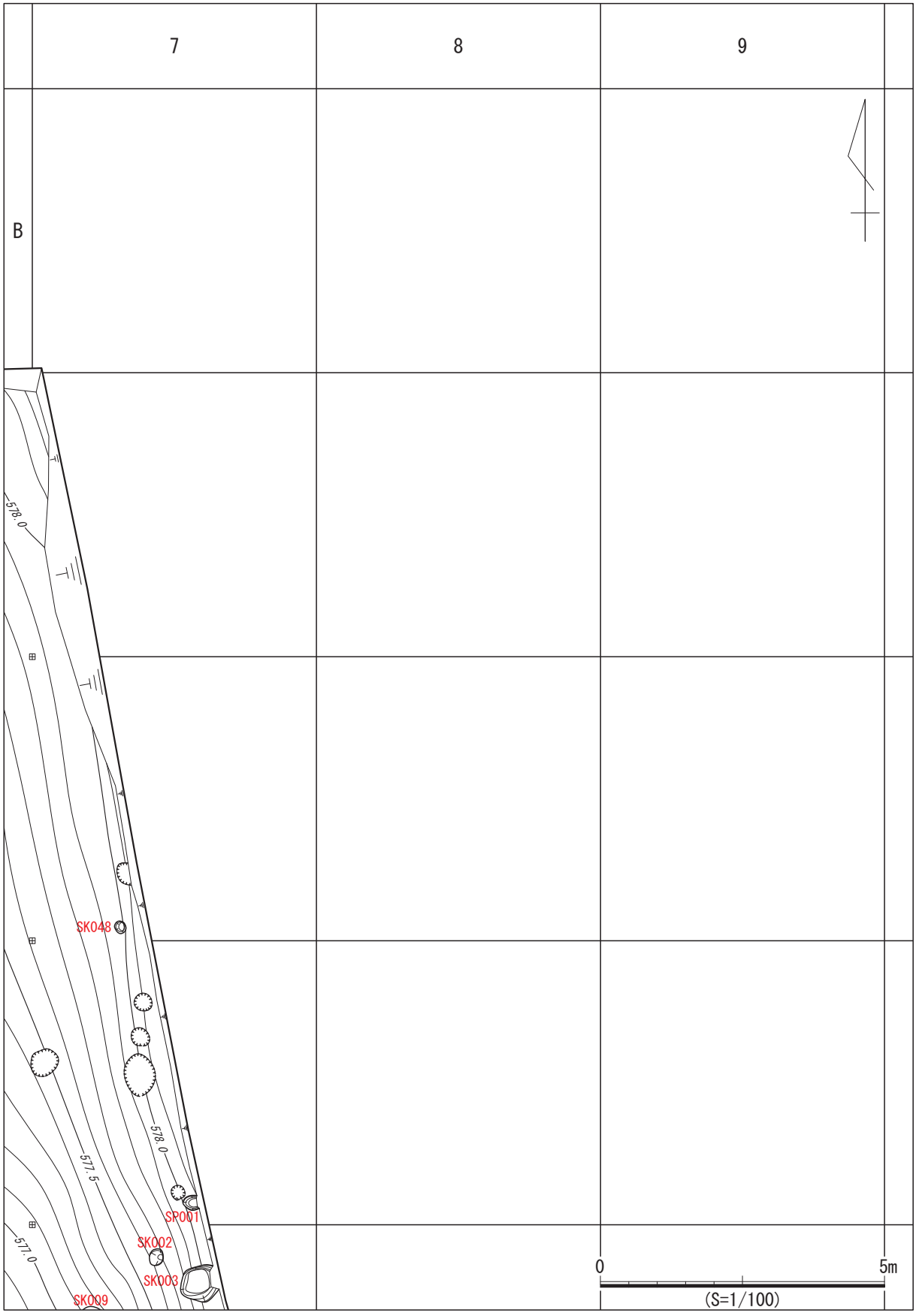


図 29　発掘区全域図分割図（３）

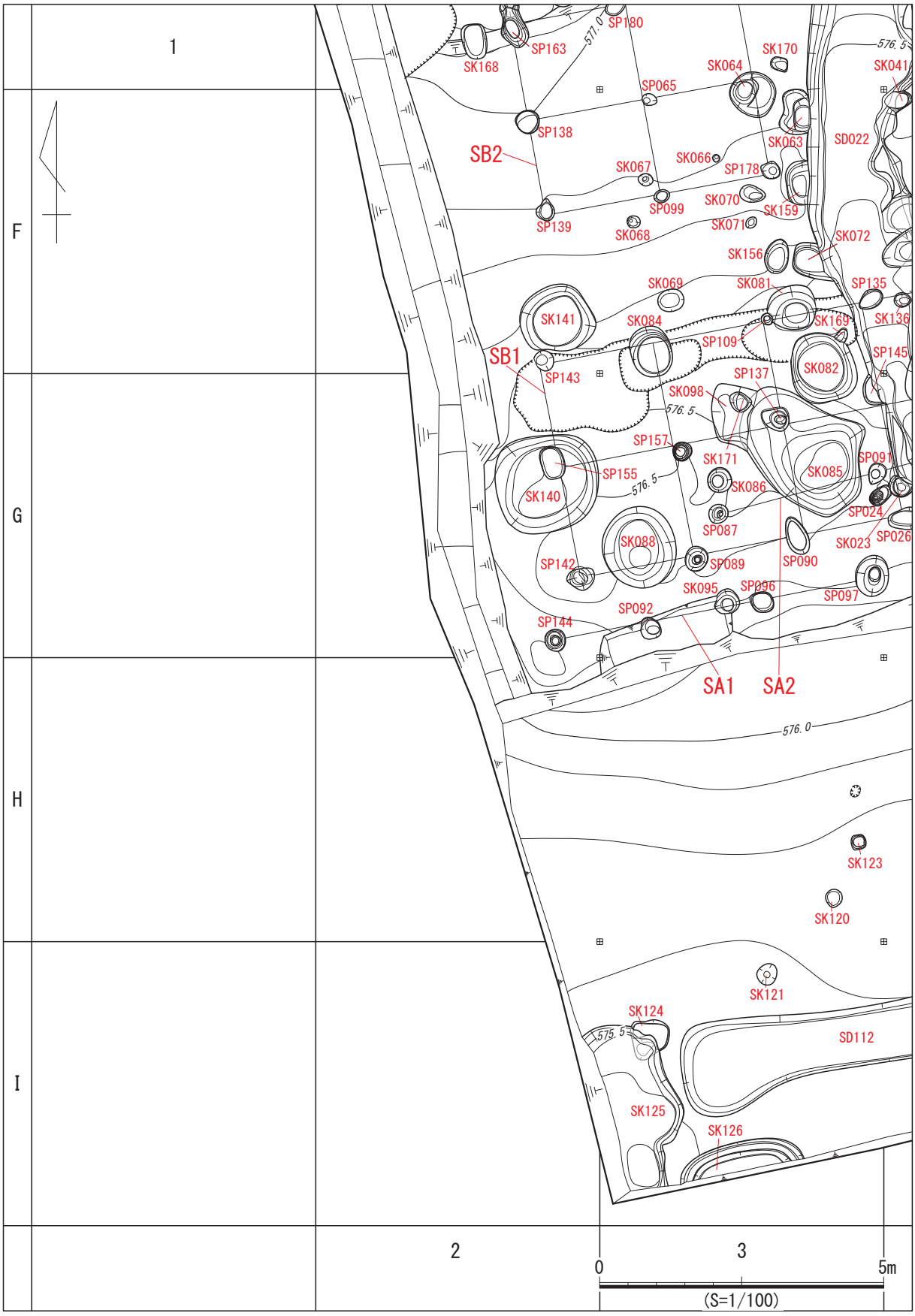


図 30　発掘区全域図分割図（４）

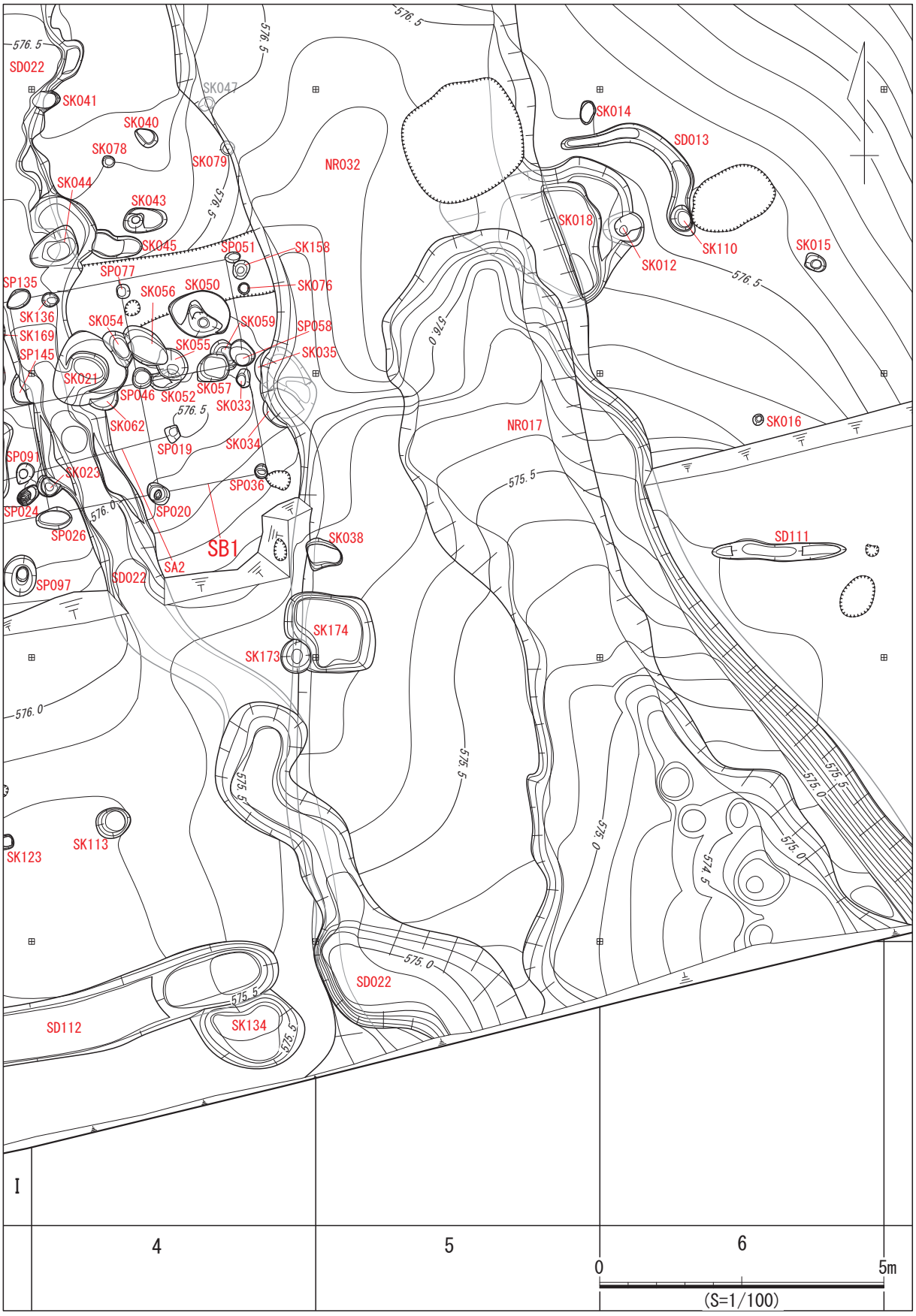


図 31　発掘区全域図分割図（５）

図 32　発掘区全域図分割図（６）

表６　掘立柱建物一覧表

遺構名	付属遺構名	地区割		柱間数	規模（m）		床面積（㎡）	長軸方位	挿図	図版
		南北	東西		桁行	梁行				
SB1	SP020, SP026, SP036, SP046, SP051, SP058, SP077, SP089, SP090, SP109, SP135, SP137, SP142, SP143, SP145, SP155, SP157	F-G	2-4	5間×2間	9.94 柱間1.78～2.30	4.26 柱間2.08～2.18	42.3	N-79° -E	9-11	3・4
SB2	SP065, SP099, SP138, SP139, SP149, SP153, SP160, SP161, SP163, SP178, SP180	E-F	2-3	3間×2間	5.48 柱間1.74～1.96	4.18 柱間1.96～2.22	22.9	N-11° -W	12・13	3・4

表７　掘立柱建物付属遺構一覧表(SB１)

遺構名	地区割		堆積状況	断面形状	断面形状	平面形状	底面形状	規模（m）					重複関係		出土遺物	挿図	図版
								上端		下端		深さ					
	南北	東西						長軸長	短軸長	長軸長	短軸長		新	旧			
SP020	G	4	a	2	c	3	3	0.43	0.35	0.24	0.24	0.22				9・11	3
SP026	G	4	a	1	a	2	2	0.64	0.40	0.52	0.22	0.11				9・11	
SP036	G	4	a	2	a	1	1	0.25	0.23	0.14	0.19	0.16				9・11	
SP046	F-G	4	a	1	a	1	1	0.37	0.35	0.23	0.25	0.14		SK052		9・11	
SP051	F	4	a	1	a	2	2	0.38	0.19	0.19	0.12	0.04				9・11	
SP058	F	4	a	2	a	1	1	0.47	0.44	0.19	0.23	0.24		SK059		9・11	3
SP077	F	4	a	1	a	1	1	0.27	0.24	0.16	0.14	0.02				9・11	
SP089	G	3	a	1	c	1	1	0.44	0.38	0.16	0.15	0.30				9・11	
SP090	G	3	a	1	a	2	2	0.71	0.38	0.53	0.26	0.14				9・11	
SP109	F	3	a	1	a	1	1	0.21	0.21	0.11	0.11	0.11		SK081		9・11	
SP135	F	3	a	1	c	2	2	0.46	0.34	0.40	0.27	0.04	SD022			9・11	
SP137	G	3	a	3	b	5	1	0.42	0.39	0.08	0.11	0.10	SK085			9・11	
SP142	G	2	c	1	b	5	5	0.43	0.38	0.07	0.20	0.34				9・11	3
SP143	F	2	a	3	a	1	1	0.36	0.32	0.18	0.19	0.24				9・11	
SP145	G	3	a	1	c	6	6	(0.51)	(0.25)	(0.41)	(0.21)	0.10	SD022			9・11	
SP155	G	2	a	2	a	4	4	0.57	0.42	0.50	0.31	0.08	SK140			9・11	
SP157	G	3	a	3	a	1	1	0.34	0.33	0.21	0.20	0.31				9・11	3

表８　掘立柱建物付属遺構一覧表(SB２)

遺構名	地区割		堆積状況	断面形状	断面形状	平面形状	底面形状	規模（m）					重複関係		出土遺物	挿図	図版
								上端		下端		深さ					
	南北	東西						長軸長	短軸長	長軸長	短軸長		新	旧			
SP065	F	3	a	1	a	2	1	0.26	0.19	0.13	0.11	0.11				12・13	
SP099	F	3	a	1	a	2	2	0.29	0.22	0.19	0.16	0.10				12・13	
SP138	F	2	a	2	a	1	1	0.41	0.41	0.36	0.35	0.26				12・13	3
SP139	F	2	a	2	a	5	1	0.40	0.34	0.36	0.20	0.14				12・13	
SP149	E	2	a	2	a	1	1	0.34	0.31	0.20	0.18	0.37				12・13	
SP153	E	3	a	1	a	1	1	0.27	0.24	0.15	0.14	0.07				12・13	
SP160	E	3	a	2	a	2	2	0.40	0.32	0.14	0.11	0.15				12・13	3
SP161	E	2-3	a	3	a	5	1	0.35	0.34	0.20	0.17	0.36				12・13	3
SP163	E	2	a	3	a	6	6	0.74	0.46	0.33	0.19	0.43	SK164			12・13	3
SP178	F	3	a	1	a	5	1	0.35	0.30	0.14	0.13	0.10				12・13	
SP180	E	3	a	1	a	2	2	0.38	0.27	0.30	0.22	0.05				12・13	

表９　柱穴列一覧表

遺構名	付属遺構名	地区割		柱間数	規模（m）		長軸方位	挿図	図版
		南北	東西						
SA1	SP092, SP096, SP097, SP144	G	2-4	3間	6.16	柱間1.88～2.28	N-79° -E	14	
SA2	SP019, SP087, SP091	G	3-4	2間	5.86	柱間2.82～3.04	N-75° -E	15	

表10　柱穴列付属遺構一覧表(SA１)

遺構名	地区割		堆積状況	断面形状	断面形状	平面形状	底面形状	規模（m）					重複関係		出土遺物	挿図	図版
								上端		下端		深さ					
	南北	東西						長軸長	短軸長	長軸長	短軸長		新	旧			
SP092	G	3	a	2	a	5	1	0.41	0.36	0.23	0.24	0.15				14	
SP096	G	3	a	2	a	3	3	0.36	0.36	0.31	0.31	0.13				14	
SP097	G	3-4	a	1	a	2	2	0.74	0.59	0.21	0.19	0.19			K	14	
SP144	G	2	a	1	c	1	1	0.40	0.35	0.13	0.14	0.22				14	

表11　柱穴列付属遺構一覧表(SA２)

遺構名	地区割		堆積状況	断面壁面形状	断面底面形状	平面形状	底面形状	規模（m）					重複関係		出土遺物	挿図	図版
	南北	東西						上端		下端		深さ	新	旧			
								長軸長	短軸長	長軸長	短軸長						
SP019	G	4	a	1	a	3	3	0.27	0.24	0.14	0.14	0.15				15	
SP087	G	3	a	1	a	1	1	0.36	0.33	0.07	0.06	0.21				15	
SP091	G	3	a	1	a	2	1	0.40	0.30	0.17	0.14	0.13				15	

表12　単独柱穴一覧表

遺構名	地区割		堆積状況	断面壁面形状	断面底面形状	平面形状	底面形状	規模（m）					重複関係		出土遺物	挿図	図版
	南北	東西						上端		下端		深さ	新	旧			
								長軸長	短軸長	長軸長	短軸長						
SP001	E	7	a	2	a	6	6	(0.25)	0.25	(0.15)	0.15	0.30			H		
SP006	F-G	7	a	2	a	1	1	0.29	0.28	0.24	0.21	0.37					
SP010	F-G	7	a	2	b	2	2	0.25	0.19	0.06	0.06	0.36					
SP024	G	3-4	b1	1	b	2	2	0.43	0.25	0.05	0.04	0.54	SK023				

表13　土坑一覧表（１）

遺構名	地区割		堆積状況	断面壁面形状	断面底面形状	平面形状	底面形状	規模（m）					重複関係		出土遺物	挿図	図版
	南北	東西						上端		下端		深さ	新	旧			
								長軸長	短軸長	長軸長	短軸長						
SK002	F	7	a	1	a	1	1	0.29	0.25	0.09	0.09	0.08			P		
SK003	F	7	b2	2	a	6	6	0.64	(0.55)	0.40	(0.45)	0.25					
SK004	F	7	a	1	a	6	6	0.66	0.56	(0.57)	0.37	0.09			H,K		
SK005	F	7	b1	1	b	6	6	0.67	(0.24)	0.48	(0.20)	0.38			H,K	16	
SK007	F	7	a	1	a	1	1	0.21	0.21	0.14	0.11	0.09					
SK009	F	7	a	1	a	1	1	0.80	0.69	0.65	0.58	0.14					
SK012	F	6	a	1	b	1	1	0.69	0.58	0.13	0.16	0.11		SK018			
SK014	F	5	a	2	a	2	2	0.42	0.27	0.35	0.24	0.10					
SK015	F	6	a	1	a	2	1	0.37	0.27	0.15	0.15	0.15					
SK016	G	6	a	1	a	1	1	0.21	0.19	0.10	0.08	0.09					
SK018	F	5-6	b1	3	c	5	5	3.85	2.65	1.65	1.75	0.38	SK012	NR017,NR032	H,P,T,S	16	
SK021	F-G	4	b3	1	b	5	2	1.33	1.23	0.30	0.53	0.30		SK054,SK062,SD022	T		
SK023	G	4	b1	2	a	6	6	0.42	(0.40)	0.30	0.25	0.24	SD022	SP024			
SK033	F-G	4	a	1	a	2	2	0.34	0.24	0.18	0.14	0.14					
SK034	G	4-5	a	1	c	1	5	0.96	0.84	0.71	0.62	0.17		SK035,NR032			
SK035	F-G	4	d	1	c	6	6	0.74	(0.59)	0.44	(0.42)	0.21	SK034	NR032	H		
SK038	G	4-5	a	1	d	5	5	0.64	0.58	0.58	0.33	0.12		NR032			
SK040	F	4	a	1	c	5	5	0.43	0.31	0.31	0.18	0.08					
SK041	F	4	b1	2	a	6	6	(0.50)	0.40	(0.42)	0.29	0.24	SD022				
SK043	F	4	b1	3	b	2	1	0.74	0.44	0.14	0.12	0.24			H		
SK044	F	3-4	b4	1	b	6	6	(0.28)	(1.20)	(1.07)	(0.69)	0.44	SD022	SK045			
SK045	F	4	a	1	a	6	6	(0.89)	(0.39)	(0.84)	(0.26)	0.11	SK044				
SK047	F	4	a	1	a	4	1	0.38	0.22	0.14	0.14	0.06		NR032			
SK048	D	7	a	1	a	1	1	0.21	0.20	0.10	0.10	0.12					
SK050	F	4	b1	2	b	2	1	1.08	0.85	0.21	0.18	0.15					
SK052	G	4	a	1	c	6	6	(0.54)	0.34	(0.13)	0.22	0.10	SP046	SK055			
SK054	F	4	a	1	a	6	6	0.67	0.41	0.42	0.21	0.20	SK021	SK056			
SK055	F-G	4	a	1	a	5	1	0.56	0.51	0.19	0.18	0.16	SK052	SK056			
SK056	F	4	a	5	c	6	6	(0.91)	0.56	(0.71)	0.37	0.16	SK054,SK055				
SK057	F-G	4	a	1	c	4	3	0.67	0.51	0.37	0.39	0.14		SK059			
SK059	F	4	a	1	a	6	6	0.56	(0.09)	0.34	(0.09)	0.16	SP058,SK057				
SK060	D	6	d	1	a	2	2	0.58	0.47	0.15	0.08	0.17					
SK062	G	4	a	1	a	6	6	0.51	(0.25)	0.36	(0.17)	0.14	SK021	SD022			
SK063	F	3	b3	1	b	6	6	0.78	0.55	0.32	0.28	0.23	SD022		H		
SK064	E-F	3	b4	1	b	1	1	0.79	0.69	0.24	0.27	0.31					
SK066	F	3	a	2	a	1	1	0.14	0.12	0.06	0.06	0.10					
SK067	F	3	a	1	a	1	1	0.25	0.23	0.12	0.09	0.10					
SK068	F	3	a	1	a	1	1	0.22	0.20	0.05	0.05	0.08			T	16	
SK069	F	3	a	1	a	1	1	0.46	0.39	0.37	0.33	0.10					
SK070	F	3	a	1	a	2	2	0.45	0.30	0.31	0.19	0.06					
SK071	F	3	a	1	a	1	1	0.22	0.19	0.11	0.09	0.04					
SK072	F	3	a	1	a	6	6	0.61	(0.52)	0.38	(0.47)	0.14	SD022		H,S		
SK073	C	6	a	1	a	2	2	0.40	0.23	0.20	0.12	0.10					
SK075	C	6	a	1	a	1	1	0.27	0.26	0.11	0.09	0.13					
SK076	F	4	a	1	a	1	1	0.21	0.20	0.17	0.14	0.06					
SK078	F	4	a	2	a	1	1	0.22	0.22	0.14	0.11	0.10					
SK079	F	4	a	1	a	1	1	0.26	0.25	0.16	0.16	0.04		NR032			
SK081	F	3	b3	1	a	1	1	0.78	(0.76)	0.46	0.37	0.24	SP109		P,K,H		
SK082	F-G	3	b2	3	a	1	1	1.22	1.08	0.82	0.77	0.44		SK169	T		
SK084	F-G	3	a	1	a	2	1	0.91	0.70	0.62	0.51	0.20					
SK085	G	3-4	a	3	a	5	5	1.90	1.43	0.48	0.68	0.23		SP137,SK098,SK171			

表14　土坑一覧表（２）

遺構名	地区割		堆積状況	断面壁面形状	断面底面形状	平面形状	底面形状	規模（m）					重複関係		出土遺物	挿図	図版
								上端		下端		深さ					
	南北	東西						長軸長	短軸長	長軸長	短軸長		新	旧			
SK086	G	3	b3	1	a	1	1	0.42	0.42	0.18	0.17	0.23					
SK088	G	3	b1	3	b	1	1	1.43	1.27	0.96	0.67	0.17			T	16	
SK094	D-E	5	b3	1	a	5	5	2.22	2.14	1.38	1.22	0.77	NR032		P		
SK095	G	3	a	2	a	5	1	0.46	0.44	0.19	0.21	0.24					
SK098	G	3	a	1	b	6	6	1.06	(0.59)	0.65	(0.41)	0.10	SK085	SK171			
SK100	C	4-5	a	3	a	2	2	0.81	0.44	0.50	0.40	0.10		NR032			
SK101	C	5	a	1	a	2	2	0.53	0.44	0.48	0.30	0.10					
SK102	C-D	5	a	1	c	1	1	0.82	0.72	0.27	0.18	0.18					
SK103	C-D	5	a	1	d	2	2	2.05	0.80	1.89	0.63	0.09		SK104			
SK104	C-D	5	a	3	a	6	6	2.11	1.98	1.60	0.97	0.74	SK103				
SK110	F	6	a	1	a	2	2	0.46	0.36	0.27	0.21	0.12	SD013				
SK113	H	4	a	1	a	1	1	0.62	0.54	0.34	0.34	0.20					
SK114	C	4	a	1	a	2	2	0.45	0.37	0.37	0.31	0.05					
SK116	C	4	b3	3	a	2	2	1.79	1.31	1.42	0.87	0.54					
SK118	C	4	b1	1	a	6	6	2.24	(0.71)	1.96	(0.49)	0.26			H		
SK120	H	3-4	a	1	a	1	1	0.32	0.30	0.24	0.22	0.07					
SK121	I	2	a	1	a	1	1	0.36	0.36	0.11	0.11	0.25					
SK123	H	4	a	2	a	3	5	0.26	0.26	0.18	0.18	0.19					
SK124	I	2	a	2	a	5	5	0.65	0.56	0.61	0.46	0.09		SK125			
SK125	I	2-3	b1	5	c	6	6	(2.94)	(1.22)	(2.68)	(1.08)	0.44	SK124				
SK126	I	2	a	3	a	6	6	(2.19)	(0.51)	(1.46)	(0.24)	0.34			S	16	
SK127	C	3	a	1	a	1	1	0.32	0.27	0.27	0.20	0.05					
SK128	C	3	a	1	a	5	2	0.51	0.39	0.44	0.27	0.07					
SK130	C	3	a	1	a	5	5	0.67	0.42	0.28	0.13	0.09					
SK131	C	3	a	1	a	1	1	0.35	0.31	0.26	0.24	0.06					
SK132	C	3	a	1	a	1	1	0.36	0.35	0.19	0.14	0.07					
SK133	D	2	a	3	b	1	1	0.53	0.47	0.16	0.15	0.08					
SK134	I	4	a	1	a	6	6	1.72	1.24	1.08	0.81	0.26	SD112		H,P,T		
SK136	F	4	a	1	a	2	2	0.31	0.24	0.17	0.11	0.08	SD022				
SK140	G	2	b4	3	a	1	1	1.78	1.70	1.28	1.17	0.33		SP155			
SK141	F	2	a	3	a	5	5	1.23	1.18	1.32	0.90	0.19					
SK148	E	3	b2	1	a	6	6	1.06	(0.78)	0.81	(0.51)	0.36	SD022	SK177			
SK150	E	2	b3	1	a	5	5	0.99	0.69	0.84	0.47	0.16					
SK151	E	2-3	b3	3	b	3	5	1.44	0.67	1.11	0.46	0.20					
SK154	E	4	a	1	a	2	5	1.40	1.05	1.07	0.80	0.24	NR032				
SK156	F	3	a	1	a	2	2	0.58	0.41	0.40	0.27	0.13					
SK158	F	4	d	5	a	5	1	0.34	0.29	0.23	0.20	0.06					
SK159	F	3	d	5	a	6	6	0.77	0.41	0.41	0.30	0.21	SD022				
SK164	E	2	a	1	a	1	1	0.39	0.33	0.24	0.16	0.27		SP163			
SK165	D-E	2	a	1	a	2	5	0.57	0.42	0.28	0.21	0.31					
SK168	E	2	a	1	a	2	2	0.61	0.44	0.53	0.31	0.09					
SK169	F	3	a	1	a	6	6	(0.21)	(0.18)	(0.18)	(0.09)	0.07	SK082				
SK170	E	3	a	1	a	2	2	0.34	0.23	0.22	0.14	0.10					
SK171	G	3	a	1	a	5	5	0.37	0.34	0.20	0.27	0.10	SK085, SK098				
SK173	G-H	4	b1	3	b	1	1	0.60	0.54	0.24	0.19	0.21	NR032	SK174			
SK174	G-H	4-5	b2	3	c	5	5	1.54	1.38	1.04	0.82	0.27	SK173, NR032				
SK176	E	3	a	1	a	6	6	(0.90)	(0.64)	(0.73)	(0.54)	0.22	SD022				
SK177	E	3	d	3	a	6	6	(0.64)	(0.58)	0.47	0.26	0.45	SK148				

表15　溝一覧表

遺構名	地区割		堆積状況	断面壁面形状	断面底面形状	平面形状	底面形状	規模（m）					重複関係		出土遺物	挿図	図版
								上端		下端		深さ					
	南北	東西						長軸長	短軸長	長軸長	短軸長		新	旧			
SD013	F	5-6	a	1	a	-	-	3.57	0.39	3.36	0.22	0.12		SK110			
SD022	C-I	3-5	b1	1	d	-	-	(28.73)	1.72	(28.53)	1.12	0.52	SK021, SK062	SP135, SP145, SK023, SK041, SK044, SK063, SK072, SK136, SK148, SK159, SK176	J,H,T	17	4
SD111	G	6-7	a	1	a	-	-	2.37	0.30	2.21	0.17	0.07					
SD112	I	3-4	a	1	a	-	-	8.13	1.01	1.70	0.63	0.12		SK134	P,T,I	16	

表16　自然流路一覧表

遺構名	地区割		堆積状況	断面壁面形状	断面底面形状	平面形状	底面形状	規模（m）					重複関係		出土遺物	挿図	図版
								上端		下端		深さ					
	南北	東西						長軸長	短軸長	長軸長	短軸長		新	旧			
NR017	F-I	5-6	b1	3	c	-	-	(13.79)	6.60	(13.15)	5.05	0.75	SK018, NR032		J,H,P,K,S	17	4
NR032	C-I	4-6	b3	1	c	-	-	(28.92)	11.68	(28.60)	9.40	0.65	SK018, SK034, SK035, SK038, SK047, SK079, SK100	SK094, SK154, SK173, SK174, NR017	J,H,P,K,S	17	4

表17　土器類観察表（１）

掲載番号	出土位置	層位	器種	大きさ(cm) 口径 底径 器高	胎土	焼成	色調	成形・調整・施文・施釉等	挿図番号	図版番号
1	SP097	a	灰釉陶器 皿	口径 － 底径 － 器高(2.0)	密	良好	内外面：灰白色(2.5Y7/1)	内外面回転ナデ	18	5
2	SK005	a	土師器 碗	口径 － 底径 － 器高(4.1)	密	普通	内外面：灰白色(10YR8/2)	内外面ナデ、内外面煤付着	18	5
3	SK005	a	土師器 有台坏	口径 － 底径(10.8) 器高(2.3)	密	不良	内面：灰白色(10YR8/2) 外面：灰白色(2.5Y8/2)	内面回転ナデ、高台貼付、内外面煤付着	18	5
4	SK018	1	土師器 甕	口径(16.0) 底径 － 器高(4.1)	やや粗	普通	内面：浅黄橙色(10YR8/4) 外面：にぶい橙色(7.5YR7/4)	内外面ナデ	18	5
5	SK018	1	青磁 碗	口径(16.0) 底径 － 器高(4.8)	密	良好	内外面：オリーブ灰色(10Y5/2)（釉薬）	内外面回転ナデ、外面蓮弁文（鎬なし）、内外面施釉	18	8
6	SK068	a	青磁 碗	口径(16.0) 底径 － 器高(3.2)	密	良好	内外面：オリーブ灰色(10Y5/2)（釉薬）	内外面回転ナデ、外面蓮弁文（鎬なし）、内外面施釉	18	5
7	SK088	1	青磁 碗	口径 － 底径(5.6) 器高(1.9)	密	良好	内面：明オリーブ灰色(5GY7/1)（釉薬） 外面：灰白色(10YR7/1), 明緑灰色(7.5GY7/1)（釉薬）	内外面回転ナデ、高台貼付、外面回転ケズリ、内外面施釉	18	5
9	SD022	b	弥生土器 横羽状文甕	口径 － 底径 － 器高(4.4)	密	普通	内面：浅黄橙色(10YR8/3) 外面：暗褐色(10YR3/2)	内面ナデ、外面ナデのち沈線文	18	5
10	SD022	e	弥生土器 横羽状文甕	口径 － 底径 － 器高(3.0)	やや粗	普通	内外面：浅黄橙色(10YR8/3)	内面ナデ、外面ナデのち沈線文	18	5
11	SD022	b	弥生土器 有段口縁甕	口径(16.0) 底径 － 器高(4.7)	密	普通	内面：褐色(7.5YR4/3) 外面：黒褐色土(10YR3/1)	内外面ナデ、外面沈線文	18	5
12	SD022	d	古瀬戸 浅碗	口径(12.0) 底径 － 器高(1.8)	密	良好	内外面：浅黄色(2.5Y7/3)(釉薬)	回転ナデ、内外面施釉	18	5
13	SD112	a	古瀬戸 卸皿	口径 － 底径 － 器高(1.8)	密	良好	内面：灰白色(5Y7/2), 浅黄色(2.5Y7/3)(釉薬) 外面：灰白色(2.5Y7/1)	内外面回転ナデ、卸目、内面施釉	18	5
14	SD112	a	古瀬戸 擂鉢型小鉢	口径 － 底径 － 器高(3.0)	密	良好	内面：赤褐色(5YR4/6) 外面：明赤褐色(2.5YR5/6)	内外面回転ナデ	18	5
15	NR017	2	土師器 高坏	口径 － 底径(9.4) 器高(5.1)	密	普通	内面：橙色(5YR6/8) 外面：明褐色(7.5YR5/6)	内外面ナデ	19	
16	NR017	2	土師器 高坏	口径 － 底径(9.6) 器高(4.3)	密	普通	内面：にぶい赤褐色(5YR5/4) 外面：橙色(5YR6/6)	内外面ナデ（外面大半磨滅）	19	
17	NR017	2	土師器 高坏	口径 － 底径(8.4) 器高(4.7)	密	普通	内面：橙色(5YR6/8) 外面：明赤褐色(5YR5/6)	内外面ナデ(内面大半磨滅）、外面ミガキ	19	
18	NR017	1	土師器 高坏	口径 － 底径(7.2) 器高(3.2)	密	普通	内面：灰褐色(7.5YR5/2) 外面：褐灰色(5YR4/1)	内外面ナデ、外面焼き膨れ	19	6
19	NR017	2	土師器 甕	口径 － 底径 － 器高(3.2)	やや粗	普通	内面：にぶい黄橙色(10YR6/4) 外面：橙色(7.5YR6/6)	外面ナデ、内外面ハケ	19	
20	NR017	a	土師器 甕	口径 － 底径 － 器高(4.2)	やや粗	普通	内面：浅黄橙色(10YR8/3) 外面：にぶい黄橙色(10YR6/3)	内外面ヨコナデ、ハケ	19	
21	NR017	2	土師器 甕	口径(12.0) 底径 － 器高(3.5)	やや粗	良好	内外面：橙色(5YR7/6)	内外面ヨコナデ、内面指オサエ	19	
22	NR017	—	土師器 甕	口径(10.0) 底径 － 器高(3.0)	やや粗	普通	内面：灰黄褐色(10YR4/2) 外面：褐灰色(10YR4/1)	内外面ヨコナデ、内面指オサエ、外面ハケ	19	
23	NR017	2	土師器 甕	口径(16.0) 底径 － 器高(3.2)	やや粗	普通	内面：にぶい黄橙色(10YR7/4) 外面：明黄褐色(10YR7/6)	内外面ヨコナデ	19	
24	NR017	1	土師器 甕	口径(16.0) 底径 － 器高(4.7)	やや粗	普通	内外面：灰白色(10YR8/1)	内面ナデ、内外面ヨコナデ、内外面ハケ	19	
25	NR017	c	土師器 甕	口径(18.0) 底径 － 器高(3.4)	やや粗	普通	内外面：浅黄色(2.5Y7/3)	内外面ヨコナデ	19	

表18　土器類観察表（２）

掲載番号	出土位置	層位	器種	大きさ(cm) 口径 底径 器高	胎土	焼成	色調	成形・調整・施文・施釉等	挿図番号	図版番号
26	NR017	1	土師器 甕	口径(17.6) 底径 — 器高(4.1)	やや粗	普通	内面：にぶい黄橙色(10YR7/4) 外面：オリーブ黒色(5Y3/1)	内外面ヨコナデ、内面ハケ	19	
27	NR017	2	須恵器 坏蓋	口径 — 底径 — 器高 (4.0)	密	良好	内面：黄灰色(2.5Y5/1) 外面：灰オリーブ色(5Y6/2)	内外面回転ナデ、外面回転ケズリ、自然釉付着	19	
28	NR017	1	須恵器 坏蓋	口径16.0 底径 — 器高3.5	密	良好	内外面：灰黄色(2.5Y7/2)	内外面回転ナデ、天井部回転ケズリ	19	6
29	NR017	1	須恵器 坏蓋	口径(14.0) 底径 — 器高3.0	密	良好	内外面：灰白色(2.5Y7/1)	内外面回転ナデ、内面静止ナデ、外面摘部貼付ナデ、外面回転ケズリ	19	
30	NR017	2	須恵器 坏蓋	口径14.4 底径 — 器高3.7	密	良好	内外面：黄灰色(2.5Y6/1)	内外面回転ナデ、外面回転ケズリ	19	6
31	NR017	2	須恵器 壺蓋	口径 — 底径 — 器高 (3.0)	密	良好	内面：灰白色(10YR8/1) 外面：灰白色(10YR8/1)，灰オリーブ色(7.5Y5/3)	内外面回転ナデ、内面仕上げナデ、外面回転ケズリ	19	
32	NR017	1	須恵器 壺蓋	口径 — 底径 — 器高(3.4)	密	良好	内面：灰白色(10Y7/1) 外面：灰黄色(2.5Y6/2)	内外面回転ナデ、外面自然釉付着	19	
33	NR017	1	須恵器 坏身	口径(12.2) 底径 — 器高(4.0)	密	良好	内外面：灰色(10Y5/1)	内外面回転ナデ	19	
34	NR017	b	須恵器 坏身	口径(11.0) 底径(5.9) 器高3.0	密	良好	内面：灰白色(10YR7/1) 外面：黄灰色(2.5Y6/1)	内外面回転ナデ、外面回転ケズリ	19	
35	NR017	2	須恵器 坏身	口径(15.0) 底径3.9 器高4.8	密	良好	内外面：灰白色(10YR7/1)	内外面回転ナデ、底部回転ケズリ	19	6
36	NR017	—	須恵器 無台坏	口径(13.0) 底径(7.8) 器高(4.7)	密	良好	内外面：灰白色(10YR8/1)	内外面回転ナデ	19	
37	NR017	1	須恵器 無台坏	口径(16.0) 底径 — 器高(4.5)	密	良好	内面：灰色(7.5Y6/1) 外面：緑灰色(7.5GY5/1)	内外面回転ナデ、外面回転ケズリ	19	
38	NR017	2	須恵器 無台坏	口径(10.0) 底径(5.0) 器高3.1	密	良好	内面：にぶい黄色(2.5Y6/4) 外面：灰黄色(2.5Y6/2)	内外面回転ナデ、外面回転ケズリ	19	
39	NR017	1	須恵器 無台坏	口径 — 底径7.6 器高(1.8)	密	普通	内面：灰褐色(7.5YR5/2) 外面：にぶい橙色(7.5YR6/4)	内外面回転ナデ、底部回転糸切り	19	
40	NR017	1	須恵器 有台坏	口径 — 底径(7.9) 器高(3.0)	密	良好	内面：灰白色(10YR7/1) 外面：灰色(5Y5/1)	内外面回転ナデ、高台貼付	20	
41	NR017	1	須恵器 有台坏	口径(11.2) 底径(8.0) 器高(3.7)	密	良好	内面：灰色(7.5Y6/1) 外面：灰色(7.5Y5/1)	内外面回転ナデ、外面底部回転ケズリ、高台貼付	20	
42	NR017	1、2	須恵器 有台坏	口径(14.1) 底径(9.4) 器高(3.6)	密	良好	内外面：灰白色(7.5Y7/1)	内外面回転ナデ、外面底部回転ケズリ、高台貼付	20	
43	NR017	2	須恵器 瓶	口径8.6 底径 — 器高(7.8)	密	良好	内外面：灰褐色(7.5YR4/2)	内外面回転ナデ、外面底部静止ヘラケズリ	20	6
44	NR017	2	須恵器 短頸壺	口径7.7 底径5.2 器高6.9	やや粗	良好	内外面：オリーブ色(7.5Y3/1) 外面：灰褐色(7.5YR6/2)	内外面回転ナデ、外面底部ヘラケズリ、内外面自然釉付着	20	6
45	NR017	2	須恵器 短頸壺	口径7.2 底径4.4 器高6.2	密	良好	内面：灰黄色(2.5Y6/2) 外面：灰色(10Y4/1)	内外面回転ナデ、外面底部回転ケズリ、内面有機物付着	20	6
46	NR017	2	須恵器 短頸壺	口径 — 底径 — 器高(4.0)	密	良好	内面：灰白色(10YR7/1) 外面：灰色(5Y7/1)，灰オリーブ色(5Y6/2)	内外面回転ナデ	20	
47	NR017	1、2	須恵器 横瓶	口径(10.6) 底径 — 器高20.4	やや粗	良好	内面：灰白色(2.5Y7/1) 外面：灰白色(N7/0)	内外面回転ナデ、外面平行タタキ、外面回転ケズリ	20	6
48	NR017	2	須恵器 壺	口径 — 底径 — 器高(4.8)	密	良好	内面：黄灰色(2.5Y6/1) 外面：灰色(5Y4/1)	内外面回転ナデ	20	
49	NR017	2	須恵器 壺	口径 — 底径(7.3) 器高(2.5)	密	良好	内面：灰色(N5/0) 外面：灰オリーブ色(5Y4/2)	内面回転ナデ、外面回転ケズリ、静止糸切り	20	

表19　土器類観察表（３）

掲載番号	出土位置	層位	器種	大きさ(cm) 口径 底径 器高	胎土	焼成	色調	成形・調整・施文・施釉等	挿図番号	図版番号
50	NR017	1、2	須恵器 甕	口径 ― 底径 ― 器高(11.2)	密	良好	内面：灰白色(5Y7/1) 外面：黄灰色(2.5Y6/1)	内面同心円当て具痕、外面平行タタキ痕	20	
54	NR032	―	土師器 高坏	口径 ― 底径 ― 器高(3.5)	密	普通	内面：にぶい赤褐色(5YR4/4) 外面：赤褐色(5YR4/6)	内面ナデ、外面ミガキ	21	5
55	NR032	―	土師器 高坏	口径 ― 底径 ― 器高(3.7)	密	良好	内面：明赤褐色(2.5YR5/6) 外面：赤灰色(2.5YR4/1)	内面ナデ、外面鉄滓融着	21	5
56	NR032	―	土師器 高坏	口径 ― 底径 ― 器高(5.4)	密	普通	内外面：明赤褐色(2.5YR5/6)	内外面ナデ、外面鉄滓融着	21	5
57	NR032	―	土師器 高坏	口径(12.0) 底径(9.8) 器高8.5	密	普通	内面：明赤褐色(2.5YR5/8) 外面：赤褐色(2.5YR4/6)	内外面ミガキ、内面ナデ	21	6
58	NR032	―	土師器 高坏	口径 ― 底径 ― 器高(4.6)	密	普通	内外面：にぶい赤褐色(5YR4/3)	内外面ナデ	21	5
59	NR032	―	土師器 高坏	口径 ― 底径 ― 器高(4.9)	密	普通	内面：明赤褐色(2.5YR5/6) 外面：赤褐色(5YR4/8)	内外面ナデ、外面鉄滓融着	21	5
60	NR032	―	土師器 高坏	口径(12.9) 底径 ― 器高(6.4)	密	普通	内面：明赤褐色(5YR5/8) 外面：橙色(5YR6/8)	内外面ナデ	21	
61	NR032	―	土師器 高坏	口径(13.0) 底径 ― 器高(4.3)	密	普通	内外面：橙色(5YR6/8)	内外面ナデ	21	
62	NR032	1	土師器 高坏	口径(14.0) 底径 ― 器高(5.5)	密	普通	内面：暗赤褐色(5YR3/6) 外面：明赤褐色(2.5YR5/8)	内外面ミガキ（大半磨滅）	21	5
63	NR032	―	土師器 高坏	口径 ― 底径 ― 器高(3.8)	密	良好	内面：明赤褐色(2.5YR5/6) 外面：にぶい褐色(7.5YR5/3)	内外面ナデ	21	5
64	NR032	―	土師器 高坏	口径 ― 底径(9.0) 器高(4.6)	密	普通	内面：橙色(5YR6/6) 外面：橙色(5YR6/8)	内面ナデ、外面ミガキ、外面磨滅	21	6
65	NR032	―	土師器 高坏	口径 ― 底径 ― 器高(3.4)	密	普通	内面：黄橙色(7.5YR8/8) 外面：橙色(5YR6/6)	内外面ナデ	21	5
66	NR032	―	土師器 高坏	口径 ― 底径8.8 器高(3.2)	密	良好	内面：にぶい赤褐色(5YR5/4) 外面：明赤褐色(5YR5/6)	内面ナデ、外面ミガキ	21	6
67	NR032	―	土師器 高坏	口径 ― 底径(9.0) 器高(4.1)	密	良好	内面：橙色(2.5YR6/6) 外面：明赤褐色(2.5YR5/6)	内面ナデ、内面ケズリ、外面ミガキ、外面に黒斑	21	6
68	NR032	―	土師器 高坏	口径 ― 底径(8.0) 器高(2.7)	密	良好	内外面：明赤褐色(2.5YR5/6)	内面ナデ、内面ケズリ、外面ミガキ	21	5
69	NR032	―	土師器 高坏	口径 ― 底径(9.0) 器高(3.6)	密	良好	内外面：明赤褐色(2.5YR5/6)	内外面ナデ、内面ケズリ、外面ミガキ	21	5
70	NR032	―	土師器 壺	口径(11.0) 底径 ― 器高(3.9)	密	良好	内面：明赤褐色(5YR5/8) 外面：明赤褐色(5YR5/6)	内面ナデ、内外面ミガキ	21	
71	NR032	―	土師器 壺	口径(8.4) 底径 ― 器高(5.5)	密	普通	内外面：明赤褐色(5YR5/6)	内面ナデ、内外面ミガキ	21	
72	NR032	―	土師器 甕	口径(16.0) 底径 ― 器高(5.0)	やや粗	普通	内面：にぶい黄橙色(10YR6/4) 外面：橙色(7.5YR6/6)	内外面ナデ	21	
73	NR032	―	土師器 甕	口径(13.0) 底径 ― 器高(3.1)	やや粗	普通	内面：灰白色(10YR8/1) 外面：灰黄褐色(10YR5/2)	内外面ナデ、外面ハケ、外面煤付着	21	
74	NR032	―	土師器 甕	口径(14.7) 底径 ― 器高(4.0)	やや粗	普通	内面：浅黄橙色(7.5YR8/4) 外面：黄橙色(7.5YR8/6)	内外面ナデ	21	
75	NR032	―	土師器 甕	口径(16.0) 底径 ― 器高(4.2)	やや粗	普通	内面：橙色(7.5YR7/6) 外面：灰黄色(2.5YR7/2)	内外面ヨコナデ、外面ハケ	21	
76	NR032	―	土師器 甕	口径(20.0) 底径 ― 器高(5.1)	やや粗	普通	内面：灰白色(2.5Y8/2) 外面：浅黄色(2.5Y7/3)	内面ナデ、内外面ハケ	21	

表20　土器類観察表（４）

掲載番号	出土位置	層位	器種	大きさ(cm) 口径 底径 器高	胎土	焼成	色調	成形・調整・施文・施釉等	挿図番号	図版番号
77	NR032	1	土師器 甕	口径(15.0) 底径 ― 器高(3.5)	密	良好	内面：橙色(5Y6/6) 外面：橙色(7.5YR7/6)	内面ナデ、内外面ハケ	21	
78	NR032	1	土師器 甕	口径(16.0) 底径 ― 器高(3.2)	やや粗	普通	内面：黒色(5Y2/1) 外面：褐灰色(10YR6/1)	内外面ナデ、内外面煤付着	21	
79	NR032	1	土師器 甕	口径(24.0) 底径 ― 器高(4.5)	やや粗	普通	内面：灰黄色(2.5YR7/2) 外面：浅黄色(2.5YR7/3)	内外面ナデ、外面ハケ	21	
80	NR032	1	土師器 甕	口径 ― 底径4.0 器高(3.5)	密	普通	内面：黄灰色(2.5Y5/1) 外面：褐灰色(10YR6/1)	内外面ナデ	21	
81	NR032	1	土師器 甑	口径 ― 底径 ― 器高(6.6)	やや粗	普通	内外面：淡黄色(2.5Y8/4)	内外面ナデ	21	
82	NR032	―	須恵器 坏蓋	口径(12.0) 底径 ― 器高(3.0)	密	良好	内面：褐灰色(10YR5/1) 外面：褐灰色(10YR6/1)	内外面回転ナデ	22	
83	NR032	―	須恵器 坏蓋	口径 ― 底径 ― 器高(2.6)	密	良好	内外面：褐灰色(10YR6/1)	内外面回転ナデ、外面摘部貼付ナデ、回転ケズリ	22	
84	NR032	―	須恵器 坏蓋	口径(15.8) 底径 ― 器高(1.8)	密	良好	内外面：褐灰色(10YR6/1)	内外面回転ナデ、外面回転ケズリ	22	
85	NR032	1	須恵器 坏身	口径(13.0) 底径 ― 器高(4.3)	密	良好	内面：灰黄色(2.5Y6/2) 外面：灰色 (5Y6/1)	内外面回転ナデ、外面回転ケズリ	22	
86	NR032	―	須恵器 有台坏	口径 ― 底径(9.9) 器高(3.0)	密	良好	内面：灰黄褐色(10YR6/2) 外面：黄灰色(2.5Y6/1)	内外面回転ナデ、高台貼付	22	
87	NR032	1	須恵器 高坏	口径(10.8) 底径 ― 器高(2.8)	密	良好	内外面：灰色(5Y5/1)	内外面回転ナデ	22	
88	NR032	1	須恵器 高坏	口径(10.8) 底径 ― 器高(2.8)	密	良好	内面：灰色(5Y5/1) 外面：黄灰色(2.5Y5/1)	内外面回転ナデ	22	
89	NR032	―	須恵器 高坏	口径 ― 底径(11.0) 器高(2.0)	密	普通	内面：灰白色(10YR8/1) 外面：黄灰色(2.5Y5/1)	内外面回転ナデ	22	
90	NR032	―	須恵器 横瓶	口径 ― 底径 ― 器高(21.0)	密	良好	内面：褐灰色(10YR5/1) 外面：灰黄褐色(10YR5/2)	内面同心円当て具痕、外面平行タタキ	22	
91	NR032	1	須恵器 甕	口径(21.0) 底径 ― 器高(7.2)	密	良好	内面：黄灰色(2.5Y6/1) 外面：灰色(N5/0)	内外面回転ナデ、内面同心円タタキのちナデ、外面平行タタキ	22	
92	NR032	1	灰釉陶器 瓶類	口径(8.2) 底径 ― 器高(5.6)	密	良好	内面：暗灰黄色(2.5Y5/2)， 灰白色(10YR7/1) 外面：暗オリーブ色(5Y4/4)	内外面回転ナデ、内外面施釉	22	
94	E6	Ⅱ	縄文土器 深鉢	口径 ― 底径 ― 器高(4.8)	やや粗	普通	内面：にぶい橙色(7.5YR7/4) 外面：灰褐色(7.5YR5/2)	内面ナデ、内面指オサエ、外面押型文（撚糸文）、外面煤付着	23	7
95	E7	Ⅱ	縄文土器 深鉢	口径 ― 底径 ― 器高(3.3)	密	良好	内面：黒褐色(10YR3/1) 外面：にぶい黄褐色(10YR5/3)	内面ナデ、外面口唇部・胴部押型文(山形文)	23	7
96	D6	Ⅱ	縄文土器 深鉢	口径 ― 底径 ― 器高(6.0)	密	良好	内面：浅黄橙色(10YR8/4) 外面：にぶい黄橙色(10YR7/4)	内面ナデ、外面押型文(山形文)	23	7
97	F7	Ⅱ	縄文土器 深鉢	口径 ― 底径 ― 器高(5.6)	やや粗	普通	内外面：橙色(7.5YR6/6)	内面調整ナデ、外面押型文(楕円文)	23	7
98	F4	Ⅱ	土師器 無台坏	口径(13.4) 底径 ― 器高(4.0)	密	普通	内面：橙色(5YR7/6) 外面：橙色(7.5YR7/6)	内外面ナデ	23	
99	F4	Ⅱ	土師器 無台坏	口径(11.0) 底径 ― 器高(4.8)	密	普通	内面：橙色(7.5YR6/8) 外面：橙色(5YR6/6)	内外面ナデ	23	
100	F4	Ⅱ	土師器 無台坏	口径(10.8) 底径(4.0) 器高(5.0)	粗	普通	内面：淡黄色(2.5Y8/3) 外面：灰白色(2.5Y8/2)	内外面ナデ、外面下半磨滅	23	
101	G5	Ⅱ	須恵器 坏蓋	口径(15.8) 底径 ― 器高(1.9)	密	良好	内面：灰白色(5Y7/1) 外面：灰色(10Y6/1)	内外面回転ナデ、外面回転ケズリ、煤付着	23	

表21　土器類観察表（５）

掲載番号	出土位置	層位	器種	大きさ(cm) 口径 底径 器高	胎土	焼成	色調	成形・調整・施文・施釉等	挿図番号	図版番号
102	G6	Ⅱ	須恵器 坏身	口径(12.0) 底径 － 器高(2.5)	密	良好	内面：灰白色(10YR7/1) 外面：褐灰色(10YR5/1)	内外面回転ナデ	23	
103	G3	Ⅱ	須恵器 坏身	口径(13.0) 底径 － 器高(3.3)	密	良好	内外面：灰色(5Y5/1)	内外面回転ナデ	23	
104	G5	Ⅱ	須恵器 坏身	口径9.4 底径4.2 器高3.1	密	良好	内外面：灰白色(10YR7/1) 外面：灰オリーブ色(7.5Y5/3)（自然釉）	内外面回転ナデ、外面回転ケズリ、自然釉付着	23	7
105	D5	Ⅱ	須恵器 無台坏	口径(10.4) 底径(5.2) 器高3.3	密	良好	内面：黄灰色(2.5Y6/1) 外面：灰白色(10YR7/1)	内外面回転ナデ、外面体部ヘラ記号	23	
106	E5	Ⅱ	須恵器 無台坏	口径14.1 底径9.0 器高3.4	密	良好	内面：灰白色(2.5Y7/1) 外面：灰色(5Y5/1)	内外面回転ナデ、内面底部に墨書、底部ヘラ切未調整、外面自然釉付着	23	7
107	E5	Ⅱ	須恵器 無台坏	口径13.2 底径7.0 器高3.7	密	普通	内外面：灰白色(10YR8/2)	内外面回転ナデ、外面底部ヘラ切り未調整	23	7
108	D4	Ⅱ	須恵器 無台坏	口径13.9 底径5.6 器高3.7	密	良好	内外面：明褐色(7.5Y5/6)	内外面回転ナデ、外面底部回転糸切り	23	7
109	H7	Ⅱ	須恵器 横瓶	口径 － 底径 － 器高(22.4)	密	良好	内面：灰色(N5/0) 外面：オリーブ黒色(7.5Y3/2)	内面回転ナデ、外面平行タタキ	23	8
110	E5	Ⅱ	須恵器 甕	口径 － 底径 － 器高(8.0)	密	良好	内面：灰黄褐色(10YR6/2) 外面：にぶい黄橙色(10YR6/3)	内外面回転ナデ、内面同心円当て具痕、外面平行タタキ	23	
111	E6	Ⅱ	須恵器 甕	口径 － 底径 － 器高(8.6)	密	良好	内外面：灰色(7.5Y6/1)	内外面回転ナデ、外面波状文と横位方向の沈線	24	
112	E5	Ⅱ	須恵器 甕	口径 － 底径10.0 器高(26.0)	密	良好	内面：褐灰色(10YR6/1) 外面：灰黄褐色(10YR6/2)	内面同心円当て具痕、ナデのちヘラ切り、外面平行タタキ	24	8
113	E6	Ⅱ	灰釉陶器 碗	口径(12.5) 底径6.2 器高3.8	密	良好	内外面：灰白色(2.5Y7/1) 外面：にぶい黄褐色(10YR5/3)	内外面回転ナデ、外面底部回転ケズリ、高台貼付	24	
114	E6	Ⅱ	灰釉陶器 碗	口径14.6 底径6.9 器高4.2	密	良好	内外面：灰黄色(2.5Y7/2)	内外面回転ナデ、外面底部回転ケズリ、高台貼付	24	7
115	E6	Ⅱ	灰釉陶器 碗	口径15.0 底径6.6 器高4.1	密	良好	内外面：灰黄色(2.5Y7/2)	内外面回転ナデ、外面底部回転ケズリ、高台貼付	24	7
116	E6	Ⅱ	灰釉陶器 碗	口径(14.6) 底径(7.0) 器高4.2	密	良好	内外面：灰黄色(2.5Y7/2)	内外面回転ナデ、外面底部回転ケズリ、高台貼付	24	
117	E7	Ⅱ	灰釉陶器 碗	口径(15.4) 底径7.2 器高4.2	密	良好	内外面：灰黄色(2.5Y7/2)	内外面回転ナデ、外面底部回転ケズリ、高台貼付	24	
118	E7	Ⅱ	灰釉陶器 碗	口径(16.1) 底径(7.4) 器高4.5	密	良好	内外面：灰黄色(2.5Y7/2)	内外面回転ナデ、外面底部回転ケズリ、高台貼付	24	
119	E6	Ⅱ	灰釉陶器 碗	口径 － 底径(6.6) 器高(2.7)	密	良好	内外面：灰黄色(2.5Y7/2)	内外面回転ナデ、外面底部回転ケズリ、高台貼付	24	
120	E6	Ⅱ	灰釉陶器 皿	口径 － 底径(6.0) 器高(2.0)	密	良好	内外面：灰白色(2.5Y7/1) 外面：灰黄色(2.5Y7/2)（釉薬）	内外面回転ナデ、外面底部回転ケズリ、高台貼付、内面施釉	24	
121	H5	Ⅱ	灰釉陶器 瓶類	口径(19.0) 底径 － 器高(4.2)	密	良好	内外面：灰オリーブ色(5Y5/2)（釉薬）	内外面回転ナデ、内外面施釉	24	8
122	G5	Ⅱ	灰釉陶器 壺	口径 － 底径(9.4) 器高(15.0)	やや粗	良好	内外面：灰白色(2.5Y7/1) オリーブ灰色(10Y4/2)（釉薬）	内外面回転ナデ、外面回転ケズリ、高台貼付、外面施釉	24	7
123	G3	Ⅱ	古瀬戸 端反碗	口径(13.0) 底径 － 器高(2.1)	密	良好	内外面：オリーブ黄色(5Y6/3)（釉薬）	内外面回転ナデ、内外面施釉	24	8
124	G3	Ⅱ	青磁 碗	口径 － 底径 － 器高(3.0)	密	良好	内外面：オリーブ灰色(10Y5/2)（釉薬）	内外面回転ナデ、外面蓮弁文（しのぎなし）、内外面施釉	24	8

表22　石器類観察表

掲載番号	出土位置	層位	製品名	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石材	挿図番号	図版番号
8	SK126	d	砥石	(8.9)	(6.0)	(4.0)	368.6	砂岩	18	5
51	NR017	b	スクレイパー	5.5	4.7	1.0	22.9	下呂石	20	
52	NR017	2	打製石斧	8.8	5.3	1.0	183.2	緑色凝灰岩	20	
53	NR017	2	磨製石斧	8.8	4.4	1.4	88.8	蛇紋岩	20	
93	NR032	1	磨石・敲石類	7.7	8.6	6.3	562.0	流紋岩	22	
125	F5	Ⅰ	楔形石器	2.7	1.1	0.8	3.7	チャート	25	
126	F5	Ⅱ	RF	2.1	1.3	0.8	1.5	チャート	25	
127	F5	Ⅱ	石核	4.8	4.1	1.3	25.7	下呂石	25	
128	G5	Ⅱ	打製石斧	16.6	6.0	2.3	374.9	泥岩	25	
129	E6	Ⅱ	磨石・敲石類	11.4	8.7	4.1	565.1	砂岩	25	
130	G5	Ⅱ	御物石器	10.2	18.9	6.7	1810.0	流紋岩	25	8

第４章　総括

第１節　掘立柱建物について

今回調査した平成 27 年度発掘区（以下、「ZBⅡ発掘区」という。）では、中世の掘立柱建物２棟（SB１・SB２）を検出した。当遺跡周辺ではこれまで中部縦貫自動車道建設などに伴い、多くの発掘調査が実施されているが、中世に属する掘立柱建物は、野内遺跡Ｄ地区（文化財保護センター2007）で７棟検出されているのみである。そこで、ZBⅡ発掘区と野内遺跡Ｄ地区の立地や遺構について比較し、SB１・SB２の性格について検討する。

まず、野内遺跡Ｄ地区[1)]について概要を示す。野内遺跡Ｄ地区は当遺跡南西側の扇状地の末端に位置し、縄文時代から中世にかけての複合遺跡である。竪穴建物や掘立柱建物、水田遺構などが検出されているが時期不明なものも多く、時期が明らかになっている遺構は古代に属するものが多い。この中で中世（12 世紀～13 世紀）に属する掘立柱建物は７棟あり、このうち SH２～SH７は四面庇を伴う特徴がある。建物の主軸は SH１～SH３・SH５など傾斜に対して平行・垂直になるように選択されている。また、SH２・SH５・SH７はそれぞれ SH３・SH４・SH６と同位置に建て替えを行っている。その際、建物の位置関係については、建て替え前の SH３・SH６は「建物跡が近接し若干ずれるような配置」[2)]、建て替え後の SH２・SH７は「建物跡が離れ並行するような配置」[3)]とされている（図 33）。また、報告書ではこれらの掘立柱建物の性格について、３つの視点から検討されている。１つ目は、「古代から谷水を利用し水田を営んできた区画に近接し、古代から中世の灌漑用水路と考えられる溝に主軸を合わせることから、水を管理する場所として機能していた」[4)]ことである。これについては「水を管理するために同時期に３棟の四面庇を持つ建物が建つことの必然性はない」[5)]こと、「水場に伴う祭祀遺物も出土していない」[6)]ことから立証に乏しいとする。２つ目は、「屋敷地のような居住域」[7)]の可能性があるのかについてである。これについても「掘立柱建物跡などの付帯施設がない」[8)]こと、「遺物の出土状況からみると、中世の集落遺跡と比較すると極端に遺物が少なく、人の生活を窺わせる資料に乏しい」[9)]ことなどから疑問が残るとする。３つ目は、集落のような居住域ではないとするならば、「寺仏堂的な建物」[10)]の可能性があるのかについてである。これについては「柱穴の直径は小さいものが多く、礎盤もない」[11)]こと、「柱配列が偶数のものが多く、入口中央に柱がくることになり、礼拝にも出入りにも差し障りがある」[12)]ことから疑問が残るとする。そして「居住域とは異なる性格の場所と想定できるが、その性格を立証するには資料や類例が乏しく特定はできない」[13)]と結論付けている。

今回確認した SB１・SB２は緩傾斜地に立地し、主軸は SH１～SH３・SH５と同じように傾斜に対して平行・垂直になるように設置されている。建物の時期は、SB１・SB２が 14 世紀後葉以前であり、SH１～SH７と時期が重なる可能性がある。掘立柱建物の構造は、SB１・SB２はともに総柱建物であり、SH２～SH７と構造が異なる。建物の建て替えについては、SB１の長軸方位と SB２の梁行方位が同じであることから、SB１・SB２が同時期の掘立柱建物と想定した場合、SB１・SB２周辺で確認した単独柱穴は１基であり、他の建て替えの建物跡は検出されておらず、SH２～SH７のように同位置に建て替え

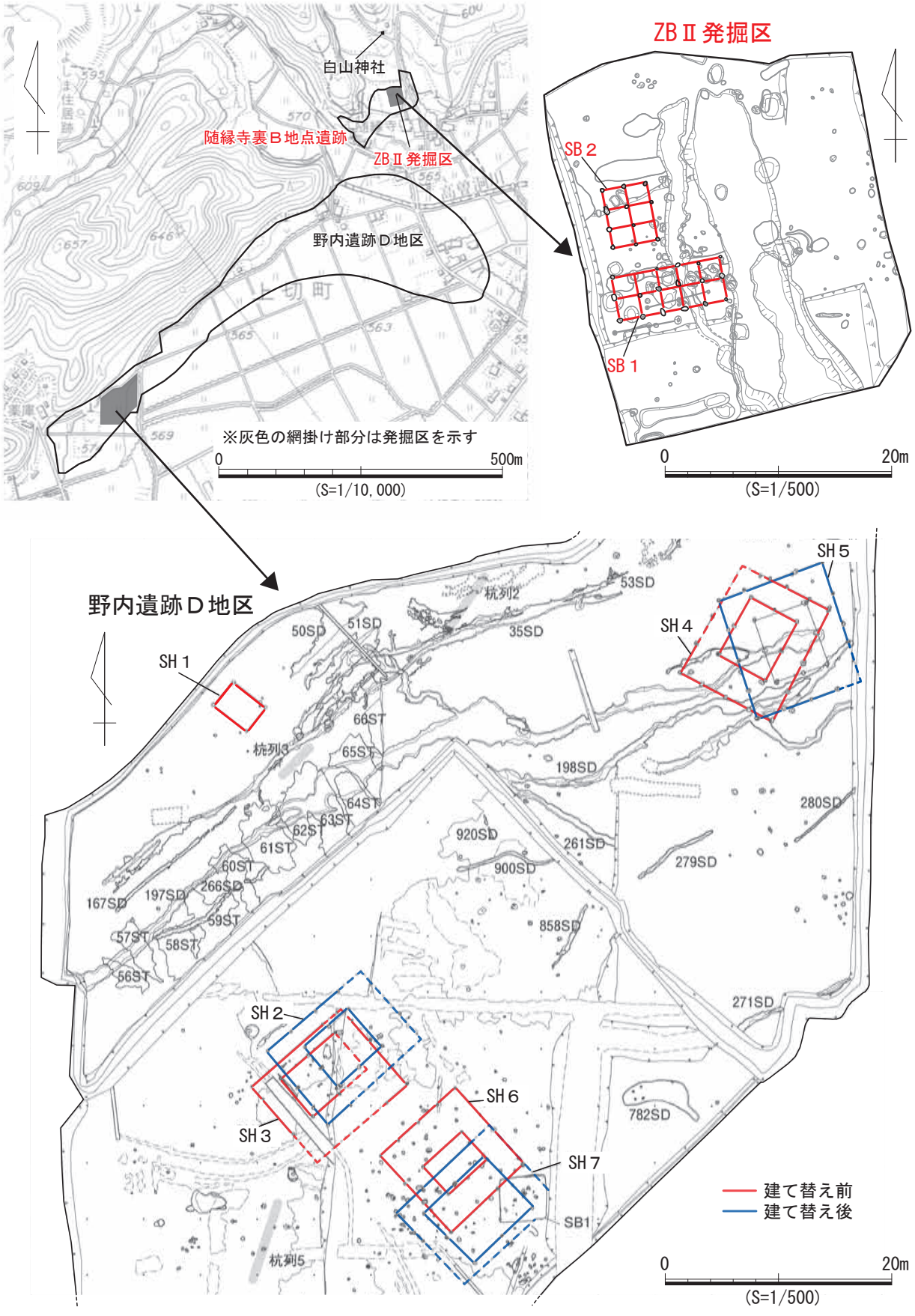


図 33　SB１・SB２、SH１～SH７の配置

を行っている状況とは異なる。建物跡の配置はSB１・SB２の距離は約３ｍであり、若干ずれる配置についても建て替え前のSH３・SH６と状況が類似する。

続いて、SB１・SB２の性格について、野内遺跡Ｄ地区において検討された３つの視点について考える。１つ目の視点にある水の管理場所としての機能については、ZBⅡ発掘区では当該期において灌漑用水路と考えられる溝は検出されておらず、状況が異なる。２つ目の視点にある「屋敷地のような居住域」についても、他の建て替えの建物跡は検出されていないこと、当該期の遺物が極端に少ない[14]ことから、野内遺跡Ｄ地区と同様に疑問が残る。３つ目の視点にある「寺仏堂的な建物」の可能性については、礎盤がない点は野内遺跡Ｄ地区と共通するが、付属柱穴の上端長軸長の平均はSH５を除いてSB１・SB２の方がやや大きい[15]。また、柱配列はSB１の桁行は奇数列であり、桁行中央に入口を設けて礼拝、出入りが可能である点はSH２～SH７とは異なる。さらに、野内遺跡Ｄ地区周辺では当該期の寺社仏閣は現段階で確認されていないが[16]、ZBⅡ発掘区の北側には白山神社が鎮座する（図34）。明治年間の地割によると、図34の破線部で示した道と同位置に里道が確認できる。この里道は白山神社に続く参道となっており、ZBⅡ発掘区はこの参道に近接している。白山神社の創立年代は不詳であるが、『上枝村史』によると「この地は昔、三枝別、または三枝連の本拠であったので、その族人が祖神を奉納した社であるといわれている。その後、鎌倉時代前期、後深草天皇の建長七（1255）年に河上荘が郡上郡長瀧寺白山社々領として再度寄進されて以来、同寺の社僧が年々配札に来て、その勧めにより白山神社を斎祀し、社号を改めたものであろう」とあり[17]、白山神社の沿革とSB１・SB２の時期が重なる可能性がある。以上のことから、ZBⅡ発掘区、野内遺跡Ｄ地区のそれぞれの寺社仏閣との関わりからみれば、３つ目の視点にある寺仏堂的な建物の可能性は検討の余地がありそうである。

ここまで、ZBⅡ発掘区と野内遺跡Ｄ地区の立地や遺構について比較、検討をしてみたが、現段階ではSB１・SB２の性格を特定することはできなかった。野内遺跡Ｄ地区を除き、飛騨地域において現在確認されているSB１・SB２と同時期の掘立柱建物は、西田遺跡（文化財保護センター1997）、上町遺跡（古川町教育委員会1991、1994）で確認されているのみであり、類例に乏しい。今後、当遺跡周辺の発掘調査や類例の増加をもって再度検討する必要がある。

表23　SB１・SB２、SH１～SH７の比較

遺跡	遺構名	柱間数		付属柱穴の上端長軸長の平均
		桁行	梁行	
当遺跡	SB１	5	2	0.43
	SB２	3	2	0.38
野内遺跡Ｄ地区	SH１	1	1	0.32
	SH２	2	2	0.32
	SH３	2	1	0.31
	SH４	2	2	0.36
	SH５	2	2	0.46
	SH６	2	1	0.25
	SH７	2	2	0.34

※表23ではSB１を桁行５間、梁行２間の総柱建物としての値を示しているが、桁行５間の柱間のうち、中央の柱間のみ若干狭いことから、東側と西側で桁行２間、梁行２間の別の総柱建物であった可能性もある。
※野内遺跡Ｄ地区では掘立柱建物を略号SHとしている。SH２～SH７は四面庇だが、表23には身舎部分のみの値を示す。

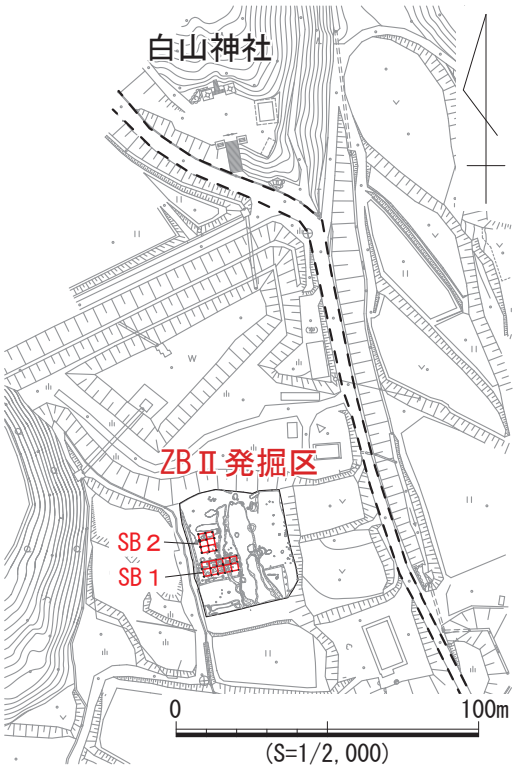


図34　ZBⅡ発掘区と白山神社の位置

第２節　土地利用の変遷

平成 25 年度発掘調査（以下、「ZB Ⅰ南地区」、「ZB Ⅰ北地区」という。）成果[18]と今回の発掘調査成果を踏まえ、時期毎の遺構や遺物に見られる特徴から土地利用の変遷を検討し、総括とする。

１　縄文時代

当該期の明確な遺構は検出されていないが、自然流路を検出した。自然流路の出土遺物から、ZBⅡ発掘区の NR017・NR032 は早期前半以降、ZB Ⅰ北地区の NR１及び ZB Ⅰ南地区の NR４は後期以降、ZB Ⅰ南地区の NR３は後期後半以降、ZB Ⅰ南地区の NR２は晩期以降の自然流路と考えられる。遺物では、時期を特定できたものの中では早期前半の深鉢（94～97）が最も古く、ZBⅡ発掘区の NR017・NR032 及び遺物包含層から出土した。周辺地域[19]で確認された早期の遺構は日焼遺跡[20]の煙道付炉穴２基、ウバガ平遺跡[21]の炉穴の可能性がある遺構１基及び焼礫集積遺構１基、三枝城跡[22]の焼礫集積遺構１

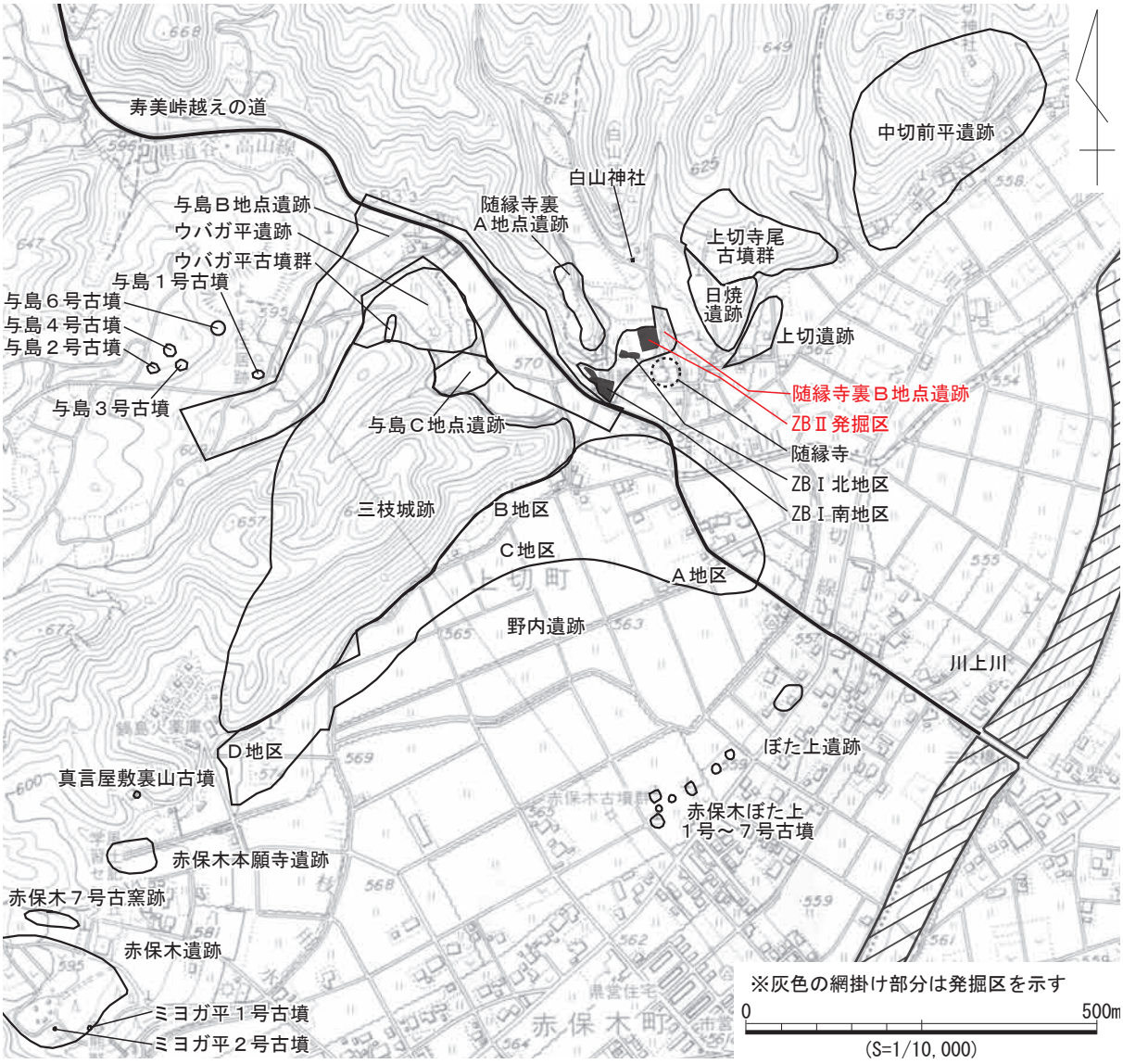


図 35　遺跡の立地[23]

基があり、これらの遺構は山麓尾根緩傾斜地に立地する（図 35）。当遺跡も同様の立地であることから、ZBⅡ発掘区周辺は当該期において何らかの活動があった可能性がある。その後は、ZBⅡ発掘区の NR017 及び遺物包含層から中期の遺物が３点確認されるのみで、限定的な土地利用であったと考えられる。遺物量が増加するのは後期後半であり、これらの約 61％が自然流路に伴う遺物である。ZBⅠ南地区の NR４の中央及び南東側では、後期後半の縄文土器がまとまって出土しており、遺物の摩滅が少ないことから一括廃棄された可能性がある。なお、NR２以外の自然流路では古代までの遺物が出土しており、埋没しながらも古代まで存続したと考えられる。周辺地域では後期後半以降の居住域は確認されていないが、三枝城跡、野内遺跡Ｂ地区[24]、野内遺跡Ｃ地区[25]の遺物包含層から後期の土器が出土していることから、当遺跡の周辺には後期以降の居住域があったことが想定され、そこで生活する人々が NR４における土器の一括廃棄に関わっていた可能性がある。

２　弥生時代

当該期では自然流路以外の明確な遺構は検出されていない。遺物では、時期を特定できたものの中では前期の甕１点が最も古く、ZBⅠ南地区の NR３から出土した。周辺地域で確認された前期の遺構は三枝城跡の土坑１基のみであり、当該期の遺物は周辺地域でも出土例が少なく、NR３周辺での限定的な土地利用であったと考えられる。中期になると遺物量が増加し、ZBⅡ発掘区の SD022、ZBⅠ南地区の SI２・NR３・SK110 などから出土し、前期と比べて土地利用の範囲が広がる。なお、NR３は中期後葉頃に埋没したと考えられる。後期・終末期の遺物は、各１点ずつのみである。後期の遺物は ZBⅠ南地区の遺物包含層から、終末期の遺物は ZBⅡ発掘区の SD022 から出土し、前期と同じような限定的な土地利用であったと思われる。高山市史（高山市教育委員会 2016）では周辺地域の遺跡の立地について、中期の遺跡の多くが谷戸に面した丘陵先端部や緩斜面に集落を構える一方で、後期後半以降は沖積地に面した丘陵先端部や緩斜面、自然堤防などの微高地に集落を構えると指摘する[26]。当遺跡の北西側にあるウバガ平遺跡は谷戸に面した緩斜面に位置し、中期後半の竪穴建物３軒、土坑１基が検出されており、「後期ないし古墳時代初頭に属するとみられるものはほとんどない」[27]とされている。当遺跡はウバガ平遺跡と同じ谷戸に面した緩斜面にあたり、遺物の主体となる時期の様相もウバガ平遺跡と類似することから、当遺跡周辺にも中期の居住域があった可能性がある。

３　古墳時代初頭～古墳時代後期

当該期では、自然流路以外の明確な遺構は検出されていない。当該期の遺物は ZBⅡ発掘区の NR017・NR032 からの出土であり、土師器は古墳時代前期頃の高坏（15～18、54～69）・甕（19～26、72～80）・甑（81）などが最も古い。須恵器は５世紀後葉の坏蓋（27）が最も古く、次いで６世紀初頭、６世紀後葉の須恵器が出土しており、NR017・NR032 周辺での断続的な土地利用があったと考えられる。一方、ZBⅠ北地区の NR１、ZBⅠ南地区の NR２・NR４からは当該期の遺物は出土していない。周辺地域では、中期に野内遺跡Ａ地区[28]で大規模な集落が形成され、５世紀前半の須恵器が確認されている。また、報告書では「当時にあっては須恵器は一般庶民のための実用品というより特別な階層のための貴重品の域にとどまっていたと判断される」[29]とした上で、遺跡の性格について「須恵器を持つことのできた富裕層の集落域と捉えることができる」[30]と結論付けている。周辺地域では、野内遺跡Ｄ地区で５世紀代の須恵器が確認されており、これらも含めて野内遺跡Ａ地区で確認された飛騨地域への須恵器導入以降、５世紀代の須恵器が持ち込まれていたことを示す重要な資料と思われる。

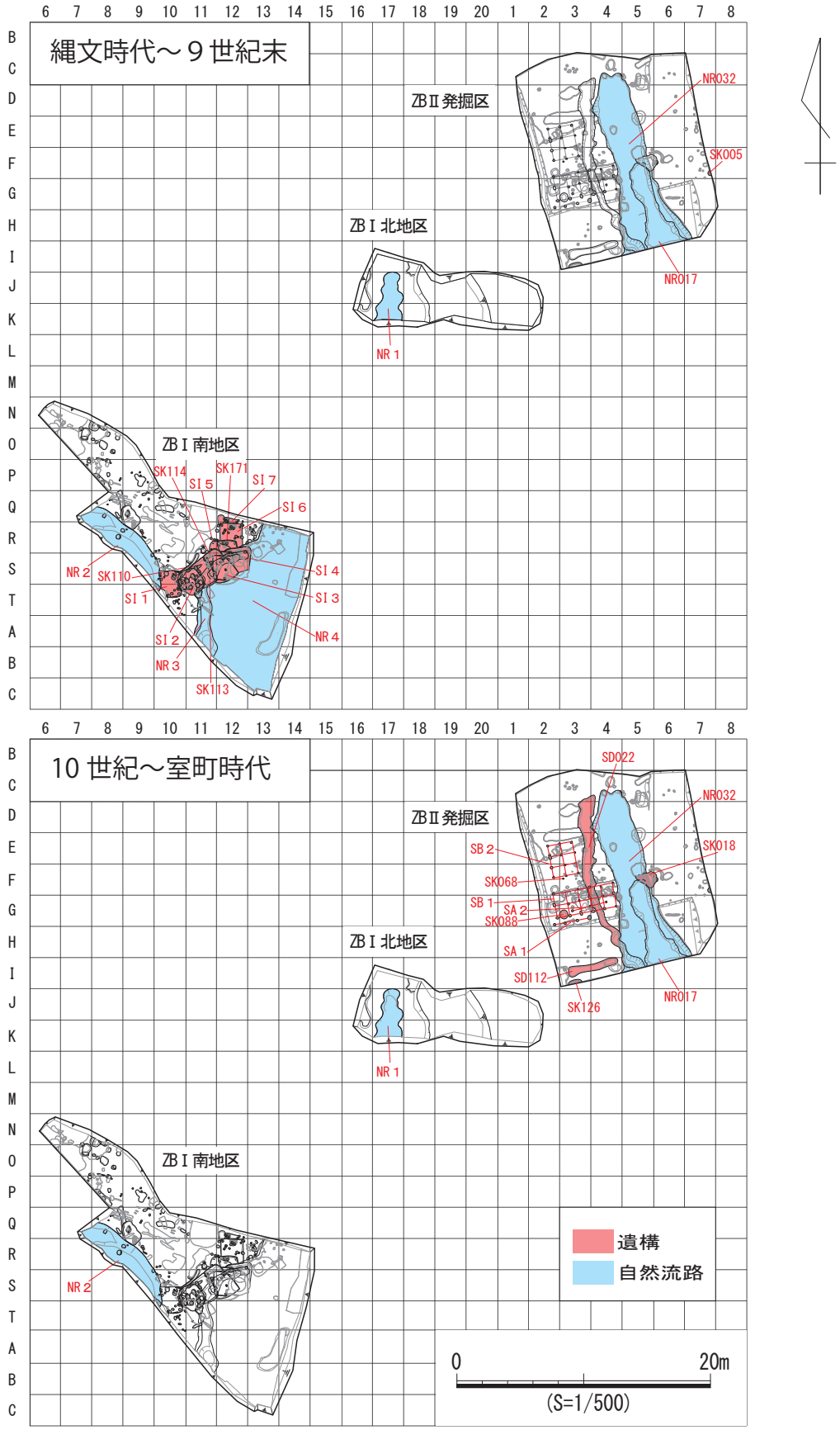


図 36　随縁寺裏Ｂ地点遺跡主要遺構配置図

４　古墳時代終末期～９世紀末

当該期の遺構として竪穴建物７軒、土坑４基を検出した。古墳時代終末期～奈良時代前半には、ZBⅠ南地区で SI１～SI７が造営される。なお、SI３・SI４は NR４埋土上で検出していることから、SI３・SI４周辺の NR４は埋没していたと考えられるが、建物と同時期の遺物が出土していることから（ZBⅠ北地区の NR１の１層、ZBⅠ南地区の NR２の２層、３層・NR４の１層）、周辺の自然流路の一部は窪地として存在していたと考えられる。SI１～SI７の上端規模の長軸長は 3.20m～5.02mを測り、主軸は地形の傾斜に沿って北からやや西に振るものが多く、北東から南西へ向かって建物が新しくなる傾向がある。SI１～SI７の重複から、同時期に存在した竪穴建物は少ないと考える。周辺地域では、日焼遺跡で同時期の竪穴建物 35 軒を検出しており、谷筋を挟んで東西に位置する当遺跡と日焼遺跡において、掘立柱建物と竪穴建物が併存する時期がある。日焼遺跡の報告書では、竪穴建物の時期を７世紀後葉と８世紀前葉に区分した場合、各時期ごとに大型の竪穴建物[31]が１軒ずつ建てられ、その周辺にそれぞれ小さい竪穴建物[32]が建てられていたことを指摘している[33]。当遺跡と日焼遺跡の竪穴建物を比較しても、当遺跡では日焼遺跡のような大型の竪穴建物は検出されていないことから、SI１～SI７は日焼遺跡の竪穴建物群と比較すると小規模な居住域であったと捉えることができる。なお、ZBⅡ発掘区の NR017・NR032 からは古墳時代終末期～９世紀末までと、より時期幅の広い須恵器が出土した。摩滅が少ない遺物が大半を占めることから、ZBⅡ発掘区では ZBⅠ南地区の居住域が廃絶して以降も遺物の廃棄場所として利用されていた可能性が考えられる。

５　10 世紀～平安時代後期

当該期の遺構として、柱穴列２列及び土坑１基を確認した。ZBⅡ発掘区では、11 世紀以降に柱穴列 SA１・SA２が設置されるが、何を区画していたかについては定かではない。また、SA１・SA２の所属時期について 11 世紀以降と報告したが、人工層位 a 層から出土した灰釉陶器１点のみで時期決定を行ったものであり明確ではない。むしろ、SA１は中世の掘立柱建物である SB１と主軸方位が同じであることから、SB１と関連のある柱穴列の可能性も考えられる。周辺地域でも 10 世紀後半には野内遺跡Ｂ地区、日焼遺跡での村落及び宗教施設とされる礎石建物の衰退が顕著で、周辺地域における 11 世紀以降の遺構・遺物の資料は乏しい。今後の調査により当該期の様相が明らかになることが期待される。なお、ZBⅠ北地区の NR１、ZBⅠ南地区の NR２、ZBⅡ発掘区の NR017・NR032 からは灰釉陶器の瓶類（92）などが出土していることから、これらの自然流路の最終埋没期は平安時代後期と考えられる。

６　鎌倉時代、室町時代

当該期の遺構として、ZBⅡ発掘区で掘立柱建物２棟、土坑４基、溝２条を検出した。SB１・SB２は第１節でも示したように、同時期に存続した可能性がある。また、SB１・SB２周辺に位置する SK068・SK088、東側に位置する SK018 からは龍泉窯系の青磁碗（５～７）が、SB１の南側に位置する SD112 からは古瀬戸後Ⅰ期の卸皿（13）や擂鉢型小鉢（14）が出土した。これらの遺構は ZBⅡ発掘区西側に集中し、SB１・SB２・SD112 は主軸が揃う。14 世紀後葉頃には SB１と直交するように SD022 が位置することから、当該期以前には SB１は廃絶したと考えられる。なお、SB１の南側から SD112 に至るまでの範囲は削平の影響によって遺構が消失した可能性がある。周辺地域においても、古代以前の遺物の出土割合と比較すると中世に属する遺物の出土割合は極端に少なく、当該期の資料に乏しい。今後の調査事例の増加による資料の蓄積をもって当該期の様相を再度検討する必要がある。

注

１）　財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2007『野内遺跡Ｄ地区』（岐阜県文化財保護センター調査報告書 108 集）

２）　前掲１）、114 頁。建物跡の距離は約３ｍを測る。

３）　前掲１）、114 頁。建物跡の距離は約 10ｍを測る。

４～13）　前掲２）

14）　当遺跡で出土した中世遺物は、土器類全体の約 1.5%（第３章第２節）であるのに対し、野内遺跡Ｄ地区で出土した中世に属する遺物は、土器類全体の約 2.6%であり、総じて少ない傾向にある。なお、野内遺跡Ｄ地区の土器類全体に占める中世に属する遺物の割合は前掲１）の第４表を基に算出した。

15）　表 23 の付属柱穴の上端平均に着目すると、長軸長は SB１が 0.43m、SB２が 0.38ｍである。SH５の 0.46ｍを除き SH１～SH４・SH６・SH７より大きい値を示す。

16）　ZBⅡ発掘区の南側には随縁寺が位置するが、高山市史（高山市 1953）によると「開基了善は明應六（1497）年八月二十日本願寺実如法王より本尊を下附せらる」とあり、SB１・SB２の存続時期とは一致しない。

17）　上枝村史編纂委員会 2000『上枝村史』、650 頁

18）　財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2015『随縁寺裏Ｂ地点遺跡』（岐阜県文化財保護センター調査報告書 134 集）

19）　ここでいう「周辺地域」は、川上川左岸に位置する図 35 で示した遺跡を含む範囲を指す。図 35 は 20）に掲載した図 386 に加筆して作成した。

20）　岐阜県文化財保護センター2021『上切寺尾古墳群　日焼遺跡』（岐阜県文化財保護センター調査報告書 154 集）

21）　岐阜県文化財保護センター2010『ウバガ平遺跡　ウバガ平古墳群』（岐阜県文化財保護センター調査報告書 112 集）

22）　岐阜県文化財保護センター2011『三枝城跡』（岐阜県文化財保護センター調査報告書 116 集）

23）　前掲 19）

24）　財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2009『野内遺跡Ｂ地区』（岐阜県文化財保護センター調査報告書 111 集）

25）　岐阜県文化財保護センター2012『野内遺跡Ｃ地区』（岐阜県文化財保護センター調査報告書 122 集）

26）　高山市教育委員会 2016『高山市史　先史時代から古代編（下）』、高山市教育委員会

27）　前掲 21）、112 頁

28）　財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2007『野内遺跡Ａ地区』（岐阜県文化財保護センター調査報告書 102 集）

29）　前掲 27）、137・138 頁

30）　前掲 27）、138 頁

31）　前掲 20）では便宜上、竪穴建物の上端規模の長軸長が 7.92ｍ～9.60ｍの竪穴建物を大型の竪穴建物、2.70ｍ～5.96ｍの竪穴建物を小さい竪穴建物と表している。

32）　前掲 31）

33）　前掲 20）、178 頁

引用・参考文献

愛知県史編さん委員会 2007『愛知県史』別編　窯業２　中世・近世　瀬戸系
愛知県史編さん委員会 2010『愛知県史』資料編　考古４　飛鳥～平安
愛知県史編さん委員会 2015『愛知県史』別編　窯業１　古代　猿投系
赤塚次郎 2002『考古資料大観２　弥生・古墳時代　土器Ⅱ』、小学館
赤塚次郎 2005「第１章第３節　時期区分」『愛知県史　資料編３　考古３　古墳』、愛知県
小野正敏 2001『図解・日本の中世遺跡』、財団法人東京大学出版会
小林達雄 1994『縄文土器大観　１草創期　早期　前期』、小学館
岐阜県文化財保護センター2010『ウバガ平遺跡　ウバガ平古墳群』（岐阜県文化財保護センター調査報告書 112 集）
岐阜県文化財保護センター2012『野内遺跡Ｃ地区』（岐阜県文化財保護センター調査報告書 122 集）
岐阜県文化財保護センター2015『随縁寺裏Ｂ地点遺跡』（岐阜県文化財保護センター調査報告書 134 集）
岐阜県文化財保護センター2021『上切寺尾古墳群　日焼遺跡』（岐阜県文化財保護センター調査報告書 154 集）
財団法人岐阜県文化財保護センター1997『西田遺跡』（岐阜県文化財保護センター調査報告書 29 集）
財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2007『野内遺跡Ａ地区』（岐阜県文化財保護センター調査報告書 102 集）
財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2007『野内遺跡Ｄ地区』（岐阜県文化財保護センター調査報告書 108 集）
財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2009『野内遺跡Ｂ地区』（岐阜県文化財保護センター調査報告書 111 集）
城ヶ谷和弘 2010「第１章第３節　編年及び編年表　土師器・須恵器・施釉陶器（緑釉・灰釉）」『愛知県史　資料編４　考古飛鳥～平安』、愛知県
高山市 1953『高山市史　下巻』
高山市教育委員会 1971『冬頭大塚古墳発掘調査報告書』
高山市教育委員会 1975『飛騨国分寺瓦窯発掘調査報告書』
高山市教育委員会 1990『飛騨国分尼寺発掘調査報告書』
高山市教育委員会 1993『前平山稜遺跡　赤保木遺跡発掘調査報告書』
高山市教育委員会 1995「１　赤保木５号古墳」『高山市内遺跡発掘調査報告書』
高山市教育委員会 1998『中切上野遺跡発掘調査報告書』
高山市教育委員会 2001「４　飛騨国分寺跡」『高山市内遺跡発掘調査報告書』
高山市教育委員会 2005「４　赤保木８号古窯跡」『高山市内遺跡発掘調査報告書』
高山市教育委員会 2005「10　平野遺跡・平野１号古窯跡」『高山市内遺跡発掘調査報告書』
高山市教育委員会 2016『高山市史　先史時代から古代編（下）』、高山市教育委員会
第９回東海考古学フォーラム尾張大会実行委員会 2002『東海の中世集落を考える－考古学から中世の

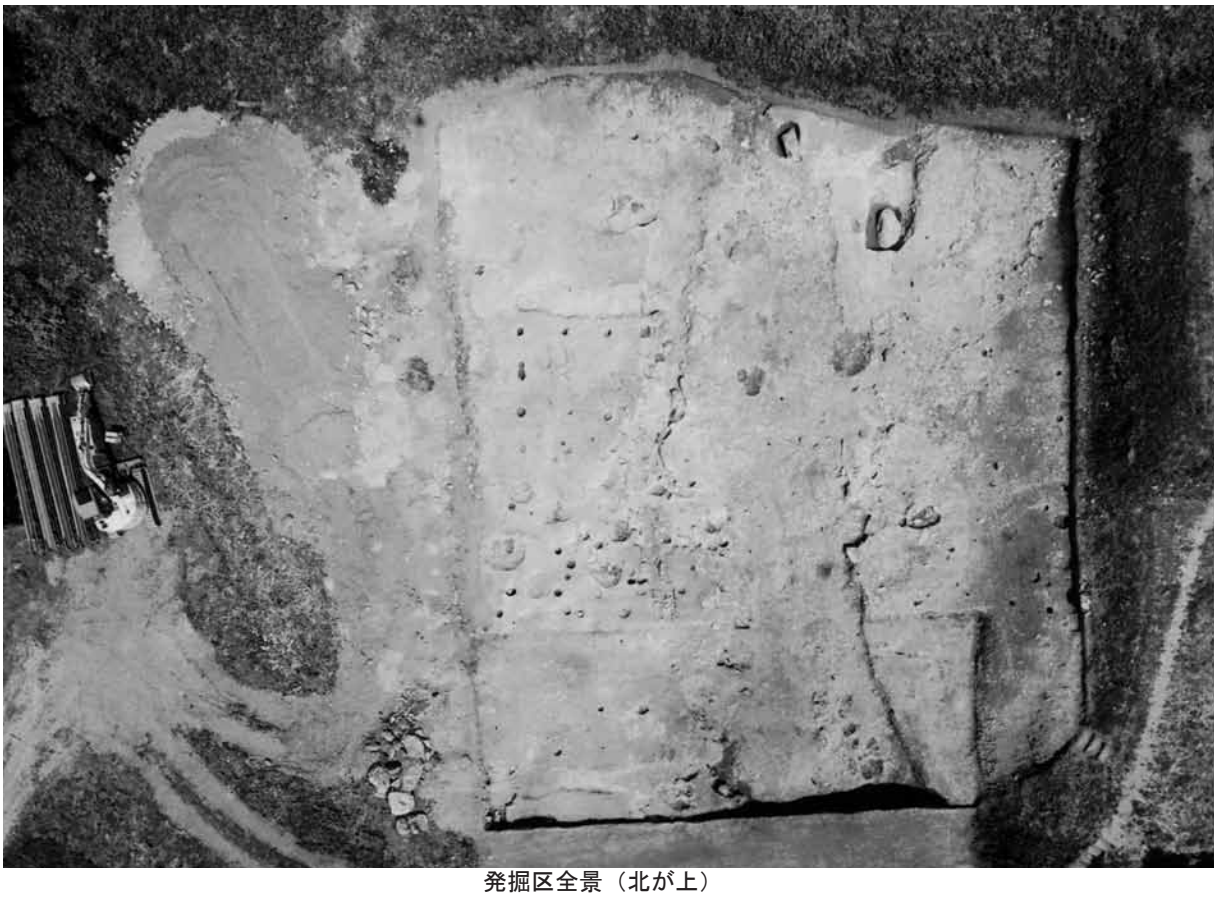
ムラをどう読み解くかー』
太宰府市教育委員会 2000『太宰府市の文化財　第 49 集　太宰府条坊跡 XV－陶磁器分類編－』
髙橋浩二 2000「古墳出現期における越中の土器様相－弥生時代後期から古墳時代前期前半土器の編年的位置付け」『庄内式土器研究』ＸＸⅡ、庄内式土器研究会
田中啄・佐原真 2003『日本考古学辞典』、株式会社三省堂
中尾七重 2012「古渡路遺跡の中世掘立柱建物について：架構等の復元とその特徴」『文化学園大学紀要．服装学・造形学研究』、文化学園大学
兵頭勲 2008「押型文土器」『総覧　縄文土器』、株式会社アム・プロモーション
上枝村史編纂委員会 2000『上枝村史』
宮本長二郎 1999「日本中世住居の形成と発展」『建築史の空間－関口欣也先生退官記念論文集』、中央公論美術出版
渡邉博人 1984『美濃須衛古窯跡群資料調査報告書』、各務原市教育委員会
渡邉博人 1996「美濃の後期古墳出土須恵器の様相－蓋坏の型式設定とその編年試案－」『美濃の考古学』創刊号、「美濃の考古学」刊行会
渡邉博人 2008「美濃須衛窯について」『2008 年度愛知県大会研究発表資料集』、日本考古学協会 2008 年度愛知県大会実行委員会

発掘区遠景（北東から）

発掘区遠景（南西から）

図版２　発掘区全景

発掘区全景（北西から）



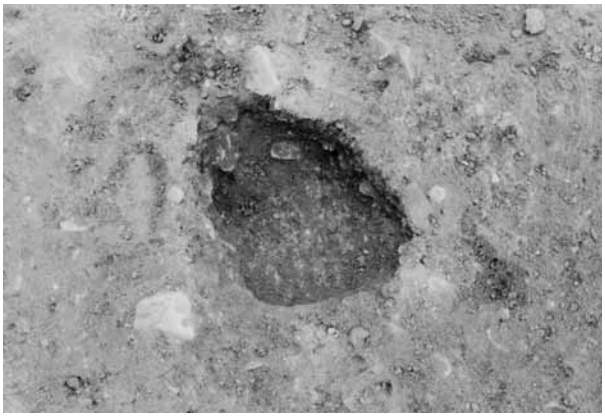
発掘区全景（北が上）

SB１-SP020　完掘状況（南から）

SB１-SP058　完掘状況（北西から）

SB１-SP142　完掘状況（南から）

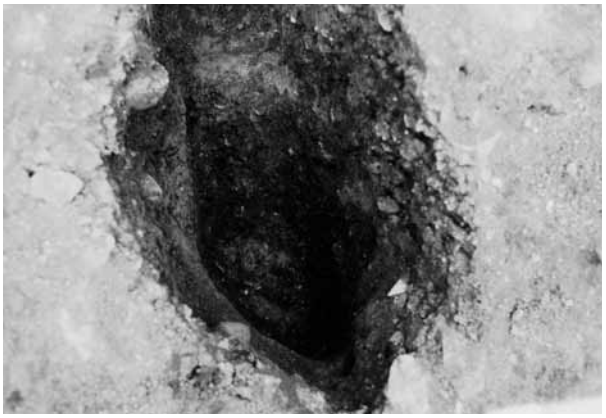
SB１-SP157 礫出土状況（南から）



SB２-SP139　完掘状況（南西から）

SB２-SP160　完掘状況（南から）

SB２-SP161　完掘状況（南から）



SB２-SP163　完掘状況（南から）

図版４　掘立柱建物、溝、自然流路

SB１　完掘状況（北が上）

SB２　完掘状況（北が上）

SD022　土層断面（南から）

SD022　北半部　完掘状況（南から）

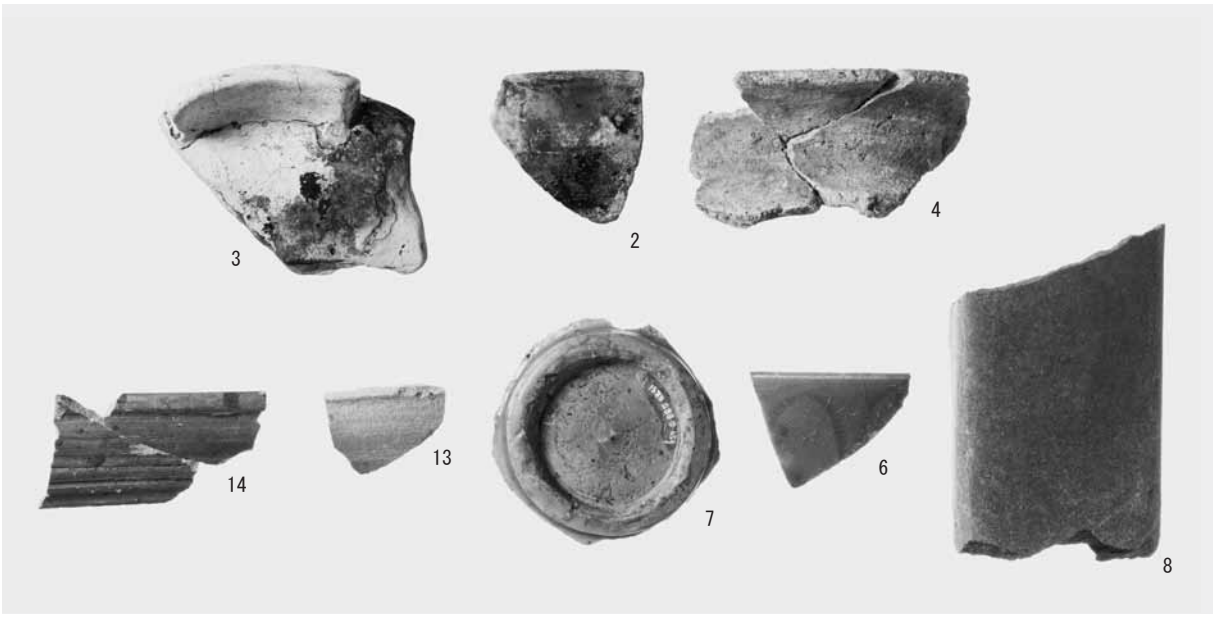
SD022　完掘状況（南から）

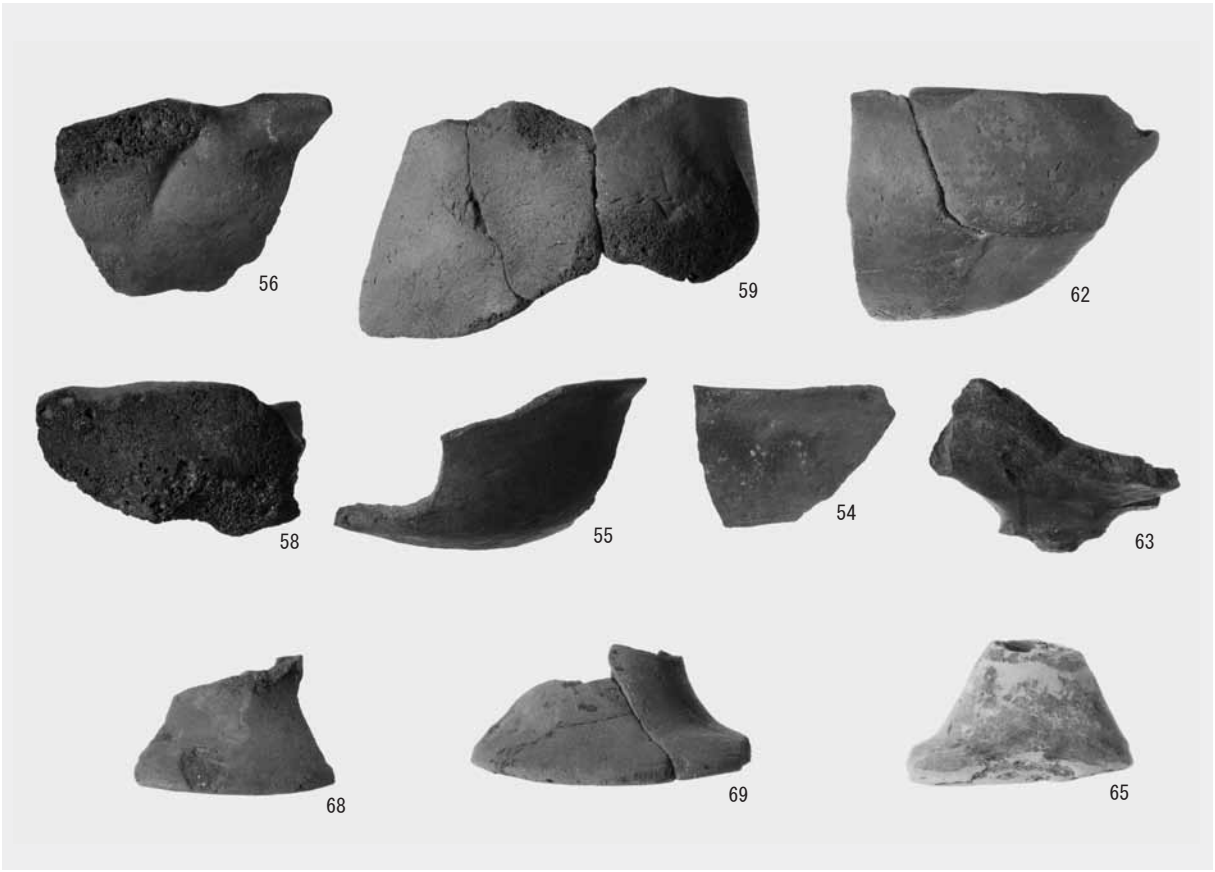
NR032　完掘状況（北から）

NR017　土層断面（南から）

NR017　完掘状況（南から）

1
12
11
10
9


3
2
4
14
13
7
6
8


56
59
62
58
55
54
63
68
69
65

図版６　出土遺物２

18

28

30

35

43

44

45

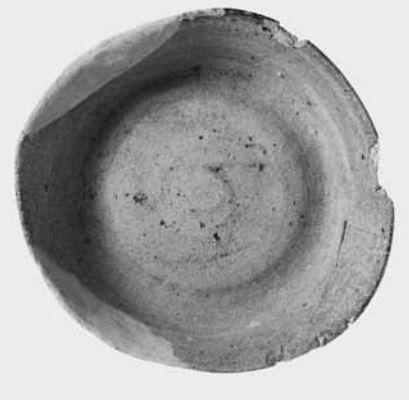
47

57

64

66

67



1

106

104

107

108

122

114

115

95

94

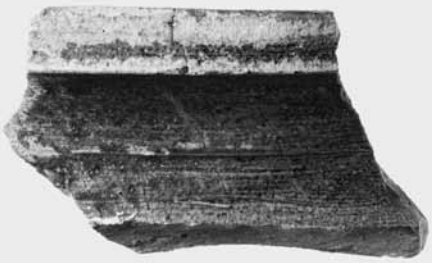
97

96

図版８　出土遺物４

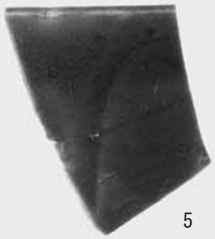
109

112

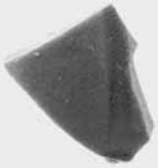


121

123



5



124

130

報　告　書　抄　録

ふりがな	ずいえんじうらＢちてんいせき２
書名	随縁寺裏Ｂ地点遺跡Ⅱ
シリーズ名	岐阜県文化財保護センター調査報告書
シリーズ番号	第155集
編著者名	柳坪武志・中野真吾
編集機関	岐阜県文化財保護センター
所在地	〒502-0003　岐阜市三田洞東1-26-1　℡058-237-8550
発行年月日	2022年３月４日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
随縁寺裏Ｂ地点遺跡	岐阜県高山市上切町	21203	11313	36° 16' 8"	137° 23' 13	20150624 ～ 20150827	850	記録保存調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
随縁寺裏Ｂ地点遺跡	散布地	縄文時代 弥生時代 古墳時代 古代 中世	掘立柱建物　２棟 柱穴列　２列 単独柱穴　４基 土坑　99基 溝　４条 自然流路　２条	縄文土器　28点 弥生土器・土師器　968点 須恵器　475点 灰釉陶器　140点 中近世陶磁器　26点 石器類　41点 金属製品　１点	中世の掘立柱建物を確認。

要　約

随縁寺裏Ｂ地点遺跡は、川上川左岸丘陵部の緩傾斜地に位置する散布地である。発掘区西側で確認した掘立柱建物２棟は共に総柱建物であり、14世紀後葉を下限とする中世の建物であることが判明した。この掘立柱建物２棟は近接しており、主軸が同じであることから、同時期の建物と想定される。

遺物は、縄文時代から江戸時代までの幅広い時期の遺物が確認できた。自然流路からは５世紀後葉の坏蓋、佐波理碗写しの無台坏、瑯、横瓶などの特徴的な須恵器が出土した。５世紀後葉の須恵器は周辺地域からの出土例が少なく、貴重な資料である。これらの須恵器は擦れていない遺物が大半を占めることから、自然流路に廃棄された可能性がある。また、遺構外出土遺物では、御物石器、底面に墨書がある無台坏などが出土した。

岐阜県文化財保護センター調査報告書　第155集

随縁寺裏Ｂ地点遺跡Ⅱ

2022年３月４日

編集・発行　岐阜県文化財保護センター
岐阜市三田洞東1-26-1
印　　刷　株式会社もとすいんさつ